

F D活動報告書

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)

第6号

平成22年度(春・秋学期)



関西大学大学院会計研究科

教務・FD委員会

平成23年3月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法	2
(5) 対象科目リスト	3
II 22年度授業評価アンケート結果概要	7
III 22年度授業評価アンケートフォーム	97
IV 講演会	101

はじめに

FD活動は日常的に教育改善を行うのに必須の活動である。本研究科では、教育内容の改善に向けて、不断の努力を行っている。とはいえ、教育効果は教授者と学習者の双方のインタラクションの在り方に依存するという関係にある。そこで、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価を行ってきた。この授業評価はFD活動の柱となってきている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及びFD委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

繰り返しになるが、以上のような授業評価アンケートは、本研究科が専門職大学院としての教育水準を継続的に向上させることを目的として、それを実施し、その結果を分析し、教育にフィードバックするためのものであり、FD活動のひとつである。また、第三者評価制度の導入（「学校教育の一部を改正する法律」（2002年）による）により、専門職大学院としての研究教育活動についての評価を、評価機関から定期的に受けることが求められている。これは、大学教育の質に関する新たな保証システムとして導入された制度であり、本研究科もこの評価を受けることを意識して普段から教育水準の維持・向上に努めている。

FD活動報告書第1号は、本研究科に在籍する学生が1年次生のみであったこと等の事情で平成18年度春学期に開催されたすべての1年次配当科目に対する授業評価を収録した。報告書第2号は、平成18年度秋学期科目と平成19年度春学期科目に対する授業評価を収録した。しかし、異なる年度の評価を同時に収録することの不便を経験したため、報告書第3号では、平成19年度の秋学期科目のみ収録して、調整を図った。そして報告書第4号から当該年度の1年分の科目を収録することとした。これら4冊の報告書は自己点検評価報告書第2号（平成21年3月）とともに分野別認証評価に際して提供された。本研究科はこの認証評価ですべての基準を満たし、認定会計大学院の称号を得た。報告書第5号は分野別認証評価後の最初の報告書であった。そして、このたび報告書第6号の発刊に至った。

以上の授業評価に加えて、①三年前から1年次・2年次で共通問題による試験を年度末に行い、試験結果をFD活動に反映させることとした、②スタッフによる教科書作成を企画し、可能なものから発行していること、③学生の学習力の差に配慮したカリキュラム内外での対応を実施していること、④本研究科の教育顧問や客員教授による有益なセミナーを実施していること、⑤非常勤講師等とのコミュニケーションの充実をはかり教授者のインセンティブを高めていること、⑥これらに関して日常的に話し合いの場を設けていること、など具体的にFD活動を充実させてきた。

すべての教職員が本研究科の設立の趣旨を確認し、必要な教育改善は絶え間なく行うこととしているが、このFD活動報告書の作成を通じてあらためて問題を真摯に分析する機会としている。

平成23年3月

会計研究科長 柴 健次

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、平成 22 年度の春学期と秋学期に開講されたすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目が 15 回の講義が実施される。最終講義日の前回である第 14 回目（論文指導・修士論文では 29 回目）の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務室に返却され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

専任教員が担当する科目では、各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。非常勤講師が担当する授業科目については、担当教員へアンケート集計結果及び本報告書を送付している。

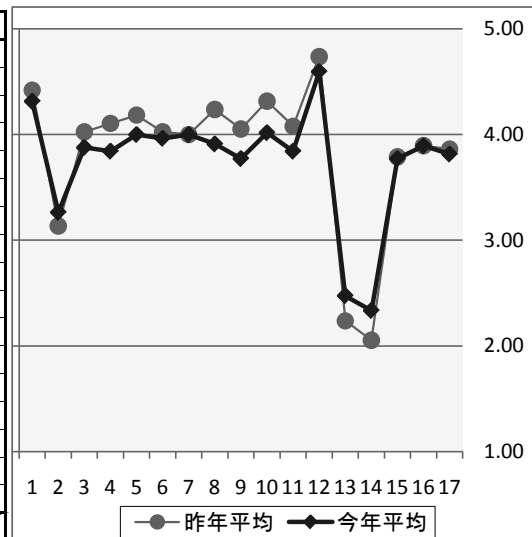
類別	授業科目	単位	配当年	系統	開講学期	頁		
基本科目群	理論科目 必修科目	会計専門職業倫理	2	2	横断科目	春・秋	7	
		上級簿記	2	1	財務会計系	春・秋	8	
		上級財務会計論<財務会計論>	2	1	財務会計系	春・秋	—	
		上級原価計算論	2	1	管理会計系	秋	9	
		上級管理会計論	2	1	管理会計系	秋	10	
		監査制度論	2	1	監査系	春	11	
		監査基準	2	1	監査系	春・秋	12	
	企業法<企業法入門>	2	1	法律系	春	13		
	理論科目	会計専門職業数学	2	1	横断科目	春	14	
		会計基準論	2	1	財務会計系	秋	15	
		会計制度論	2	1	財務会計系	春	16	
		財表作成簿記<特殊簿記>	2	1	財務会計系	秋	17	
		戦略管理会計論	2	1	管理会計系	不開講	—	
上級税務会計論		2	1	税務会計系	春	18		
租税法会計論		2	1	税務会計系	秋	19		
公会計理論		2	1	公会計系	秋	20		
監査実施論		2	1	監査系	秋	21		
監査報告論		2	1	監査系	秋	22		
商法		2	1	法律系	春	23		
中級会社法<会社法>		2	1	法律系	秋	24		
民法(総則・物権)<民法>		2	1	法律系	秋	25		
経営学理論		2	1	経営系	春	—		
インベストメント論		2	1	ファイナンス系	春	26		
コーポレート・ファイナンス論		2	1	ファイナンス系	不開講	—		
ミクロ経済学		2	1	経済・統計系	秋	27		
統計学		2	2	経済・統計系	秋	—		
国際会計基準論		2	2	財務会計系	春	28		
国際会計制度論		2	2	財務会計系	春	—		
企業分析論		2	2	管理会計系	春	29		
コストマネジメント論		2	2	管理会計系	春	—		
上級税務戦略論		2	2	税務会計系	秋	—		
公監査論		2	2	公会計系	春	—		
発展科目群		選択必修科目	政府・自治体会計論	2	2	公会計系	春	30
			国際監査制度論	2	2	監査系	春	—
			金融商品取引法<証券取引法>	2	2	法律系	春	31
	上級会社法		2	2	法律系	春	32	
	租税法理論<租税法>		2	2	法律系	春	33	
	民法(債権)		2	2	法律系	春	34	
	経営戦略論		2	2	経営系	秋	—	
	経営組織論		2	2	経営系	秋	—	
	資本市場論		2	2	ファイナンス系	春	—	
	マクロ経済学		2	2	経済・統計系	春	35	
	会計事例研究		2	1	財務会計系	春	36	
	管理会計事例研究		2	1	管理会計系	秋	—	
	監査事例研究		2	1	監査系	秋	37	
	基本会計プログラム演習		2	1	IT・ビジネススキル系	秋	38	
	基本監査プログラム演習		2	1	IT・ビジネススキル系	秋	39	
実践科目	選択必修科目	BATIC演習	2	1	IT・ビジネススキル系	春	40	
		IFRS実務	2	1	財務会計系	秋	41	
		ディスクロージャー実務	2	2	財務会計系	春	—	
		税務会計事例研究	2	2	税務会計系	春	—	
		企業法判例演習<判例演習>	2	2	法律系	秋	—	
		起業・株式公開事例研究	2	2	経営系	春	—	
		実践会計プログラム演習	2	2	IT・ビジネススキル系	春	42	
		実践監査プログラム演習	2	2	IT・ビジネススキル系	夏集	—	
		アカデミック・ソリューションA	1	1	個別演習科目	春	43-48	
		アカデミック・ソリューションB	1	1	個別演習科目	秋	49-56	
		プロフェッショナル・ソリューション	1	2	個別演習科目	春	57-61	
		プロフェッショナル・ソリューション	1	2	個別演習科目	秋	62-67	
		論文指導・修士論文	4	2	個別演習科目	通年	68-69	

類別	授業科目	単位	配当年	系統	開講学期	頁	
基本科目群	理論科目 選択科目	特殊講義(企業経営を取り巻く会計の課題と方向)	2	1・2	横断科目	春	—
		特殊講義(リソネ銀行寄付講座ターンアラウンド論)	2	1・2	横断科目	不開講	—
		英文会計論	2	2	財務会計系	秋	—
		会計戦略論	2	2	財務会計系	春	70
		無形資産会計論	2	2	財務会計系	春	71
		金融商品会計論	2	2	財務会計系	春	72
		企業結合会計論	2	2	財務会計系	秋	—
		企業価値マネジメント論<企業価値計算論>	2	2	管理会計系	春	73
		会計情報システム	2	2	管理会計系	秋	74
		国際税務戦略論	2	2	税務会計系	春	—
		非常利会計論	2	2	公会計系	秋	75
		国際公会計制度論	2	2	公会計系	秋	76
		保証業務論	2	2	監査系	春	77
	内部監査論	2	2	監査系	春	—	
	不正摘発監査論	2	2	監査系	春	—	
	法人税法	2	2	法律系	秋	—	
	行政法	2	2	法律系	秋	—	
	プロダクト・マネジメント論	2	2	経営系	春	—	
	国際経営論	2	2	経営系	不開講	—	
	リスク分析論	2	2	ファイナンス系	春	—	
	中小企業金融論	2	1・2	ファイナンス系	春	—	
	国際財務戦略論	2	2	ファイナンス系	春	78	
	公共経済学	2	2	経済・統計系	秋	79	
	XBRL論	2	2	IT・ビジネススキル系	秋	—	
	実践科目	国際会計事例研究	2	2	財務会計系	秋	—
		国際管理会計事例研究	2	2	管理会計系	秋	—
		国際税務会計事例研究	2	2	税務会計系	秋	—
		公会計・公監査事例研究	2	2	公会計系	秋	—
		国際監査事例研究	2	2	監査系	春	—
		企業再生事例研究	2	2	経営系	秋	—
		リサーチ・メソドロジー	2	2	IT・ビジネススキル系	不開講	—
国際コミュニケーション論		2	2	IT・ビジネススキル系	秋	—	
会計系科目		平均	財務会計系				80
			管理会計系				81
	税務会計系					82	
	公会計系					83	
	監査系					84	
	非会計系科目	平均	法律系				85
			経営系				—
			ファイナンス系				86
			経済・統計系				87
			IT・ビジネススキル系				88
個別演習科目(アカデミック・ソリューションA)					89		
個別演習科目(アカデミック・ソリューションB)					90		
個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションA)					91		
個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションB)					92		
系別平均					93		

Ⅱ. 22 年度授業評価アンケート結果概要

科目	会計専門職業倫理		
配当年次	2	開講時限	春:月1/秋:月3
受講者数	62	回答者数	57

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.32	5	5	2
2	3.14	3.26	3	5	3
3	4.03	3.88	5	5	2
4	4.11	3.84	5	5	1
5	4.18	4.00	4	5	1
6	4.03	3.96	5	5	1
7	4.00	4.00	4	5	2
8	4.24	3.91	5	5	2
9	4.05	3.77	5	5	2
10	4.32	4.02	5	5	2
11	4.08	3.84	5	5	1
12	4.74	4.60	5	5	1
13	2.24	2.47	1	5	1
14	2.05	2.33	1	5	1
15	3.79	3.77	5	5	1
16	3.89	3.89	5	5	1
17	3.86	3.81	5	5	1
回答者数	39	57			



受講生の傾向

一般的に前回同様の傾向がみられる。内容にはほぼ満足しており、出席率も前回以上に増加している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- ・2010秋学期から、出席順にグループが固定化しないような工夫をした。
- ・積極的な参加を促進するため、配点にも留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

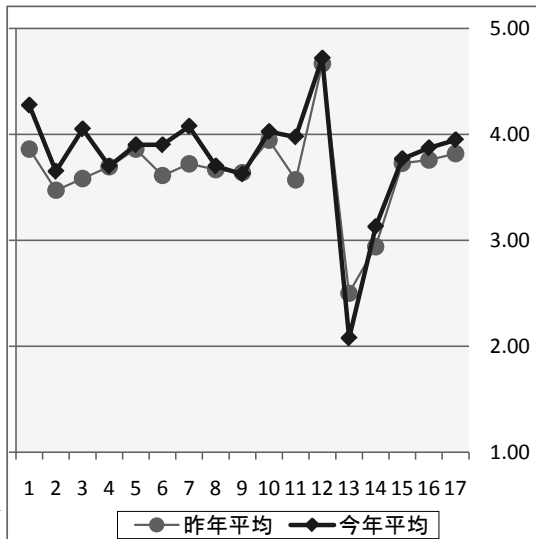
班単位の発表等は好評であった。ただし、班構成員の組み合わせを出席順にすると同じ人物ばかりがグループとなることについてクレームがあった。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- ・大学院協会での議論を踏まえ、内容的に理論、制度、実践のバランスに留意する(特に理論面の強化)。
- ・グループワーク等積極的な参加を促すための採点基準の工夫。
- ・グループワークが苦手な学生に対する留意。

科目	上級簿記		
配当年次	1	開講時限	春2・3/木2
受講者数	69	回答者数	40

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.86	4.28	4	5	2
2	3.47	3.65	3	5	2
3	3.58	4.05	4	5	2
4	3.69	3.70	4	5	1
5	3.86	3.90	4	5	2
6	3.61	3.90	4	5	2
7	3.72	4.08	4	5	3
8	3.67	3.70	4	5	1
9	3.64	3.63	4	5	2
10	3.94	4.03	4	5	3
11	3.57	3.98	4	5	2
12	4.67	4.72	5	5	2
13	2.50	2.08	1	5	1
14	2.94	3.13	3	5	2
15	3.73	3.77	4	5	2
16	3.76	3.87	4	5	2
17	3.82	3.95	4	5	2
回答者数	36	40			



受講生の傾向

遅刻する受講生は少なく、講義中は静穏な環境が保たれており、受講態度は真面目であった。問題演習の時間には、ほぼ全員が真剣に取り組んでおり、当日(または過日)の講義内容や問題の解き方について質問する受講生もいた。会計基準等の原文は教科書として指定し、試験でも持ち込み可能としていたが、あまり参照していない様子であった。受講生全体として、基本的な問題(取引の仕訳等)は解けても、総合的な問題(財務諸表の作成等)は苦手とする傾向があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

パワーポイントを使って考え方の手順を示し、効率的に要点を説明できるようにした。また、パワーポイントの内容を補足するために、オリジナルの確認問題を毎回作成・配布して、講義内容の理解と復習を促した。パワーポイントと確認問題は、基礎力の強化と応用力の養成を念頭において作成し、会計基準等の新設・変更を踏まえて前年度の内容をリファインしている。講義中の説明は、その会計処理が財務諸表でどのように表示されるのかを意識してもらるようにした。また、会計基準等で重要な部分は、講義中に該当箇所を指示して確認させるなど、原文を参照して勉強することの大切さを実感してもらるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

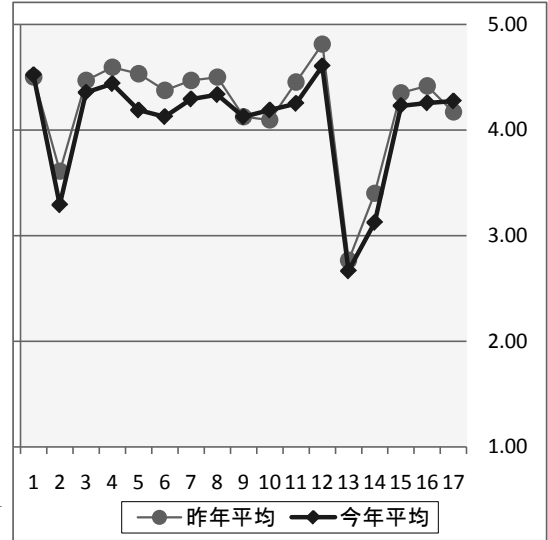
取引を仕訳するだけでなく、その仕訳が財務諸表にどのような影響を与えるのかを意識するように指導していく。総合的な問題の学習方法は、簿記一巡の流れに従って反復練習を繰り返すことが大切であることを指導していく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計基準等の原文を参照して勉強するスタイルを定着させるように指導する。取引の仕訳から財務諸表の作成までを念頭においた説明を心がける。財務諸表の様式をしっかりと覚えるように指導する。

科目	上級原価計算論		
配当年次	1	開講時限	月3
受講者数	50	回答者数	48

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.52	5	5	4
2	3.61	3.29	3	5	2
3	4.47	4.35	5	5	3
4	4.59	4.44	5	5	3
5	4.53	4.19	4	5	1
6	4.38	4.13	5	5	3
7	4.47	4.29	5	5	3
8	4.50	4.33	5	5	3
9	4.13	4.13	4	5	3
10	4.09	4.19	4	5	3
11	4.45	4.25	5	5	3
12	4.81	4.60	5	5	1
13	2.77	2.67	3	5	1
14	3.40	3.13	3	5	2
15	4.35	4.23	5	5	2
16	4.42	4.26	4	5	3
17	4.17	4.27	5	5	3
回答者数	68	48			



受講生の傾向

日商簿記検定2級程度の原価計算の基本的な知識を備えている学生がほとんどである。しかしながら、学生間の原価計算の習熟度に大きな差があり、その差は例年以上であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生が間違いやすいいくつかのポイントに焦点を絞り、これらのポイントについてより丁寧に解説を行った。

今後の対応

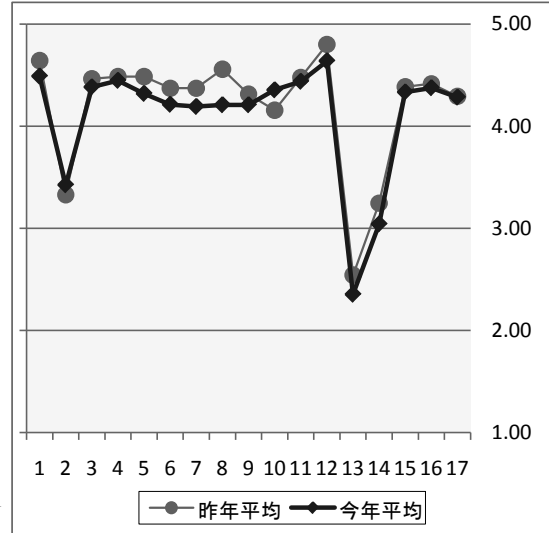
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生間の習熟度の差の拡大を考慮し、一つの授業をいくつかのパートに分けて、それぞれのパートで「初級」、「中級」、「上級」の論点についてレクチャーしていくことを計画している。

科目	上級管理会計論		
配当年次	1	開講時限	金2
受講者数	61	回答者数	49

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.49	5	5	2
2	3.33	3.43	3	5	2
3	4.46	4.38	5	5	1
4	4.49	4.45	5	5	3
5	4.49	4.32	5	5	2
6	4.37	4.21	4・5	5	1
7	4.37	4.19	4	5	3
8	4.56	4.21	5	5	2
9	4.31	4.21	5	5	1
10	4.16	4.35	5	5	3
11	4.48	4.44	5	5	2
12	4.80	4.64	5	5	1
13	2.54	2.35	3	5	1
14	3.25	3.04	3	5	2
15	4.38	4.33	5	5	3
16	4.42	4.38	5	5	2
17	4.29	4.28	5	5	3
回答者数	71	49			



受講生の傾向

管理会計の初学者が多くみられた。また、上級原価計算論と同様の傾向であるが、管理会計に関する学生間の習熟度の差が例年以上に大きかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本的な数学の素養が不足する学生も散見されたため、とくに数式の説明については丁寧に行った。また、簡単な事例を含めて解説を行った。

今後の対応

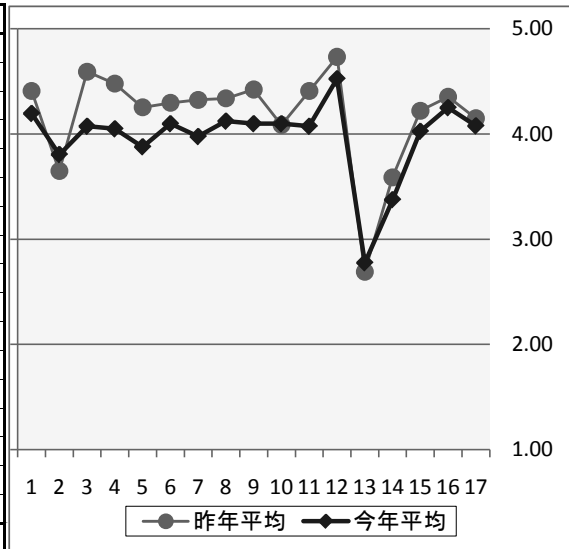
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

一面的な授業ではなくいくつかのパートに分けて授業を実施することや、事例だけでなくメタファーなどを用いて、よりわかりやすく授業を行うことを計画している。

科目	監査制度論		
配当年次	1	開講時限	火2・金3
配当年次	1	開講時限	火3・金2
受講者数	52	回答者数	41

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.41	4.20	4	5	2
2	3.65	3.80	4	5	1
3	4.59	4.07	4	5	2
4	4.48	4.05	4	5	1
5	4.25	3.88	4	5	1
6	4.30	4.10	4	5	2
7	4.32	3.98	4	5	1
8	4.34	4.12	5	5	2
9	4.42	4.10	4	5	2
10	4.09	4.10	4	5	2
11	4.41	4.07	4	5	1
12	4.73	4.53	5	5	1
13	2.69	2.78	1・2・3	5	1
14	3.59	3.38	3	5	1
15	4.22	4.03	4	5	2
16	4.35	4.25	4	5	2
17	4.15	4.08	4	5	2
回答者数	71	41			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は高く80%以上となっているものの、昨年に比べると低下していることから、本学年の意欲が相対的に下がっているように解される。

上記アンケート結果より、授業に対する予習時間(項目13)が昨年度より若干増加したものの1時間と短く、復習時間も向上は見られるものの1時間半(項目14)となっているため、相変わらず望ましい状況とは言えない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度も制度改正があったため、該当する箇所や不備のあった箇所などを改訂したパワーポイントによるスライドを用意・配布した上で、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。またこれら配布用の資料は、関西大学インフォメーション・システムに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了する(1週間)ごとに、前2回分の理解度を確認するためのとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。また優秀答案を指名を伏せた上で全員に配布し解説を加えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

こちらの期待に反して、受講生の側での予習・復習の時間が相対的に少ないため、復習課題の一部提出強制をする必要があるかもしれない。

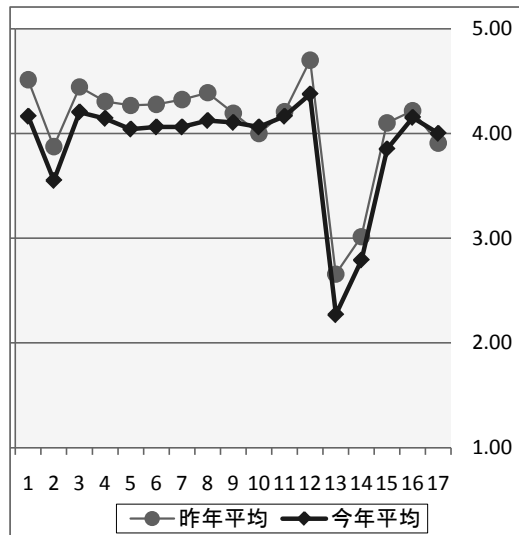
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

復習課題の強制提出ではなく、希望者からの提出を受けることにした。

必修科目であるにもかかわらず、相対的に出席率が下がった理由について確認し、対応する必要がある場合は一定の措置を講じなければならない。

科目	監査基準		
配当年次	1	開講時限	春:水2/秋:水2
受講者数	55	回答者数	49

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.51	4.16	4	5	2
2	3.88	3.55	3	5	3
3	4.44	4.20	4	5	2
4	4.31	4.14	4	5	2
5	4.27	4.04	4	5	3
6	4.28	4.06	4	5	2
7	4.32	4.06	4	5	3
8	4.39	4.12	4	5	3
9	4.19	4.10	4	5	2
10	4.00	4.06	4	5	2
11	4.21	4.16	4	5	2
12	4.70	4.38	5	5	1
13	2.66	2.27	2	5	1
14	3.01	2.79	2	5	1
15	4.10	3.85	4	5	2
16	4.22	4.15	4	5	3
17	3.91	4.00	4	5	2
回答者数	72	49			



受講生の傾向

全体的におとなしく、昨年と比べて質問等も少なかったように思う。
また、留学生の方が多く、日本語の理解のレベルに問題があったかもしれない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

実際の会計士試験にも無駄にならないことをアピールしつつ、暗記問題や確認テスト等の宿題を取り入れた。
また、モチベーションを上げるために、競争原理を取り入れ、暗記問題の高得点者には、賞品の配付を行った。

今後の対応

Q昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

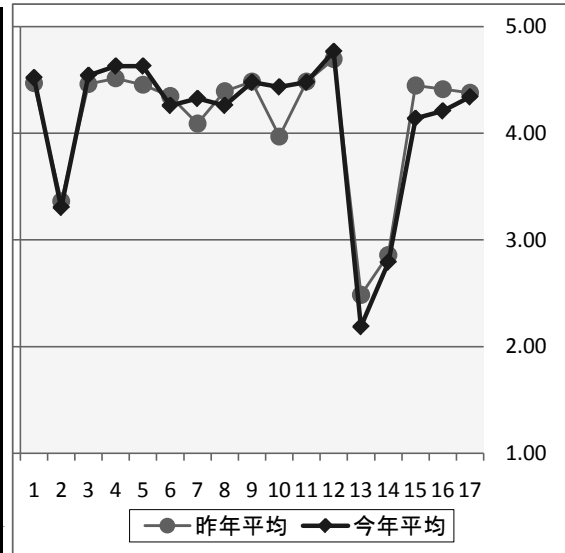
予習・復習をあまり必要としないと感じているようであるが、必須科目でもあるため、今後は、課題を与える等の工夫をしたい。

Q上記の内容を踏まえた「今後の対応」

思った以上に、さらに丁寧なペースで講義を行う必要があると感じた。
宿題(暗記および確認テスト)は、やる気のある受講生にとっては、非常に評判がいいように思うので、継続する。
机上の話だけではなく、実際の監査現場での話に興味があるようなので、より鮮明に現場の状況がわかるように、伝えていきたいと思う。

科 目	企業法		
配当年次	1	開講時限	月2・金3
配当年次	1	開講時限	月3・火2
受講者数	52	回答者数	46

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.47	4.52	5	5	3
2	3.36	3.30	3	5	2
3	4.46	4.54	5	5	3
4	4.52	4.63	5	5	3
5	4.45	4.63	5	5	4
6	4.35	4.26	4	5	2
7	4.09	4.33	4	5	3
8	4.39	4.26	4	5	3
9	4.48	4.48	5	5	3
10	3.97	4.43	5・4	5	3
11	4.48	4.48	5	5	3
12	4.70	4.77	5	5	1
13	2.48	2.19	1	5	1
14	2.86	2.79	2	5	1
15	4.45	4.14	4	5	2
16	4.41	4.21	4	5	3
17	4.38	4.34	4	5	3
回答者数	67	46			



受講生の傾向

まじめに出席している学生が多かったが、一部の学生は欠席したり、遅刻する学生もあった。初めて法律科目に接する学生もおり、法的なものの考え方や法律用語等がなかなか身につかない学生も見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業の種類や設立から分割・合併等に至るまでの広い範囲ではあるが、詳細な手続きや内容はともかく、そのエッセンス、特に制度の趣旨を中心にを理解してもらうことを心掛けた。

また、初学者も多いことから、難しい法律用語等に困らないように、比較的丁寧な授業になるよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

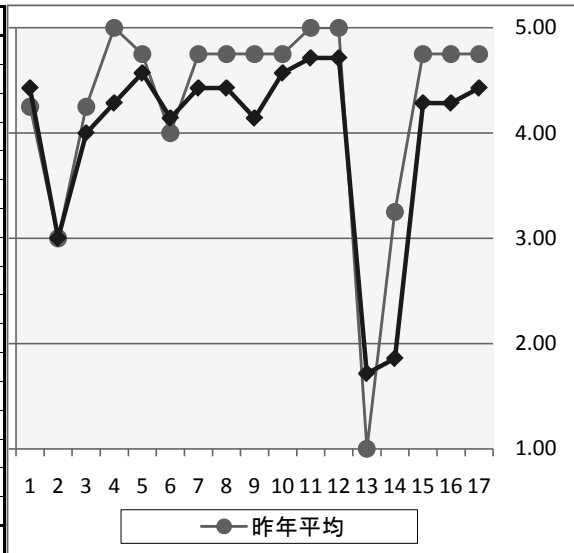
この科目は企業法に関連する科目の基礎的な位置づけとなるので、会社法の根底に流れる基本的な考え方を徹底的に理解してもらえるような授業にしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

法律科目に苦手意識を持っていたり、なかなかはじめない学生がみられるが、そういう学生も理解できるよう、具体例を増やしたり、より興味を持つことのできるような授業となるよう工夫したい。

科目	会計専門職業数学		
配当年次	1	開講時限	±2
受講者数	22	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.43	5	5	3
2	3.00	3.00	3	5	2
3	4.25	4.00	3・5	5	3
4	5.00	4.29	5	5	3
5	4.75	4.57	5	5	4
6	4.00	4.14	5	5	3
7	4.75	4.43	5	5	3
8	4.75	4.43	5	5	3
9	4.75	4.14	5	5	3
10	4.75	4.57	5	5	4
11	5.00	4.71	5	5	4
12	5.00	4.71	5	5	4
13	1.00	1.71	1	5	1
14	3.25	1.86	1	5	1
15	4.75	4.29	5	5	3
16	4.75	4.29	5	5	3
17	4.75	4.43	5	5	3
回答者数	4	7			



受講生の傾向

この授業の受講生は、学部生時代に数学を勉強してきていなかった者が多く、特にかかなりの受講生は会計専門職業数学において必要な微分の基礎概念を正しく理解できていなかった。これは、高校時代の数学の授業において、基礎的な知識を教えられてなくて、数学の公式を単に暗記して、計算がうまく出来ればいいという受験勉強体制に問題があったと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

数式はできるだけ簡単にして、経済学、経営学、会計学などで使われる応用例を用いて理解度を高める工夫をしている。そして、各自の理解度を高めるために、毎回のように宿題を出し、次回の授業時に受講生にホワイトボードに解答を書かせて、全員でその解答の成否を分析している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

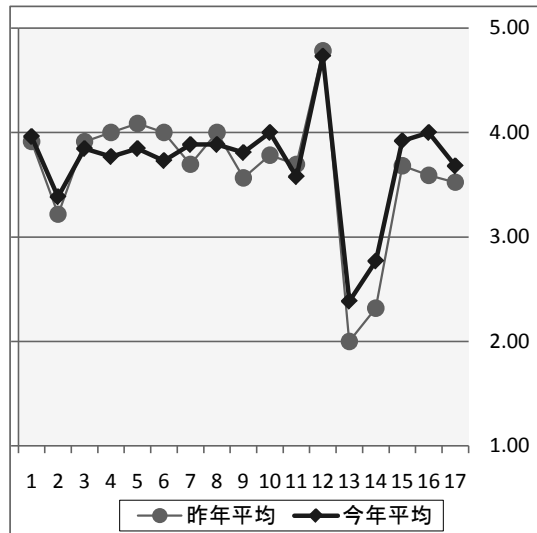
「会計専門職業数学は、経済学、経営学、会計学の分析の基礎になっているので、それらの科目の理解にも有益であることを受講生に周知するように努めたい」と記載しているが、受講生の大半はもともと文系であるので、最初から数学に対するアレルギーがあるように見受けられる。そのアレルギーを取り除くようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生は、授業を受けてみると、思ったより経済学、経営学、会計学などで用いる数学は簡単で分かり易く、面白いので、熱心に受講してくれる。それで、今後は一人でも多くの学生が受講してくれるように、受講申請前にアピールしたい。

科目	会計基準論		
配当年次	1	開講時限	月4
受講者数	35	回答者数	26

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.91	3.96	4	5	2
2	3.22	3.38	3	4	3
3	3.91	3.85	4	5	2
4	4.00	3.77	4	5	2
5	4.09	3.85	4	5	3
6	4.00	3.73	3・4	5	2
7	3.70	3.88	4	5	3
8	4.00	3.88	3	5	3
9	3.57	3.81	3	5	3
10	3.78	4.00	4	5	3
11	3.70	3.58	3	5	2
12	4.78	4.73	5	5	3
13	2.00	2.38	2	5	1
14	2.32	2.77	2	5	1
15	3.68	3.92	3	5	3
16	3.59	4.00	3・5	5	3
17	3.52	3.68	4	5	2
回答者数	23	26			



受講生の傾向

評価項目全体から見る限り受講生の評価や姿勢はここ数年類似の傾向にあるが、今年度は受講生の学習の姿勢に改善が見られる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計基準やそれを前提とする簿記の学習では、学習項目が多いため、学習者がそれら全体を一通りカバーすること(網羅性)を重視するため、往々にして表面的な理解に陥ることが少なくない。問題は基準や簿記処理の意味が理解されていないことが多いということである。それは会計や簿記の対象である取引に対する理解を高めようとする点に理由がありそうである。そこで、今年度は、教授する側においても、網羅性を求めないで、取引の本質を理解させる工夫をした。受講生の中には嫌がる者もいるが講義中は歩き回り次々と質問することにより理解不足の問題点を明確にしていた。こうした点は一気に効果が出ないかもしれないが、受講者自身による学習姿勢に改善が見られたことは好ましいことである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

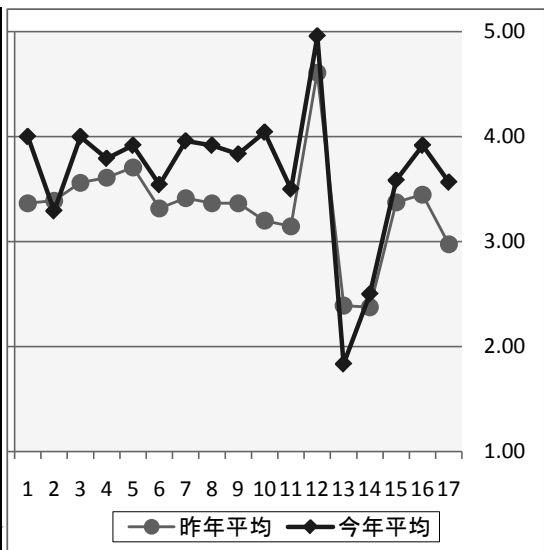
「会計のセンスは経済・経営への理解度を高めることによって生まれるという点を強調して講義するように心がける。」と記載した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度の対応が効果が出ているものの、一層の学習意欲を掻き立てるために、また、学習時期を最適化するために、開講学期を春学期とし、かつ13回の予習確認型試験と最終試験を実施する。昨年度記載した「今後の対応」は引き続き維持する。

科目	会計制度論		
配当年次	1	開講時限	月4
受講者数	33	回答者数	24

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.37	4.00	4	5	3
2	3.39	3.29	3	5	2
3	3.56	4.00	4	5	3
4	3.61	3.79	4	5	2
5	3.71	3.92	4	5	2
6	3.32	3.54	4	5	2
7	3.41	3.96	4	5	3
8	3.37	3.92	4	5	3
9	3.37	3.83	4	5	3
10	3.20	4.04	4	5	2
11	3.15	3.50	4	5	2
12	4.61	4.96	5	5	4
13	2.39	1.83	1	4	1
14	2.38	2.50	3	5	1
15	3.38	3.58	4	5	2
16	3.45	3.92	4	5	2
17	2.98	3.57	4	5	2
回答者数	41	24			



受講生の傾向

昨年度は「評価項目全体としてみるとそれほど評価が良くない」という点と「最重点の考える学習が必ずしも受け入れられない実態の反映と見ることも考えられる」と記載したが、今年度は、すべての評価項目につき、大幅な改善が見られる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の分析において、考える学習を積極的に展開すると、学習姿勢や理解度に差異がみられことから、積極的な学習者とそうでない者が顕著に分かれる二極分解が見られたと総括した。そこで、今年度は、会計の理論が制度に結びつく過程を、ていねいに説明したうえで、自由に発想するように仕向ける工夫をした。会計基準論が予習中心で学習効果を高めうるのに対して、会計制度論は制度の前提の理論の理解を求めるので復習中心の法が学習効果を高めうるということがわかってきた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

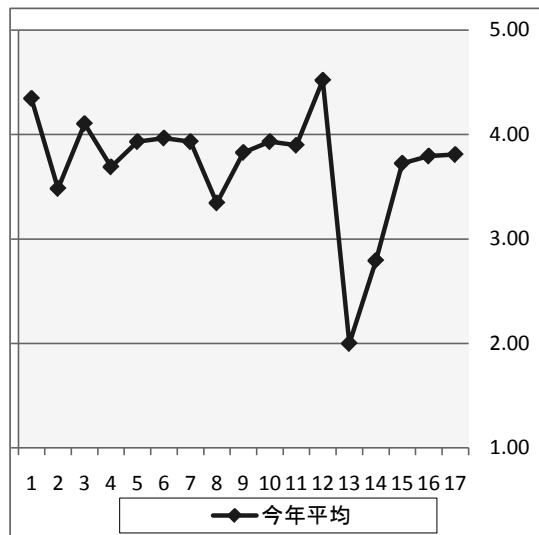
「考える」学習の効果を引き出すように「考える」方法を示す方式を明年度も実施すると記載した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

一昨年対比で昨年が評価等が悪化したのに対して、昨年対比で今年度は大幅に改善したので、昨年記載した「今後の対応」の効果を引き出すために明年度も継続する。ただし、明年度は、学習時期の適正化を図るため(上級財務会計論を継いだ内容とするために)に秋学期に開講し、復習確認試験を13回、最終試験を1回実施する。

科目	財表作成簿記		
配当年次	1	開講時限	火3
受講者数	45	回答者数	29

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.34	4	5	3
2	-	3.48	3	5	3
3	-	4.10	4	5	3
4	-	3.69	4	5	2
5	-	3.93	4	5	2
6	-	3.97	4	5	2
7	-	3.93	4	5	1
8	-	3.34	3	5	1
9	-	3.83	4	5	3
10	-	3.93	4	5	2
11	-	3.90	4	5	2
12	-	4.52	5	5	1
13	-	2.00	1	5	1
14	-	2.79	2	5	1
15	-	3.72	4	5	1
16	-	3.79	4	5	2
17	-	3.81	4	5	2
回答者数	-	29			



受講生の傾向

遅刻する受講生は少なく、講義中は静穏な環境が保たれており、受講態度は真面目であった。問題演習の時間には、ほぼ全員が真剣に取り組んでおり、当日(または過日)の講義内容や問題の解き方について質問する受講生もいた。全体的に問題の正答率が高いが、取引の内容や仕訳の意味を理解しないまま問題をテクニク的に解こうとする傾向があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

パワーポイントを使って考え方の手順を示し、効率的に要点を説明できるようにした。また、パワーポイントの内容を補足するために、オリジナルの確認問題を毎回作成・配布して、講義内容の理解と復習を促した。パワーポイントと確認問題は、重要な論点を優先的・反復的に取り扱い、会計処理の考え方や計算過程を詳しく示して丁寧な解説を付すなど、暗記よりも理解することに力点をおいて作成し、基礎力の強化と応用力の養成に心がけた。講義中の説明は、その会計処理が財務諸表でどのように表示されるのかを意識してもらるようにした。

今後の対応

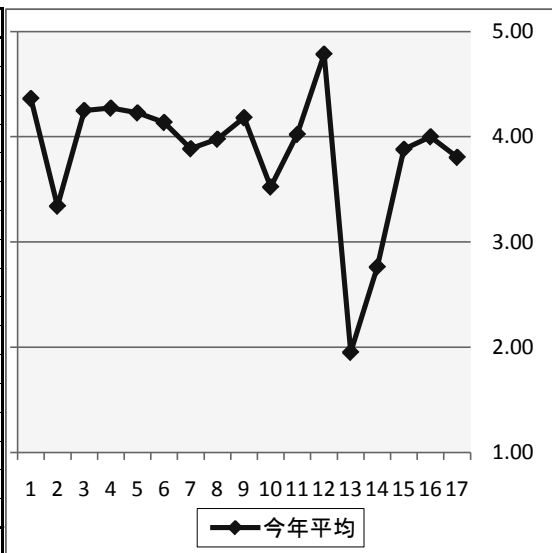
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

仕訳の意味や計算の方法を理解して問題を解き、財務諸表の作成につなげていくように指導する。

科 目	上級税務会計論		
配当年次	1	開講時限	火4
受講者数	54	回答者数	44

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.36	5	5	2
2	-	3.34	3	5	2
3	-	4.25	4	5	2
4	-	4.27	4・5	5	2
5	-	4.23	4	5	2
6	-	4.14	4	5	2
7	-	3.89	4	5	3
8	-	3.98	4	5	2
9	-	4.18	4	5	2
10	-	3.52	3	5	2
11	-	4.02	4	5	2
12	-	4.79	5	5	4
13	-	1.95	1	5	1
14	-	2.76	2・3	5	1
15	-	3.88	4	5	1
16	-	4.00	4	5	2
17	-	3.80	4	5	2
回答者数	-	44			



受講生の傾向

予習、復習に充てる時間が不足し、講義内容についていけない受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回の講義開始時に小テストを実施し、前回内容を確認する時間を設けた。また、講義時間内にも受講生に問題を解かせる時間を多くとるよう配慮した。

今後の対応

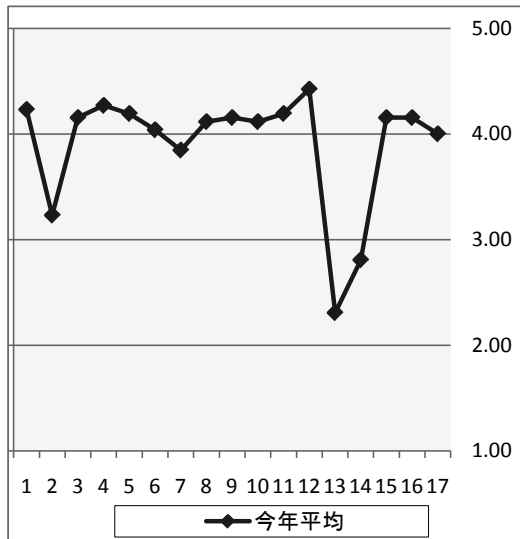
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

春学期開講の本講義は、税務会計の初学者が多い関係から、今年度と異なり、難易度を徐々に引き上げていく方式に切り替える必要がある。

科目	租税法会計論		
配当年次	1	開講時限	水1
受講者数	35	回答者数	26

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.23	4	5	3
2	-	3.23	3	4	3
3	-	4.15	4	5	3
4	-	4.27	4	5	2
5	-	4.19	4	5	2
6	-	4.04	4	5	3
7	-	3.85	4	5	2
8	-	4.12	4	5	3
9	-	4.15	4	5	3
10	-	4.12	4	5	3
11	-	4.19	4	5	2
12	-	4.42	5	5	1
13	-	2.31	1・2	5	1
14	-	2.81	3	5	1
15	-	4.15	4	5	3
16	-	4.15	4	5	3
17	-	4.00	4	5	3
回答者数	-	26			



受講生の傾向

予習、復習に充てる時間が不足しており、講義内容を十分理解することができていない受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回の講義開始時に前回内容の確認テストを実施した。また、全講義の中間時点で、臨時試験を実施することを受講生に伝え、受講生のモチベーション維持に努めた。

今後の対応

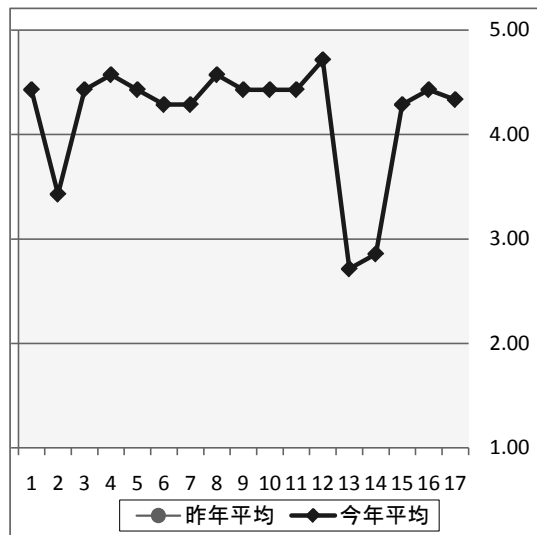
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上級税務会計論と異なり、臨時試験を途中で実施した効果があり、受講生の税務会計への理解を高めることができた。今後も継続していきたい。

科目	公会計理論		
配当年次	1	開講時限	金4
受講者数	10	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.43	5	5	3
2	-	3.43	3	5	3
3	-	4.43	4	5	4
4	-	4.57	5	5	4
5	-	4.43	4	5	4
6	-	4.29	4	5	4
7	-	4.29	4・5	5	3
8	-	4.57	5	5	4
9	-	4.43	5	5	3
10	-	4.43	4	5	4
11	-	4.43	4	5	4
12	-	4.71	5	5	4
13	-	2.71	1・2・4	5	1
14	-	2.86	2	5	1
15	-	4.29	4	5	4
16	-	4.43	5	5	3
17	-	4.33	5	5	3
回答者数	-	7			



受講生の傾向

受講生が少ないことから、全体としての評価といっても、少ない受講生の傾向がそのまま出ている。必ずしも履修する必要のない科目を履修する場合の動機が明確なのだろうか、科目に対する評価も彼ら自身の学習姿勢についての自己評価も高い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

大量の資料を配布しているがそれらはいくまで学習参考資料にとどめ、講義では、いまだ確立していない公会計理論がいかなる意味で重要なのか、何が解決されていないのかなどの基本論点を重点的に解説し、併せて、学習者の意見も活発に披露しあう工夫を設けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

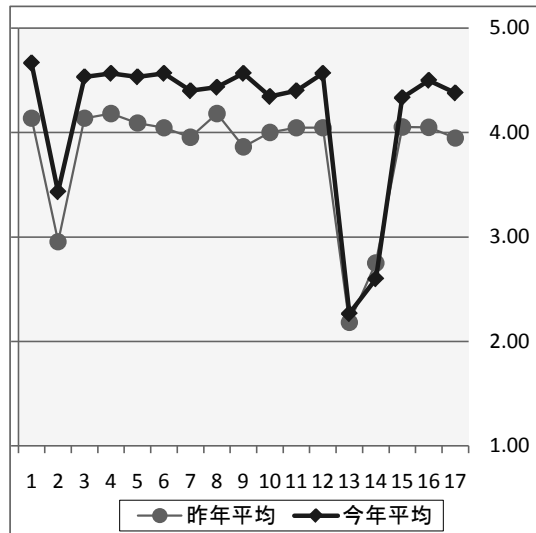
昨年度はこの科目は開講されていない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後は、我が国における停滞する公会計制度改革と制度の基礎にある理論を峻別して、論点をより鮮明にするように心が

科目	監査実施論		
配当年次	1	開講時限	土3
受講者数	34	回答者数	30

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.14	4.67	5	5	3
2	2.95	3.43	3	5	3
3	4.14	4.53	5	5	3
4	4.18	4.57	5	5	4
5	4.09	4.53	5	5	3
6	4.05	4.57	5	5	4
7	3.95	4.40	5	5	3
8	4.18	4.43	5	5	3
9	3.86	4.57	5	5	4
10	4.00	4.34	4・5	5	3
11	4.05	4.40	5	5	3
12	4.05	4.57	5	5	2
13	2.18	2.27	1	5	1
14	2.75	2.60	2	5	1
15	4.05	4.33	5	5	3
16	4.05	4.50	5	5	3
17	3.95	4.38	4	5	4
回答者数	22	30			



受講生の傾向

- ・授業の評価に関する項目(1～11)については全ての項目について前年よりも高い評価であった。
- ・学生自身の授業への取り組みの項目(12～17)をみると、出席率が非常に高く、予習・復習を行わなくとも内容を十分に理解している学生が大多数であった。
- ・授業の進度(2)についても、ちょうど良いと回答している学生が多数であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- ・アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問い(16)に対しては「普通～良」程度の回答が多かったため、今年度は実務経験を生かし、より分かりやすい講義を行った。その結果、昨年度のアンケートよりも評価が向上した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

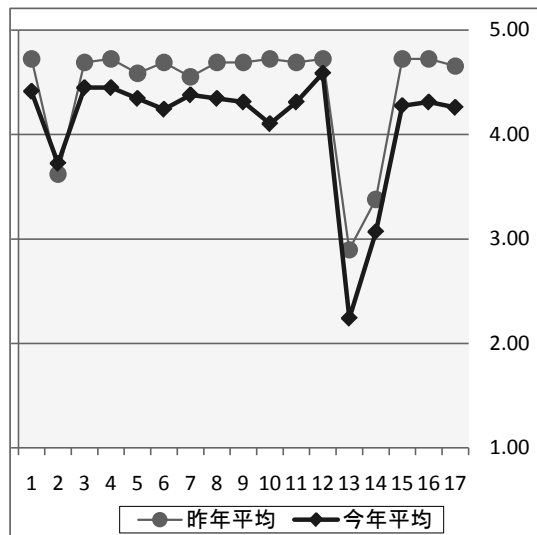
- ・アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問い(16)に対しては「普通～良」程度の回答が多かったため、来年度以降もより実務経験を踏まえた講義を実施したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- ・いずれの評価項目についても昨年度より向上している。翌期も実務を踏まえた講義を実施していきたい。

科目	監査報告論		
配当年次	1	開講時限	火4
受講者数	39	回答者数	30

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.72	4.41	4	5	3
2	3.62	3.72	3	5	3
3	4.69	4.45	4・5	5	3
4	4.72	4.45	4・5	5	3
5	4.59	4.34	5	5	2
6	4.69	4.24	4	5	3
7	4.55	4.38	4	5	3
8	4.69	4.34	4・5	5	3
9	4.69	4.31	4	5	3
10	4.72	4.10	4	5	2
11	4.69	4.31	4	5	3
12	4.72	4.59	5	5	1
13	2.90	2.24	2	5	1
14	3.38	3.07	2	5	1
15	4.72	4.28	5	5	3
16	4.72	4.31	5	5	3
17	4.66	4.26	4	5	3
回答者数	29	30			



受講生の傾向

選択科目である本科目について、受講生の出席状況(項目12)は、平均80%以上を確保しており、受講生の出席率はかなり高いと言える。しかし予習時間が1時間弱(項目13)、復習時間が1時間程度(項目14)となっていることから、参加意欲は去年並みに高いものの、今年度は学習時間が若干低下している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は監査報告に関連した制度改革があったため、昨年以上に、毎回、パワーポイントによるスライドを用意・配布するとともに、必要に応じて各種の基準・実務指針・意見書等をコピーした上で配布した。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。さらにこれら配付資料の全ては、授業当日中に関西大学インフォメーション・システムにアップロードし、WEB配信を前提とした復習に役立つよう配慮した。

昨年に続き、前回の理解度を確認するための小テストを授業時間の最初に15分程度で実施し、添削して返却した。また成績優秀者数名の答案を氏名と学生番号を伏せた上で、コピーし全員に配布した。さらに返却時に講評を行なうことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受講生の側での予習の時間を相対的に高めるため、予習課題を大学のインフォメーション等で指示する必要があるかもしれない。

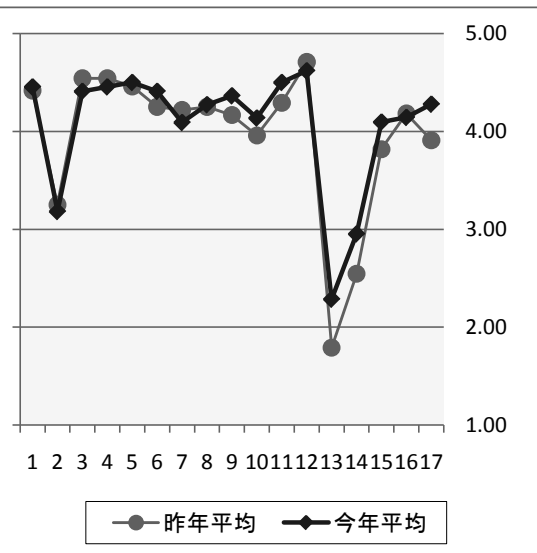
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習を考える学生のために配付資料に次回進む範囲を明示するようにした。

学生の意欲を高める方法として、学生からの人による復習課題提出・添削を行なうようにし、個々の能力に合った個別指導を行なう必要があるかもしれない。

科目	商法		
配当年次	1	開講時限	金1
受講者数	26	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.45	5	5	3
2	3.25	3.18	3	5	2
3	4.54	4.41	4	5	4
4	4.54	4.45	5	5	3
5	4.46	4.50	4・5	5	4
6	4.25	4.41	4	5	3
7	4.22	4.09	4	5	3
8	4.25	4.27	4	5	3
9	4.17	4.36	4	5	3
10	3.96	4.14	4	5	3
11	4.29	4.50	5	5	3
12	4.71	4.62	5	5	1
13	1.79	2.29	2	5	1
14	2.55	2.95	2	5	1
15	3.82	4.10	4	5	3
16	4.18	4.14	4	5	3
17	3.91	4.28	4	5	4
回答者数	24	22			



受講生の傾向

受講生は26人と多人数ではないが、1限目ということもあり、遅刻する学生がみられた。企業法と同時平行的に授業が進められているが、企業法よりも範囲が広く、授業のレベルが高度であるから、授業についてくるのが困難な学生が少なからずいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

商法という分野は、この授業のほかではあまり扱われないところであるから、この授業のみで基礎から応用力まで身に着けられるよう留意した。具体的には、基本的な法律用語や法解釈の説明から、最新の商法判例の紹介までを授業の中に織り込んだ。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

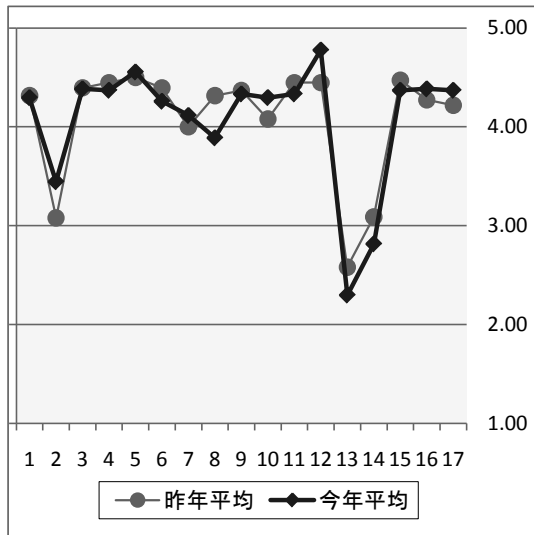
商法は、会社法よりも範囲が狭いので、企業法での商法に関する基本的な学習がなくても、完結できるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会社法と比べて、商法は難解である印象があるので、なるべく具体例を提供したり、イメージしやすい授業にしたい。

科目	中級会社法		
配当年次	1	開講時限	木3
受講者数	46	回答者数	27

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.32	4.30	5	5	3
2	3.08	3.44	3・4	5	2
3	4.39	4.38	4・5	5	3
4	4.45	4.37	5	5	3
5	4.50	4.56	5	5	3
6	4.39	4.26	4	5	3
7	4.00	4.12	4	5	2
8	4.32	3.89	4	5	3
9	4.37	4.33	4	5	3
10	4.08	4.30	4	5	3
11	4.45	4.33	5	5	3
12	4.45	4.78	5	5	3
13	2.58	2.30	2	5	1
14	3.09	2.81	3	5	1
15	4.47	4.37	5	5	3
16	4.27	4.38	4・5	5	3
17	4.22	4.37	4	5	3
回答者数	38	27			



受講生の傾向

学生は全体的に熱心に授業を受けていた。

企業法を受講した後であるから、法律科目には慣れてきているようである。その反面、企業法の内容を前提として授業を進めているが、基本的な企業法の内容をすでに忘れてしまっている学生も少なくなかった。

また、企業法では理解に苦しんでいた学生も、中級会社法になって伸びる学生も見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業法と中級会社法との連続性を意識した。

中級会社法では企業法を前提とした授業を行うことで、重複した説明を避け、かつ企業法の内容を思い出してもらうということを目指した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

企業法との連続性ということを重視したい。

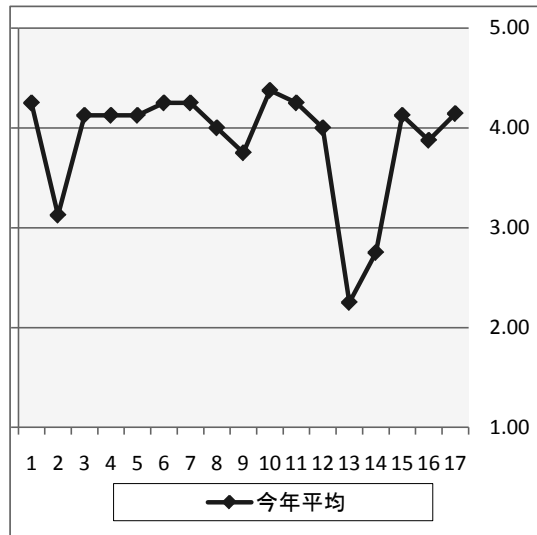
具体的には、企業法の理解があることを前提として、中級会社法をある程度のレベルからスタートさせる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

企業法と中級会社法の連続性については、もっと充実させたい。結果として、企業法の内容を忘れていることが多いため、中級会社法のレジュメ等に学生自らが企業法にフィードバックできる等の工夫をしたい。

科目	民法(総則・物権)		
配当年次	1	開講時限	水3
受講者数	13	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.25	4	5	4
2	-	3.13	3	4	3
3	-	4.13	4	5	4
4	-	4.13	4	5	3
5	-	4.13	4	5	4
6	-	4.25	4	5	4
7	-	4.25	4	5	4
8	-	4.00	4	5	3
9	-	3.75	4	5	3
10	-	4.38	4	5	4
11	-	4.25	4	5	3
12	-	4.00	5	5	2
13	-	2.25	3	3	1
14	-	2.75	3	4	1
15	-	4.13	4	5	3
16	-	3.88	4	5	3
17	-	4.14	4	5	3
回答者数	-	8			



受講生の傾向

大半の受講生は、民法(総則・物権)については、初学者であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

民法, そこで, できる限り, 具体的な事例に即して, 法律及び判例を解説することにより, 受講生が理解し易いように努めたつもりである。また, 各講義の冒頭に, 前回の講義の復習問題(事例問題)を出題して, 受講生に回答してもらい, 前回の講義の内容を確認するとともに, 理解を深められるように工夫した。

今後の対応

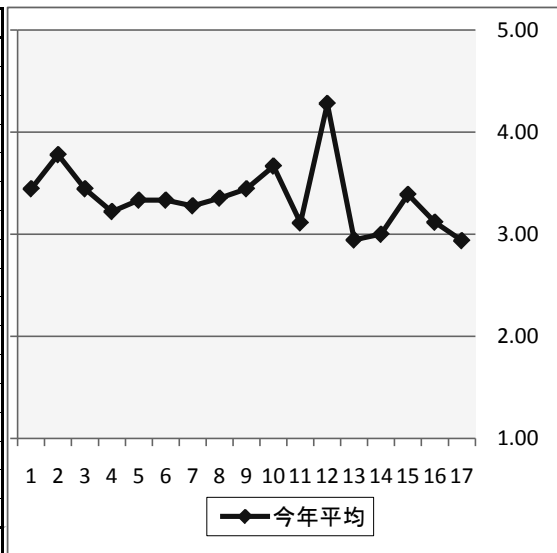
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

平成23年度は, 本科目を担当していない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目	インベストメント論		
配当年次	1	開講時限	金4
受講者数	23	回答者数	18

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	3.44	3	5	2
2	-	3.78	4	5	2
3	-	3.44	4	5	2
4	-	3.22	4	4	1
5	-	3.33	3	5	2
6	-	3.33	3・4	4	2
7	-	3.28	3	5	1
8	-	3.35	3	5	2
9	-	3.44	4	5	1
10	-	3.67	4	5	3
11	-	3.11	3	5	1
12	-	4.28	5	5	2
13	-	2.94	3	5	1
14	-	3.00	3	5	1
15	-	3.39	3	5	2
16	-	3.12	3	5	2
17	-	2.94	4	5	1
回答者数	-	18			



受講生の傾向

公認会計士試験の経営学の「財務管理」に当たることについて認識している学生と認識していない学生がおり、レベルに差があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最初に、公認会計士試験の経営学の財務管理に当たること、少なくとも高校レベルの数学が必要であることを試験問題を示しながら説明した。しかしながら、高校レベルの数学を忘れている学生や、理解できていない学生が多数だったため、基礎的な数学から解説を行うようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

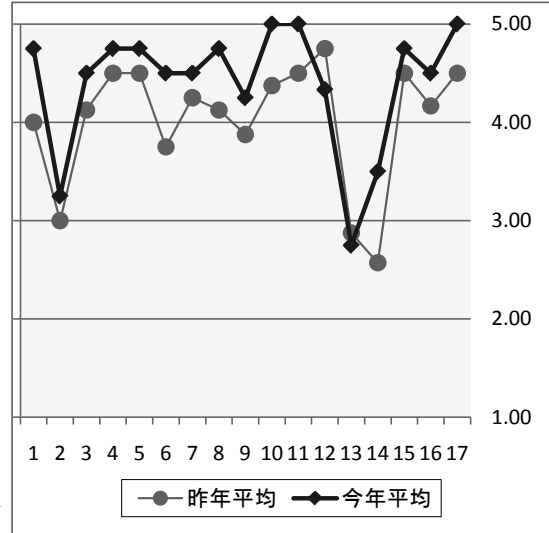
—

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験の経営学の「財務管理」に当たることについて、シラバスで明示するとともに、少なくとも高校レベルの数学について基礎から復習するようになりたい。

科目	ミクロ経済学		
配当年次	1	開講時限	土2
受講者数	17	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.75	5	5	4
2	3.00	3.25	3	5	2
3	4.13	4.50	5	5	3
4	4.50	4.75	5	5	4
5	4.50	4.75	5	5	4
6	3.75	4.50	5	5	3
7	4.25	4.50	5	5	3
8	4.13	4.75	5	5	4
9	3.88	4.25	5	5	3
10	4.38	5.00	5	5	5
11	4.50	5.00	5	5	5
12	4.75	4.33	4	5	4
13	2.88	2.75	1・2・3・5	5	1
14	2.57	3.50	5	5	1
15	4.50	4.75	5	5	4
16	4.17	4.50	5	5	3
17	4.50	5.00	5	5	5
回答者数	8	4			



受講生の傾向

ミクロ経済学では、消費の理論、生産の理論、厚生経済の理論の初歩的な授業を展開したので、受講生は授業内容をよく理解できたように思われる。公認会計士の本試験に「経済学」を選択する受講生はもちろんのこと、公務員や国税官などを目指す受講生、さらに経済学の基礎を学びたいという熱心な受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートによると、「授業は非常に面白くて理解できるが、数式は苦手である」との意見もあったので、授業の説明や練習問題の開設には数式をあまり用いないで、多くは図を用いてよく分かるように工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

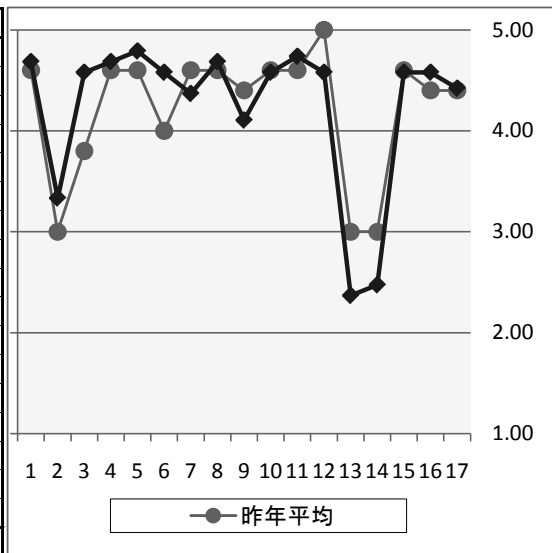
昨年度のアンケートでは、「受講生レベルを高めるために、応用的な宿題や練習問題を増やす。そして、自分たちで、まずそれらの宿題や練習問題を解く癖をつけさせ、授業ではその解答を丁寧に説明し、受講生全員が理解できるように努める。」と記載したが、それほど多くの練習問題を解く時間はなく、ほとんど講義内容の解説に時間をとられた。その結果、

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

まず最初は、初歩的・基礎的な内容を理解しやすい授業を行い、経済学の考え方に慣れてくれば徐々にレベルを上げていき、最後には模擬試験のような問題が解けるレベルまで学力を引き上げたいと考えている。そのためには、理解を深める意味で、できるだけ文章ではなく、図を用いて説明したいと考えている。

科 目	国際会計基準論		
配当年次	2	開講時限	土4
受講者数	20	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.68	5	5	4
2	3.00	3.33	3	5	3
3	3.80	4.58	5	5	4
4	4.60	4.68	5	5	3
5	4.60	4.79	5	5	4
6	4.00	4.58	5	5	3
7	4.60	4.37	5	5	3
8	4.60	4.68	5	5	4
9	4.40	4.11	5	5	1
10	4.60	4.58	5	5	4
11	4.60	4.74	5	5	4
12	5.00	4.58	5	5	3
13	3.00	2.37	1・2	5	1
14	3.00	2.47	2	5	1
15	4.60	4.58	5	5	3
16	4.40	4.58	5	5	3
17	4.40	4.42	4	5	4
回答者数	5	19			



受講生の傾向

- ・授業の評価に関する項目(1～11)について、多数の項目について前年よりも高い評価であった。
- ・学生自身の授業への取り組みの項目(12～17)をみると、出席率が非常に高く、予習・復習を行わなくとも内容を十分に理解している学生が大多数であった。
- ・授業の進度(2)についても、ちょうど良いと回答している学生が多数であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、引き続きより実務経験を踏まえた講義を実施するよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

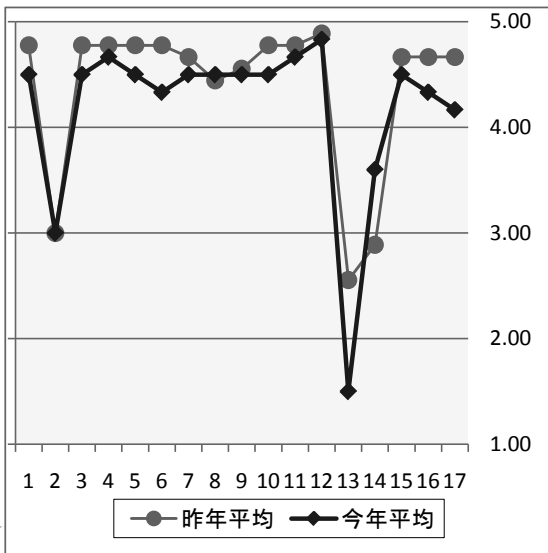
アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、来年度以降もより実務経験を踏まえた講義を実施する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

・いずれの評価項目についても昨年度より概ね向上している。翌期も実務を踏まえた講義を実施していきたい。

科目	企業分析論		
配当年次	2	開講時限	火2
受講者数	9	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.78	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.78	4.50	4・5	5	4
4	4.78	4.67	5	5	4
5	4.78	4.50	4・5	5	4
6	4.78	4.33	5	5	3
7	4.67	4.50	4・5	5	4
8	4.44	4.50	4・5	5	4
9	4.56	4.50	5	5	3
10	4.78	4.50	4・5	5	4
11	4.78	4.67	5	5	4
12	4.89	4.83	5	5	4
13	2.56	1.50	1	3	1
14	2.89	3.60	5	5	1
15	4.67	4.50	5	5	3
16	4.67	4.33	5	5	3
17	4.67	4.17	5	5	2
回答者数	9	6			



受講生の傾向

ほとんどの受講生が欠席することなく参加した。
欠席理由に就職活動が散見される。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度はこの講義を担当していないが、極力、受講生たちが自分で調べ、結論づけるよう課題を課した。
また、その経過やその内容も随時説明するように心がけた。

今後の対応

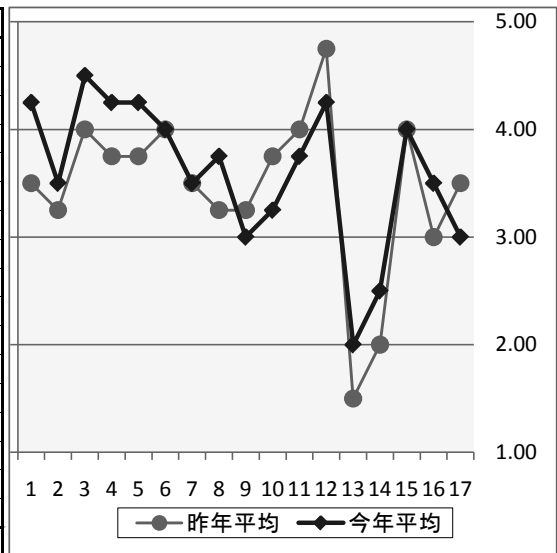
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度以降、担当の予定ではないが、昨年度担当者のアンケート結果によると、より学生が満足しているようであり、その原因を聴取するとともに、次年度の担当者に引き継いでいきたい。

科 目	政府・自治体会計論		
配当年次	2	開講時限	金2
受講者数	5	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.50	4.25	5	5	3
2	3.25	3.50	3・4	4	3
3	4.00	4.50	4・5	5	4
4	3.75	4.25	5	5	3
5	3.75	4.25	5	5	3
6	4.00	4.00	3・5	5	3
7	3.50	3.50	2・3・4・5	5	2
8	3.25	3.75	4	5	2
9	3.25	3.00	3	3	3
10	3.75	3.25	4	4	2
11	4.00	3.75	4	5	2
12	4.75	4.25	4	5	4
13	1.50	2.00	1・3	3	1
14	2.00	2.50	1・2・3・4	4	1
15	4.00	4.00	4	5	3
16	3.00	3.50	4	4	2
17	3.50	3.00	4	4	1
回答者数	4	4			



受講生の傾向

前回同様の傾向がみられる。内容的にはほぼ満足。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
 学生から関心が持てるよう、身近な話題から導入するよう心掛けた。

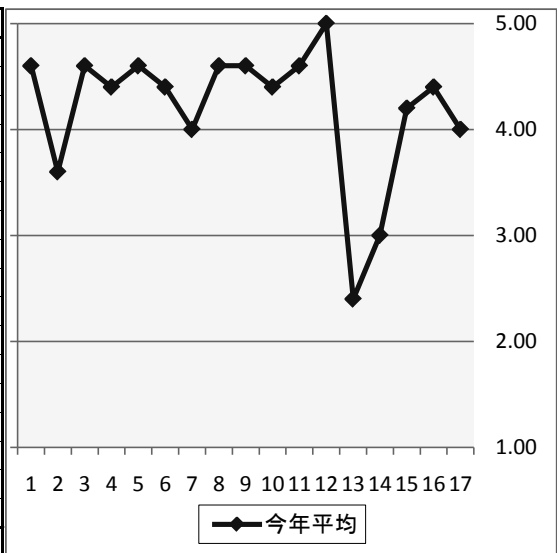
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 分かりやすく興味を持たせるように工夫する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 身近な市民生活に直結している内容であることを説明し興味をもたせるよう努力していく。

科 目	金融商品取引法		
配当年次	2	開講時限	月2
受講者数	11	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.60	5	5	4
2	-	3.60	4	4	3
3	-	4.60	5	5	4
4	-	4.40	4	5	4
5	-	4.60	5	5	4
6	-	4.40	5	5	3
7	-	4.00	3・5	5	3
8	-	4.60	5	5	4
9	-	4.60	5	5	4
10	-	4.40	4	5	4
11	-	4.60	5	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	2.40	1	5	1
14	-	3.00	2	5	2
15	-	4.20	4・5	5	3
16	-	4.40	4	5	4
17	-	4.00	4	4	4
回答者数	-	5			



受講生の傾向

金融商品取引法に関心の高い受講生も見受けられ、受講態度は概ね熱心であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

できるだけ詳細なレジュメを用意し、図解した参考資料を配付するなどして、理解し易いように工夫した。また、各講義の冒頭に、前回の講義の復習問題を出题して、受講生に回答してもらい、前回の講義の内容を確認するとともに、理解を深められるようにした。

今後の対応

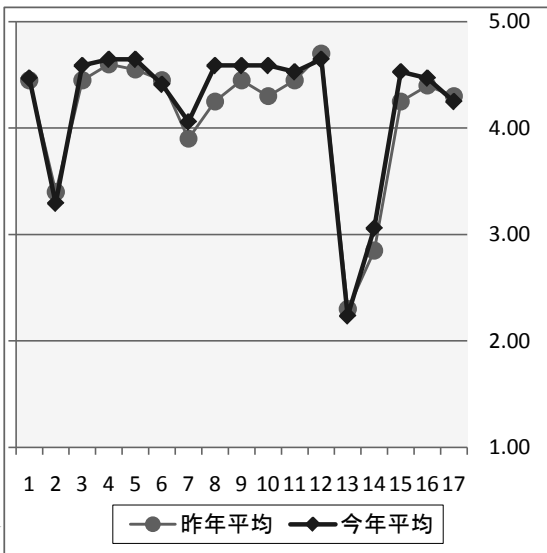
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

平成22年度は、進行がやや遅かったので、平成23年度は、少々進行を速めている。

科目	上級会社法		
配当年次	2	開講時限	木2
受講者数	22	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.45	4.47	5	5	3
2	3.40	3.29	3	5	2
3	4.45	4.59	5	5	4
4	4.60	4.65	5	5	4
5	4.55	4.65	5	5	4
6	4.45	4.41	4	5	4
7	3.90	4.06	4	5	2
8	4.25	4.59	5	5	4
9	4.45	4.59	5	5	4
10	4.30	4.59	5	5	4
11	4.45	4.53	5	5	4
12	4.70	4.65	5	5	1
13	2.30	2.24	1・2	5	1
14	2.85	3.06	2	5	1
15	4.25	4.53	5	5	3
16	4.40	4.47	5	5	3
17	4.30	4.25	5	5	3
回答者数	20	17			



受講生の傾向

企業法の体系の中でも最も難易度の高い授業であり、企業法及び中級会社法をマスターしていることを前提に行う授業であるため、ほとんどの受講生は熱心であり、また受講生もあまり多くはない。中級会社法でよい成績であった学生が多く受講していたが、上級会社法で伸び悩む学生も多く、本当に実力のある学生だけが優秀な成績であったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

中級会社法からの連続性を特に意識した。
中級会社法の復習を少し行った後に、上級の内容に入るようにし、中級の内容を思い出してもらいながら、深い内容へと入ることができるように工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

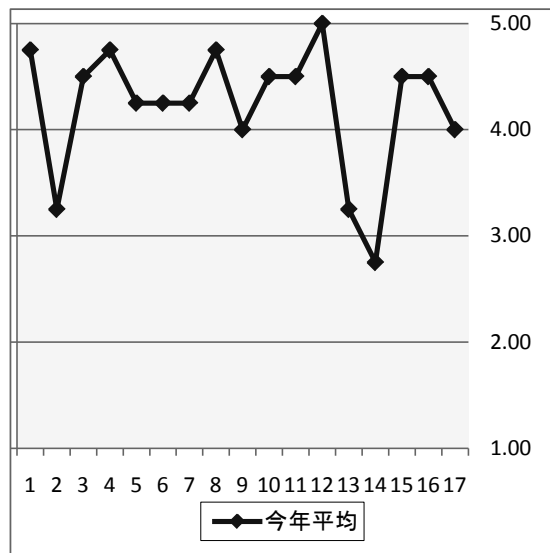
授業のレベルが高くなるので、中級会社法の復習および予習をしっかりとっておかなければ、授業についてくることが困難である旨を学生に徹底する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

中級会社法の内容を前提とはしているが、秋学期から春学期が始まるまでの間にその内容を忘れてしまっている学生が少なからずみられたので、この状況を認識した上で対応したい。

科目	租税法理論<租税法>		
配当年次	2	開講時限	水1
受講者数	8	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.75	5	5	4
2	-	3.25	3	4	3
3	-	4.50	4・5	5	4
4	-	4.75	5	5	4
5	-	4.25	4	5	4
6	-	4.25	4	5	4
7	-	4.25	4	5	4
8	-	4.75	5	5	4
9	-	4.00	4	5	3
10	-	4.50	4・5	5	4
11	-	4.50	4・5	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.25	3	4	3
14	-	2.75	3	3	2
15	-	4.50	4・5	5	4
16	-	4.50	4・5	5	4
17	-	4.00	4	4	4
回答者数	-	4			



受講生の傾向

受講生は真面目に取り組み、ディスカッションも積極的に行っていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義形式でなく、ゼミ形式を採用した。また、受講生には、租税法理論のレジュメと判例分析のレジュメの2種類を作成させ、公認会計士試験における理論対策に努めた。

今後の対応

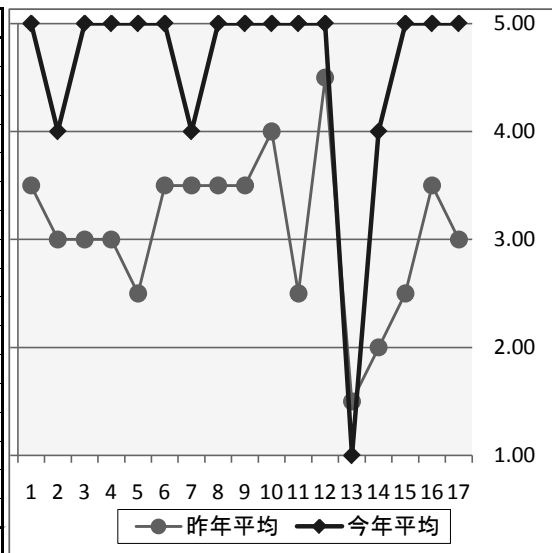
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

理論と判例分析の両方をこなすため、講義時間をオーバーすることが多かった。判例分析の方法をもう少し簡素化させることにより、両者の時間配分を整理したい。

科 目	民法(債権)		
配当年次	2	開講時限	水3
受講者数	6	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.50	5.00	5	5	5
2	3.00	4.00	4	4	4
3	3.00	5.00	5	5	5
4	3.00	5.00	5	5	5
5	2.50	5.00	5	5	5
6	3.50	5.00	5	5	5
7	3.50	4.00	4	4	4
8	3.50	5.00	5	5	5
9	3.50	5.00	5	5	5
10	4.00	5.00	5	5	5
11	2.50	5.00	5	5	5
12	4.50	5.00	5	5	5
13	1.50	1.00	1	1	1
14	2.00	4.00	4	4	4
15	2.50	5.00	5	5	5
16	3.50	5.00	5	5	5
17	3.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



受講生の傾向

前年度の秋学期に民法(総則・物権)を受講した者もいたが、大半の受講生は、民法(債権)については、初学者であった。民法の債権法分野、特に債権総論は、抽象的であるため、初学者にとっては難解であったと思われる。そこで、できる限り、具体的な事例に即して、法律及び判例を解説することにより、受講生が理解し易いように努めたつもりである。また、各講義の冒頭に、前回の講義の復習問題(事例問題)を出題して、受講生に回答してもらい、前回の講義の内容を確認するとともに、理解を深められるように工夫した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の大半が初学者であることを踏まえ、できる限り、具体的な事例に即して、法律及び判例を解説することにより、受講生が理解し易いように努めたつもりである。また、各講義の冒頭に、前回の講義の復習問題(事例問題)を出題して、受講生に回答してもらい、前回の講義の内容を確認するとともに、理解を深められるように工夫した。

今後の対応

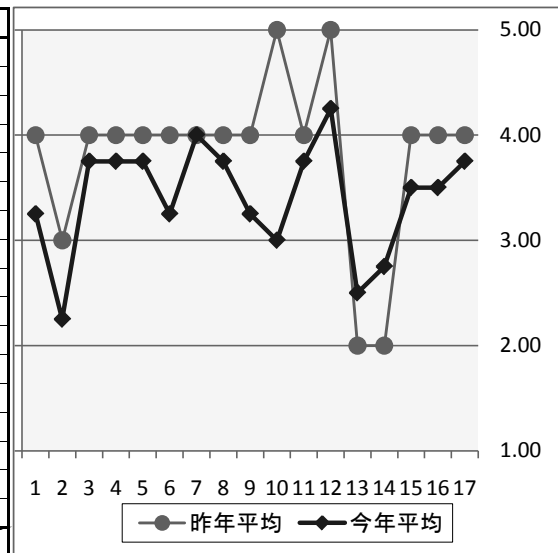
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

平成23年度は、本科目を担当していない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科 目	マクロ経済学		
配当年次	2	開講時限	土4
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	3.25	4	4	1
2	3.00	2.25	3	3	1
3	4.00	3.75	5	5	1
4	4.00	3.75	5	5	1
5	4.00	3.75	5	5	1
6	4.00	3.25	1・3・4・5	5	1
7	4.00	4.00	5	5	2
8	4.00	3.75	5	5	1
9	4.00	3.25	4	4	2
10	5.00	3.00	1・2・4・5	5	1
11	4.00	3.75	5	5	1
12	5.00	4.25	5	5	2
13	2.00	2.50	2	5	1
14	2.00	2.75	2	5	2
15	4.00	3.50	4	5	1
16	4.00	3.50	4	5	1
17	4.00	3.75	5	5	1
回答者数	1	4			



受講生の傾向

マクロ経済学では、ミクロ経済学と並んで経済学の基礎をなす経済理論の一つである。マクロ経済学では、国民所得、雇用、利率などの普段マスコミでよく見られる経済用語を分析に用いるので、受講生はミクロ経済学よりも早く理解することができるといえる。特に、会計士になってからも世界経済や日本経済の動きを理解するのに役立つマクロ経済学には、受講生は強い関心を示して授業に出席している。また、公認会計士はもちろんのこと、公務員や国税官を目指す受講生も出席している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ミクロ経済学よりも身近で分かりやすい経済用語が用いられるので、受講生の理解は早いと言える。世界経済、日本経済の実情を理論的に理解するために、理論だけでなく、実際の経済の動きを授業の時に開設することによって、受講生の関心を高めるように工夫した。さらに、数式をできる限り使わないで、図を用いて受講生に分かりやすく説明したので、理解度は高いと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

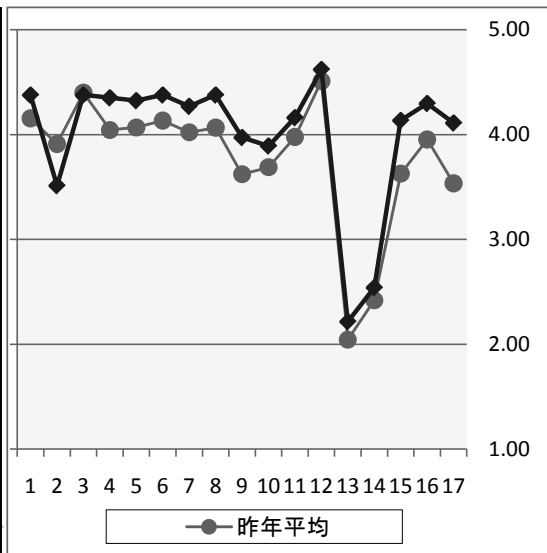
昨年度のアンケートでは、「マクロ経済学は、ミクロ経済学と異なり、受講生には理解しやすい経済理論であるので、基礎的なマクロ経済学の知識を講義したあとで、できるだけ多くの宿題や練習問題に取り組みさせるようにする。」と記載したが、実際はあまり練習問題を解かせる時間がなかった。それで、試験を重視し

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生にとって、マクロ経済学はミクロ経済学よりも取り組み易い内容であるので、最初からある程度のレベルに授業を行うことができる。それで、今後はマクロ経済学的な理論と実際の経済の動きをリンクさせる講義を行い、受講生の興味と学力を引き上げるよう努める。

科 目	会計事例研究		
配当年次	1	開講時限	水3
受講者数	42	回答者数	37

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.16	4.38	4・5	5	3
2	3.91	3.51	3	5	3
3	4.40	4.38	4・5	5	3
4	4.04	4.35	4	5	2
5	4.07	4.32	4	5	2
6	4.13	4.38	4	5	3
7	4.02	4.27	4	5	2
8	4.07	4.38	5	5	2
9	3.62	3.97	4	5	2
10	3.69	3.89	4	5	2
11	3.98	4.16	5	5	1
12	4.51	4.62	5	5	2
13	2.04	2.22	1	5	1
14	2.42	2.54	2	5	1
15	3.63	4.14	4	5	2
16	3.95	4.30	4	5	2
17	3.53	4.11	4	5	2
回答者数	45	37			



受講生の傾向

全体的におとなしい傾向にあった。質問や時事問題に関する関心も、昨年と比べると低かったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基準の解説には、(1年次が大半ということもあり)全くついていけない人がいるようなので、よりケーススタディを多く取り入れて、グループで考えてもらう時間を多くとった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

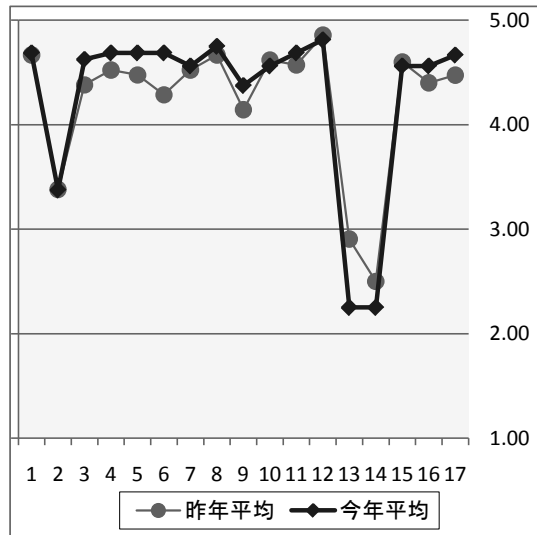
スピードが速いという意見があるので、初学者(1年次)であることを考慮して、もう少し理解を深めながら進めるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

さらにゆっくりと、丁寧に進める必要がある。今年は、基準に関するケーススタディだけでなく、社会的なインパクトや考え方についてもグループディスカッションを取り入れ、より能動的に考えてもらうタイプの講義にしたいと思う。

科目	監査事例研究		
配当年次	1	開講時限	水3
受講者数	25	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.69	5	5	4
2	3.38	3.38	3	5	3
3	4.38	4.63	5	5	4
4	4.52	4.69	5	5	4
5	4.48	4.69	5	5	4
6	4.29	4.69	5	5	4
7	4.52	4.56	5	5	3
8	4.67	4.75	5	5	4
9	4.14	4.38	5	5	3
10	4.62	4.56	5	5	3
11	4.57	4.69	5	5	4
12	4.86	4.81	5	5	4
13	2.90	2.25	1	5	1
14	2.50	2.25	2	5	1
15	4.60	4.56	5	5	4
16	4.40	4.56	5	5	4
17	4.47	4.67	5	5	4
回答者数	21	16			



受講生の傾向

最初はおとなしかったが、回数を進めるにつれて、積極的な意見も出てきた。内容については、より深く、落ち着いた考えを持っている人も見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

プレゼンの練習でもあることを事前に伝えて、プレゼンの方法(マイク、立ち方等)についても、基本的な指導を行った。グループ発表について、12月中旬に短答式試験の受験者が多くいたため、試験の準備と発表の事前準備が重ならないように、発表時期を工夫した。

今後の対応

Q昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

発表の方法についてもう少し指導を行うようにして、内容のみならず発表の練習でもあることを意識してもらいたい。

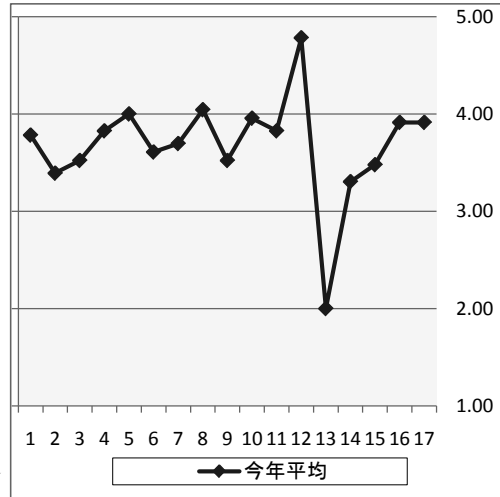
Q上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この授業に関しては、学生も非常に楽しみながら、ビビッドに現場の感覚や会計士としての心構えを習得してくれているように思う。

今年も、よりさまざまな切り口で、監査判断が行われているということを伝えるための情熱と工夫を維持したいと思う。

科目	基本会計プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	火1
受講者数	25	回答者数	23

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	3.78	4	5	2
2	-	3.39	4	4	2
3	-	3.52	4	5	2
4	-	3.83	4	5	2
5	-	4.00	4	5	3
6	-	3.61	4	5	2
7	-	3.70	4	5	3
8	-	4.04	4	5	3
9	-	3.52	4	4	2
10	-	3.96	4	4	3
11	-	3.83	4	5	1
12	-	4.78	5	5	3
13	-	2.00	1	5	1
14	-	3.30	3	5	1
15	-	3.48	4	5	2
16	-	3.91	4	5	3
17	-	3.91	4	5	3
回答者数	-	23			



受講生の傾向

欠席をする学生が少なくなかった。

研究科の性質上、当然であるが、コンピュータ(特にプログラミング)に関する知識のない学生がほとんどであった。課題の提出率が非常に高かったが、習得しようとする気持ちが表れている学生と単に提出する学生に分かれた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、在外研究期間であったため、担当していない。

学生が、コンピュータの利用やソフトウェアの構造に関する知識がないことを前提に講義を行った。

講義の進捗状況や予定されている講義の内容と目的を、頻回に説明した。

学生の習熟度や理解度を認識するため、実習中の机間巡回を必ず行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

該当なし

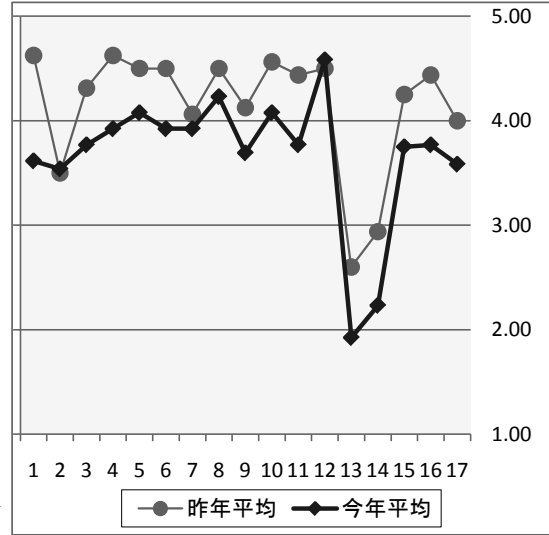
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験と直接にはつながらないが公認会計士業務と本講義の内容との関係を伝え、意義を理解させる努力を講じる。

予習用の教材が未だできていないため、鋭意作成に努める。

科目	基本監査プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	金1
受講者数	25	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.63	3.62	3	5	2
2	3.50	3.54	4	5	2
3	4.31	3.77	3	5	2
4	4.63	3.92	4	5	2
5	4.50	4.08	4	5	3
6	4.50	3.92	4	5	2
7	4.06	3.92	4	5	2
8	4.50	4.23	4	5	3
9	4.13	3.69	4・5	5	2
10	4.56	4.08	4	5	3
11	4.44	3.77	4	5	2
12	4.50	4.58	5	5	3
13	2.60	1.92	1	5	1
14	2.94	2.23	1	5	1
15	4.25	3.75	4	5	3
16	4.44	3.77	4	5	3
17	4.00	3.58	3	5	2
回答者数	16	13			



受講生の傾向

出席率(項目12)は約90%であったことから、参加意欲も高く積極的に学生は授業に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も監査基準の改訂があったため、当該改訂を反映したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて基準や実務指針、意見書等を用意し、配布した上で、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。このように前半においては、監査実施プロセスについてテキストに基づいて授業を行ない、後半に、監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。これら前半の資料については、授業の都度、関西大学インフォメーション・システムにアップロードし復習のよう供した。

前半の講義により、監査プログラムを動かすための基本的な用語や概念、内容を理解させたことで、後半の実践的なプログラム運用が効果的に行なえた。また去年通り、前半の授業段階では、各自の理解度を確認するために、質疑応答を導入し、回答回数に応じた成績評価を導入した。同時に前半に用いたスライドの最後には、受講生に復習を促すための

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

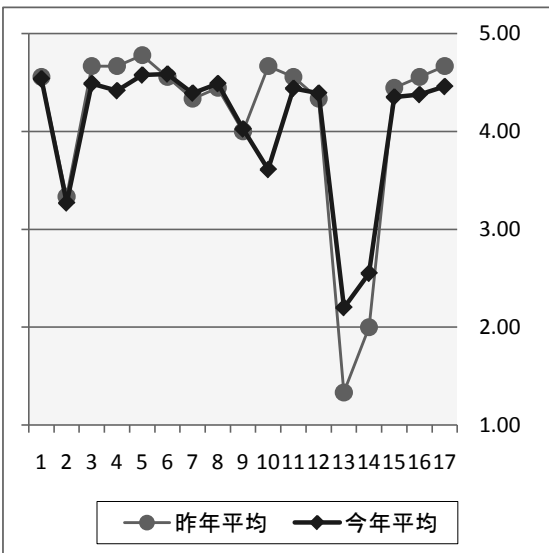
授業時間内での質疑応答に対して、相対的に積極的な受講生とそうでないものがあり、全ての学生に対して発言機会を与える方法を考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

演習に当たっての机間巡回を増やすことで、個別指導と発言機会の増加を図る必要があるかもしれない。

科目	BATIC演習		
配当年次	1	開講時限	±3
受講者数	42	回答者数	41

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.54	5	5	1
2	3.33	3.27	3	5	2
3	4.67	4.49	5	5	2
4	4.67	4.41	5	5	1
5	4.78	4.58	5	5	1
6	4.56	4.59	5	5	1
7	4.33	4.39	5	5	1
8	4.44	4.49	5	5	2
9	4.00	4.02	5	5	1
10	4.67	3.61	5	5	1
11	4.56	4.44	5	5	2
12	4.33	4.39	5	5	2
13	1.33	2.20	1	5	1
14	2.00	2.55	2	5	1
15	4.44	4.35	5	5	1
16	4.56	4.38	5	5	1
17	4.67	4.46	4・5	5	3
回答者数	9	41			



受講生の傾向

- ・欠席せず毎回出席する学生が多かったようである。
- ・アンケート結果からも明らかだが、特に予習・復習課題は課さずまた受講者も予習復習に時間を割いていないが、講義内容を理解しようと努める学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、引き続きより実務経験を踏まえた講義を実施するよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、来年度以降もより実務経験を踏まえた講義を実施する。

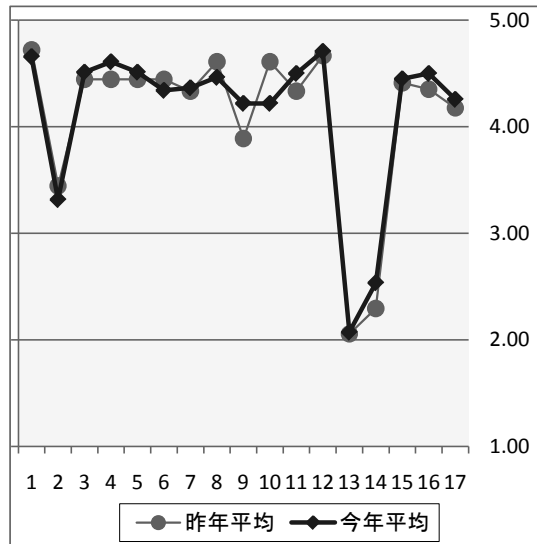
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に比べて受講者数が増えたが、アンケート結果の傾向がほぼ同様であることから、引き続き良質な講義を提供するよう努力したい。

唯一、クラス規模に関してはポイントが悪化しているが、この点は今後の課題としたい。

科目	IFRS実務		
配当年次	1	開講時限	土4
受講者数	51	回答者数	41

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.72	4.66	5	5	3
2	3.44	3.32	3	5	3
3	4.44	4.51	5	5	3
4	4.44	4.61	5	5	3
5	4.44	4.51	5	5	3
6	4.44	4.34	5	5	2
7	4.33	4.37	5	5	3
8	4.61	4.46	5	5	3
9	3.89	4.22	5	5	3
10	4.61	4.22	4	5	2
11	4.33	4.50	5	5	3
12	4.67	4.71	5	5	3
13	2.06	2.07	1	5	1
14	2.29	2.54	2	5	1
15	4.41	4.45	5	5	3
16	4.35	4.50	5	5	3
17	4.18	4.26	4・5	5	2
回答者数	18	41			



受講生の傾向

- ・欠席せず毎回出席する学生が多かったようである。
- ・アンケート結果からも明らかだが、特に予習・復習課題は課さずまた受講者も予習復習に時間を割いていないが、講義内容を理解しようと努める学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、引き続きより実務経験を踏まえた講義を実施するよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

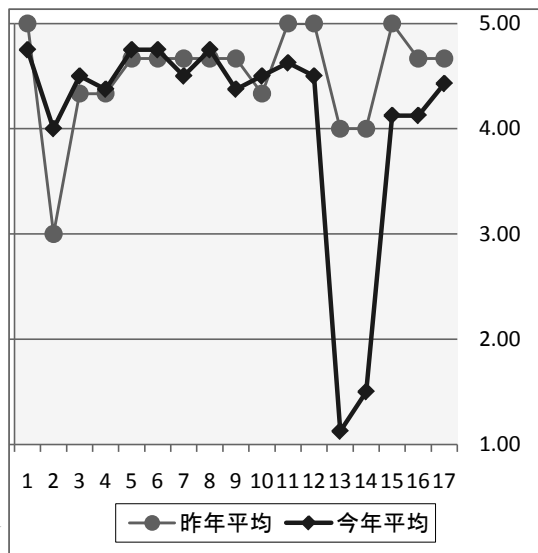
アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、来年度以降もより実務経験を踏まえた講義を実施する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に比べて受講者数が増えたが、アンケート結果の傾向がほぼ同様であることから、引き続き良質な講義を提供するよう努力したい。

科目	実践会計プログラム演習		
配当年次	2	開講時限	月4
受講者数	10	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.75	5	5	4
2	3.00	4.00	3・5	5	3
3	4.33	4.50	5	5	3
4	4.33	4.38	5	5	3
5	4.67	4.75	5	5	4
6	4.67	4.75	5	5	4
7	4.67	4.50	5	5	3
8	4.67	4.75	5	5	4
9	4.67	4.38	5	5	3
10	4.33	4.50	5	5	3
11	5.00	4.63	5	5	4
12	5.00	4.50	5	5	1
13	4.00	1.13	1	2	1
14	4.00	1.50	1	3	1
15	5.00	4.13	4・5	5	3
16	4.67	4.13	4	5	3
17	4.67	4.43	5	5	3
回答者数	3	8			



受講生の傾向

全員がほぼ100%の出席率であり、本研究科修了後のスキルを考えて受講しているようであった。概ね、熱心に受講しているが、予習・復習の時間が極端に少ない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

わかりやすい教材の作成につと、講義の性質上、具体的なコンピュータ・ディスプレイのハードコピーを教材に多用し、復習の際に、毎回の講義をトレースできるように作成した。

今後の対応

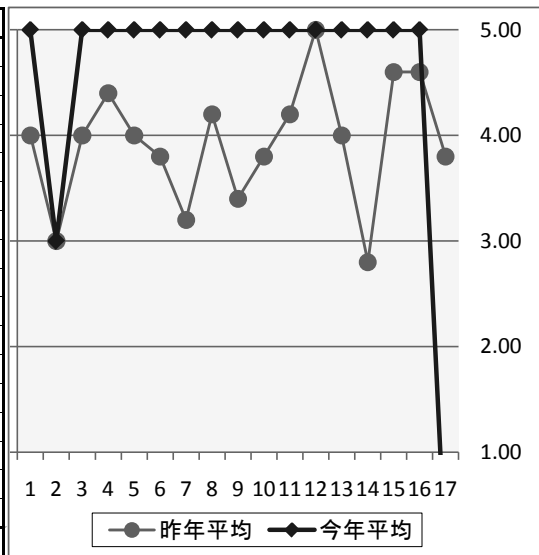
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
無記載

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の受講生の予復習時間が今年度より長い。
まずは、昨年度の講義担当者の教授法を聴取した後、今後の講義に活かしていきたい。

科 目	アカデミック・ソリューションA (柴クラス)		
配当年次	1	開講時限	金5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.40	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	3.80	5.00	5	5	5
7	3.20	5.00	5	5	5
8	4.20	5.00	5	5	5
9	3.40	5.00	5	5	5
10	3.80	5.00	5	5	5
11	4.20	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	5.00	5	5	5
14	2.80	5.00	5	5	5
15	4.60	5.00	5	5	5
16	4.60	5.00	5	5	5
17	3.80	無回答	-	-	-
回答者数	5	1			



受講生の傾向

受講者・回答者が1名なので傾向は示すことができない。当該受講者にとってはうまく相性があった科目なのかもしれないと推測できるだけである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者が1名なので、学習方法も学習進捗も、当該受講生にあったものに常に修正していく必要があり、事実そうしていった。かかる個別指導が講義で実現することがまれなので、ここでの工夫は銅も一般化できない。ただし、教授側・学習側双方にとって恵まれすぎた環境であったことは間違いない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

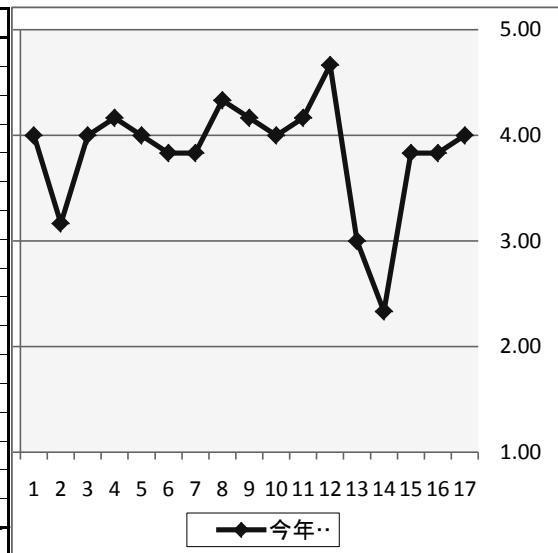
「今度の学習方法が効果的であるのでこの方法を継続する」と記載した。ここに「今年度の学習方法」とは「全員に対して徹底的に質問を浴びせ、答えられるように訓練する」ものである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ソリューションでは徹底した対話型(質疑応答)が効果的であるのでこれを更に工夫して明年度も継続する。

科 目	アカデミック・ソリューションA (富田クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	6	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	4	5	3
2	-	3.17	3	4	3
3	-	4.00	4	5	3
4	-	4.17	4	5	4
5	-	4.00	4	5	3
6	-	3.83	4	5	3
7	-	3.83	4	5	3
8	-	4.33	4	5	4
9	-	4.17	4	5	4
10	-	4.00	4	5	3
11	-	4.17	4	5	4
12	-	4.67	5	5	3
13	-	3.00	3	5	1
14	-	2.33	2	4	1
15	-	3.83	4	5	3
16	-	3.83	4	4	3
17	-	4.00	4	5	3
回答者数	-	6			



受講生の傾向

ほとんどの受講生が、欠席することなく参加した。
 予習・復習を充分に行い、講義時間中も熱心に質疑応答、プレゼンテーションを行っていた。
 当初、会計に関する知識が充分であるとはいえなかったが、高い学習意欲を持ち、キャッチアップするに至ったと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、在外研究期間であったため、昨年度の結果を踏まえての工夫・留意はない。
 学生の予習を促すため、予習しておくべき箇所の指摘を行った。
 また、ときどき、小テストを行い、理解度の確認に努めた。

今後の対応

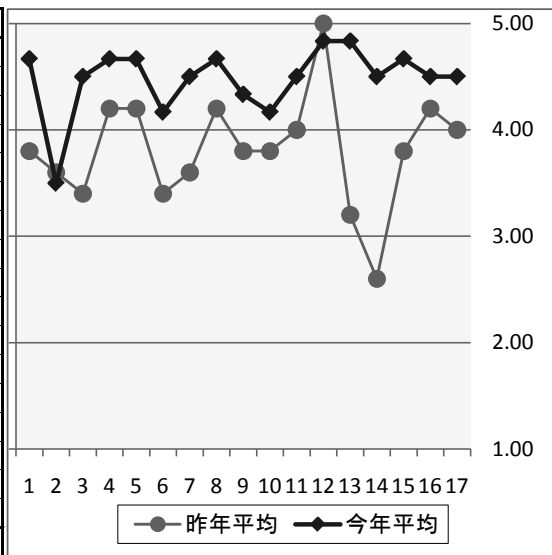
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

春学期に開講されることを考慮し、より導入しやすい、また、学生が意欲を高めやすい工夫を模索したい。

科 目	アカデミック・ソリューションA (松本クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	7	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.80	4.67	5	5	4
2	3.60	3.50	3・4	4	3
3	3.40	4.50	4・5	5	4
4	4.20	4.67	5	5	4
5	4.20	4.67	5	5	4
6	3.40	4.17	4	5	3
7	3.60	4.50	4・5	5	4
8	4.20	4.67	5	5	4
9	3.80	4.33	5	5	3
10	3.80	4.17	5	5	3
11	4.00	4.50	4・5	5	4
12	5.00	4.83	5	5	4
13	3.20	4.83	5	5	4
14	2.60	4.50	5	5	3
15	3.80	4.67	5	5	4
16	4.20	4.50	4・5	5	4
17	4.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	5	6			



受講生の傾向

全員が真面目にほぼ100%出席している(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

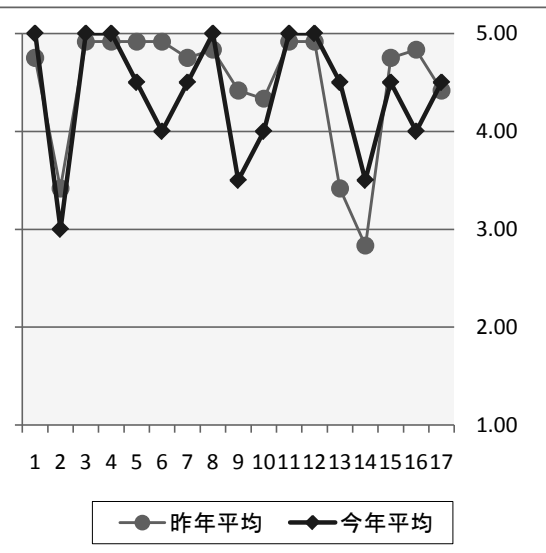
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない学生に、どのような補修を実施するかを考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

正規の時間外で、個別能力に応じた指導を導入する必要がある。

科 目	アカデミック・ソリューションA (三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	金5
受講者数	4	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	5.00	5	5	5
2	3.42	3.00	3	3	3
3	4.92	5.00	5	5	5
4	4.92	5.00	5	5	5
5	4.92	4.50	4・5	5	4
6	4.92	4.00	4	4	4
7	4.75	4.50	4・5	5	4
8	4.83	5.00	5	5	5
9	4.42	3.50	4・5	4	3
10	4.33	4.00	4	4	4
11	4.92	5.00	5	5	5
12	4.92	5.00	5	5	5
13	3.42	4.50	4・5	5	4
14	2.83	3.50	2・5	5	2
15	4.75	4.50	4・5	5	4
16	4.83	4.00	4	4	4
17	4.42	4.50	4・5	5	4
回答者数	12	2			



受講生の傾向

今年度は、学生全員が意欲を持って学習していた。
特に、人数が4人という少人数であったこともあり、全員が積極的に発言し、討論に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ソリューションという授業の性質上、学生のイニシアチヴによる授業の進行に留意した。
また、特定の学生だけでなく全員の学生が積極的に授業に参加するよう心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

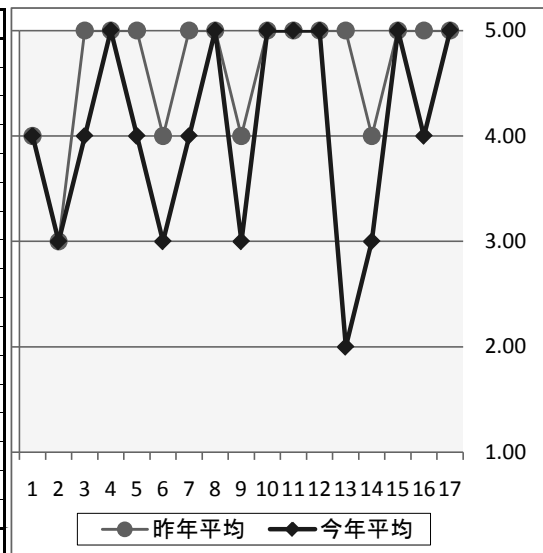
学生間の議論はまだ不足しているように思われる。
より一層、学生主導のソリューションとしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は、4人という少人数であったことから、ほぼ理想的な授業を行うことができた。
今後は、人数のいかにかわらず、今年度のような授業ができるようにしたい。

科 目	アカデミック・ソリューションA (宮本クラス)		
配当年次	1	開講時限	土1
受講者数	2	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.00	4	4	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.00	4	4	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	4.00	4	4	4
6	4.00	3.00	3	3	3
7	5.00	4.00	4	4	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.00	3.00	3	3	3
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	2.00	2	2	2
14	4.00	3.00	3	3	3
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	4.00	4	4	4
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	1	1			



受講生の傾向

アカデミック・ソリューションAは、ミクロ経済学の消費の理論、生産の理論、市場の理論などを中心に、基本的な理論をわかり易く解説するので、受講生は非常に興味を持って、熱心に受講してくれた。公認会計士以外に、公務員や国税官などを目指す受講生も何人か見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学部時代には経済学を受講したと答えている受講生が多かったが、その大半は授業をほとんど覚えていないとのことであったので、初歩ミクロ経済学から授業をスタートした。その結果、受講生はかなり理解度を深めてくれたものと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

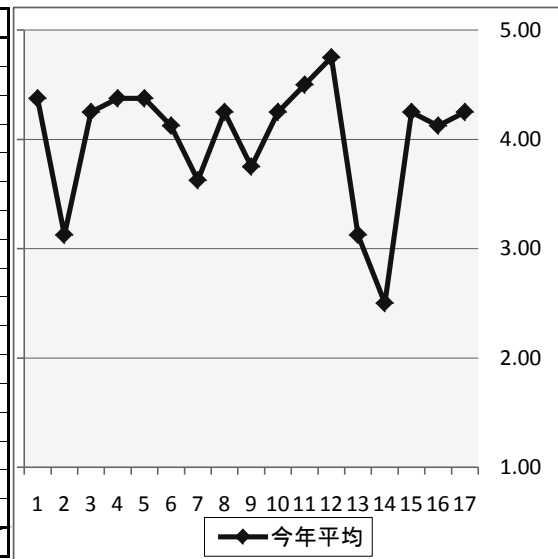
昨年度の授業評価アンケートの「今後の対応」では、「最初は、基礎的な内容の分かり易い授業を行い、経済学の考え方に慣れてくれば授業の回数を重ねるにつれて徐々にレベルを上げて、最後には模擬試験の問題が解けるレベルまで学力を引き上げる。」と記載しているが、本年度はこの方向で授業が実施できたと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度は、昨年度のアンケート結果を踏まえて、最初は基礎的、初歩的な授業からスタートし、受講生の理解度を高めて行き、徐々に内容を高度化して、最後は模擬試験レベルの問題が解けるレベルにまで受講生の学力を引き上げるように工夫する。

科 目	アカデミック・ソリューションA (中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	8	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.38	5	5	3
2	-	3.13	3	4	3
3	-	4.25	4	5	3
4	-	4.38	5	5	3
5	-	4.38	4	5	4
6	-	4.13	4	5	3
7	-	3.63	4	5	2
8	-	4.25	4	5	3
9	-	3.75	4	4	3
10	-	4.25	4	5	3
11	-	4.50	4・5	5	4
12	-	4.75	5	5	4
13	-	3.13	3	4	2
14	-	2.50	2・3	4	1
15	-	4.25	4	5	4
16	-	4.13	4	5	4
17	-	4.25	4	5	4
回答者数	-	8			



受講生の傾向

受講生の大半が、租税法の初学者であるにもかかわらず、予習、復習に充てる時間が不足している印象を受けた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生は税法初学者が多かったことを考慮し、所得税法のスタンダードレベルの教科書を使った(佐藤英明『スタンダード所得税法[補正版]』弘文堂・2010)。また、租税法への関心が低い者を受講生間のディスカッションに引き込むため、積極的に発言の機会を与えた。さらに、所得税法に関する課題レポート(判例分析)を課した。

今後の対応

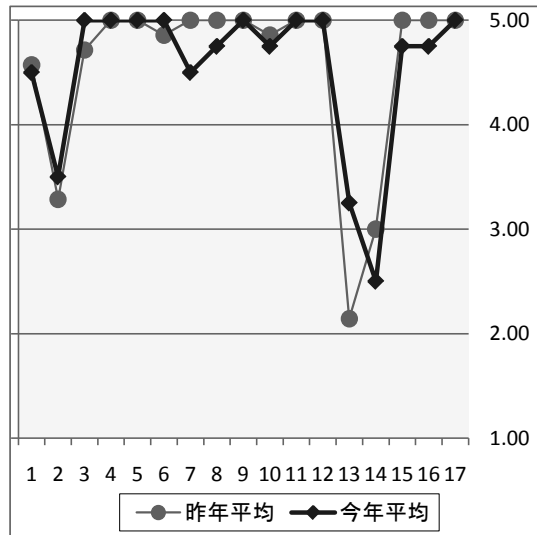
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生にもっと所得税法を学ぶ時間をとらせるべく、課題レポートの回数を増やす必要がある。

科目	アカデミック・ソリューションB(坂口クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.57	4.50	4・5	5	4
2	3.29	3.50	3	5	3
3	4.71	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.86	5.00	5	5	5
7	5.00	4.50	5	5	3
8	5.00	4.75	5	5	4
9	5.00	5.00	5	5	5
10	4.86	4.75	5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.14	3.25	3	4	3
14	3.00	2.50	2・3	3	2
15	5.00	4.75	5	5	4
16	5.00	4.75	5	5	4
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	7	4			



受講生の傾向

基本的に習熟度が高い学生が受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生の理解を促進するため、特定のトピックに焦点を絞り、基本的な理論を中心に解説した。また、これを踏まえて、学生参加によるディスカッションを実施した。

今後の対応

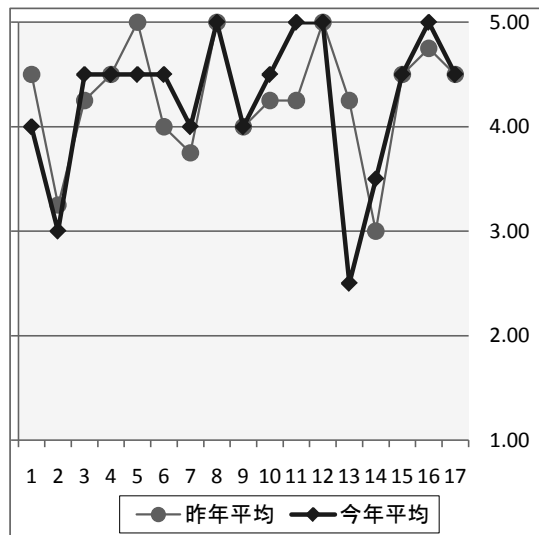
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

基本理論、企業事例だけでなく、実際に企業で実務に従事している人から事例を聞くことが必要であるため、今後そうした機会を探索していきたい。

科目	アカデミック・ソリューションB(柴クラス)		
配当年次	1	開講時限	金5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.00	4	4	4
2	3.25	3.00	3	3	3
3	4.25	4.50	4・5	5	4
4	4.50	4.50	4・5	5	4
5	5.00	4.50	4・5	5	4
6	4.00	4.50	4・5	5	4
7	3.75	4.00	4	4	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.00	4.00	4	4	4
10	4.25	4.50	4・5	5	4
11	4.25	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.25	2.50	2・3	3	2
14	3.00	3.50	3・4	4	3
15	4.50	4.50	4・5	5	4
16	4.75	5.00	5	5	5
17	4.50	4.50	4・5	5	4
回答者数	4	2			



受講生の傾向

受講者・回答者が2名に増えたが、やはり傾向は示すことができない。当該受講者にとってはうまく相性があつた科目なのかもしれないと推測できるだけである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者が2名なので、学習方法も学習進度も、当該受講生にあつたものに常に修正していく必要があり、事実そうしていった。かかる個別指導が講義で実現することがまれなので、ここでの工夫は銅も一般化できない。ただし、教授側・学習側双方にとって恵まれすぎた環境であつたことは間違いない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

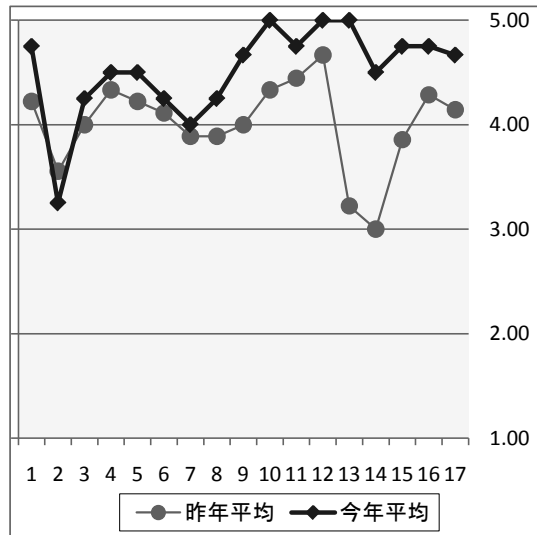
「今度の学習方法が効果的であるのでこの方法を継続する」と記載した。ここに「今年度の学習方法」とは「全員に対して徹底的に質問を浴びせ、答えられるように訓練する」ものである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ソリューションでは徹底した対話型(質疑応答)が効果的であるのでこれを更に工夫して明年度も継続する。

科目	アカデミック・ソリューションB(清水クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.22	4.75	5	5	4
2	3.56	3.25	3	4	3
3	4.00	4.25	5	5	3
4	4.33	4.50	4・5	5	4
5	4.22	4.50	4・5	5	4
6	4.11	4.25	5	5	3
7	3.89	4.00	4	5	3
8	3.89	4.25	5	5	3
9	4.00	4.67	5	5	4
10	4.33	5.00	5	5	5
11	4.44	4.75	5	5	4
12	4.67	5.00	5	5	5
13	3.22	5.00	5	5	5
14	3.00	4.50	5	5	3
15	3.86	4.75	5	5	4
16	4.29	4.75	5	5	4
17	4.14	4.67	5	5	4
回答者数	9	4			



受講生の傾向

一般的に満足度は高い結果となっている。ただし、実際の演習の状況からはあまり積極的な取組は窺えなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
 予め設問を配布し、それに対する解答を公表しディスカッションする方式に変更した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

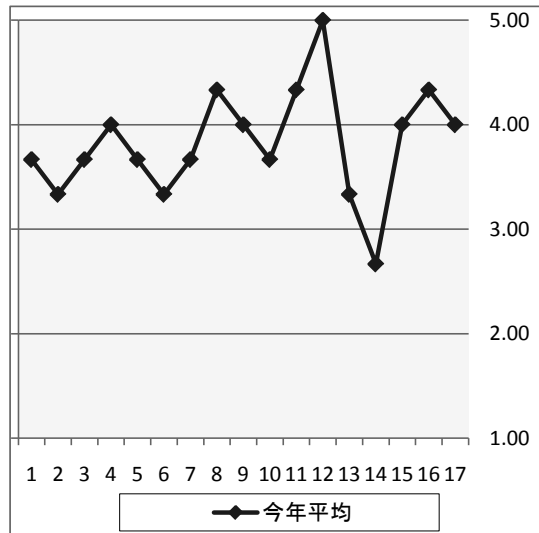
予め設問を配布し、それに対する解答を公表しディスカッションする方式に変更する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

一般的な満足度は維持しつつメンバー全員が自発的に勉学に励むようなきっかけづくりを模索したい。

科目	アカデミック・ソリューションB(富田クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	4	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	3.67	4	4	3
2	-	3.33	3	4	3
3	-	3.67	4	4	3
4	-	4.00	4	4	4
5	-	3.67	4	4	3
6	-	3.33	3	4	3
7	-	3.67	4	4	3
8	-	4.33	4	5	4
9	-	4.00	4	4	4
10	-	3.67	4	4	3
11	-	4.33	4	5	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.33	3	4	3
14	-	2.67	3	3	2
15	-	4.00	4	4	4
16	-	4.33	4	5	4
17	-	4.00	4	4	4
回答者数	-	3			



受講生の傾向

受講生全員が、欠席することなく参加した。
 予習は充分行うが、復習への時間が充分には感じられなかった。
 自分に課された課題は行い、講義時間のプレゼンテーションや質疑応答を行ったように感じる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
 昨年度は、在外研究期間であったため、昨年度の結果を踏まえての工夫・留意はない。
 学生の予習を促すため、予習しておくべき箇所の指摘を行った。

今後の対応

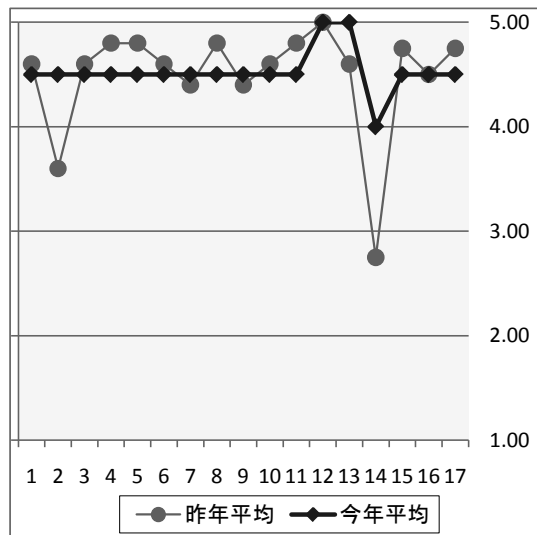
○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」
 該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

「アカデミック・ソリューション」という科目の趣旨を受講生に周知し、学生が積極的に参加する状態を作るのに必要なことを模索したい。

科目	アカデミック・ソリューションB(松本クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.50	4・5	5	4
2	3.60	4.50	4・5	5	4
3	4.60	4.50	4・5	5	4
4	4.80	4.50	4・5	5	4
5	4.80	4.50	4・5	5	4
6	4.60	4.50	4・5	5	4
7	4.40	4.50	4・5	5	4
8	4.80	4.50	4・5	5	4
9	4.40	4.50	4・5	5	4
10	4.60	4.50	4・5	5	4
11	4.80	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.60	5.00	5	5	5
14	2.75	4.00	3・5	5	3
15	4.75	4.50	4・5	5	4
16	4.50	4.50	4・5	5	4
17	4.75	4.50	4・5	5	4
回答者数	5	2			



受講生の傾向

全員が真面目に100%出席した(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

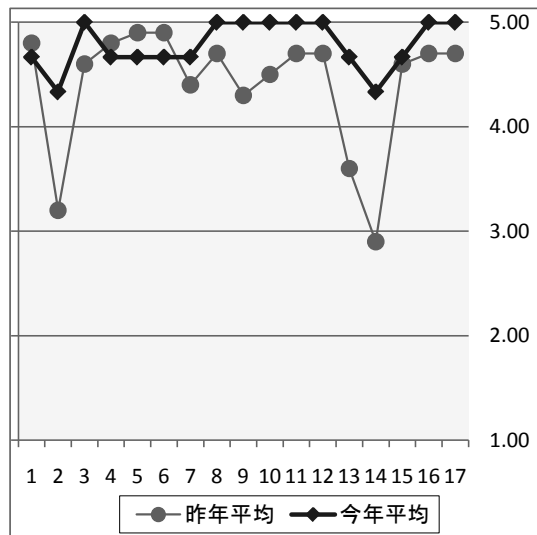
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない学生に、どのような補修を実施するかを考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

個々の能力差に応じて、正規の時間外で指導を行なう必要がある。

科目	アカデミック・ソリューションB(三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	金5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.67	5	5	4
2	3.20	4.33	5	5	3
3	4.60	5.00	5	5	5
4	4.80	4.67	5	5	4
5	4.90	4.67	5	5	4
6	4.90	4.67	5	5	4
7	4.40	4.67	5	5	4
8	4.70	5.00	5	5	5
9	4.30	5.00	5	5	5
10	4.50	5.00	5	5	5
11	4.70	5.00	5	5	5
12	4.70	5.00	5	5	5
13	3.60	4.67	5	5	4
14	2.90	4.33	4	5	4
15	4.60	4.67	5	5	4
16	4.70	5.00	5	5	5
17	4.70	5.00	5	5	5
回答者数	10	3			



受講生の傾向

アカデミックソリューションAと同様、少人数ではあったが、学生が授業に積極的に取り組んでいた。特に、授業時において積極的であるのみならず、予習・復習ともに熱心に行っていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

アカデミックソリューションBは、Aよりもその授業の性質・特色を学生が理解していることから、より学生主導を進めることに心がけた。

具体的には、学生による授業の進行、討論および結論へと進め、教員は結論ののちにコメントおよび解説を行い、場合によっては、途中に軌道修正をするという授業の進め方をした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

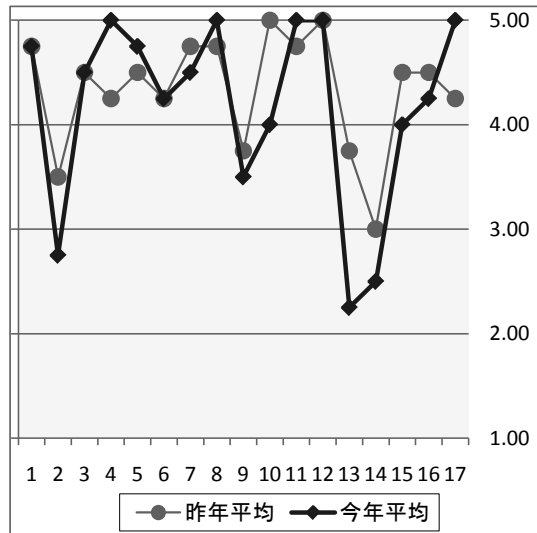
人数が多くなっても、学生の学力や学習状況を踏まえたきめ細かな指導ができるように工夫したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回は、学生による授業の進行・討論・結論から、教員によるコメントという、理想的な授業を行うことができたが、今後も学生数やその性質のいかんにかかわらず、このような授業を進めていきたい。

科目	アカデミック・ソリューションB(宮本クラス)		
配当年次	1	開講時限	土1
受講者数	9	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.75	5	5	4
2	3.50	2.75	3	3	2
3	4.50	4.50	4・5	5	4
4	4.25	5.00	5	5	5
5	4.50	4.75	5	5	4
6	4.25	4.25	5	5	3
7	4.75	4.50	4・5	5	4
8	4.75	5.00	5	5	5
9	3.75	3.50	3	5	3
10	5.00	4.00	4	5	3
11	4.75	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.75	2.25	2	3	2
14	3.00	2.50	2・3	3	2
15	4.50	4.00	5	5	1
16	4.50	4.25	4	5	4
17	4.25	5.00	5	5	5
回答者数	4	4			



受講生の傾向

アカデミック・ソリューションBでは、アカデミック・ソリューションAから引き続き受講した少数の学生とアカデミック・ソリューションBから新たに受講したかなり多くの学生が混在したが、新たに授業に参加した学生は、もともと経済学の基礎力を持っていたことと、平行してミクロ経済学を受講することを勧めたので、両者の間に学力差はほとんどなく、レベルの高い授業を行うことができるようになった。全員15回の講義にほとんど欠席はなく、熱心に授業を受講した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度のアンケートによると、「授業は非常によく理解できるが、模擬試験の問題などをすべて解くのは現段階では難しいと感じた」との意見もあったので、アカデミック・ソリューションBでは授業と模擬試験を繋ぐ意味で、過去の公認会計士の試験問題などを例題としてかなり多く取り上げて、学生に解答をホワイトボードに書かせて、全員で解かせて解法能力を高めるように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

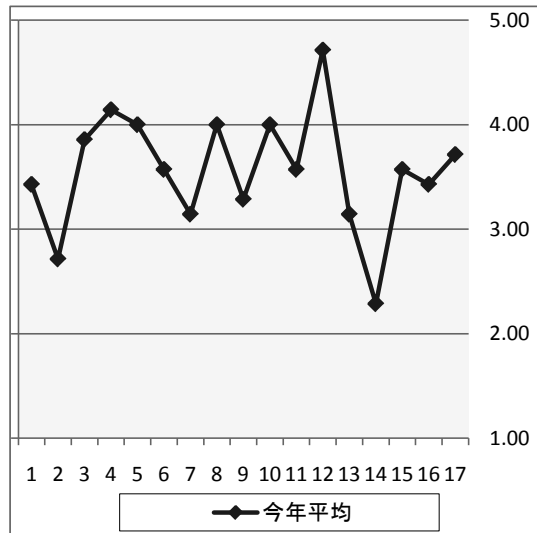
昨年度の授業評価アンケートでは「学部時代に経済学の基礎的知識を習得した学生と、経済学部以外から進学してきた院生との間に、初期の段階でやや学力差が見られたので、最初はできる限り初心者向けのわかりやすい授業を心がけた。そして、徐々にレベルを引き上げる。」と記載していたが、本年度も同じように、アカデミック・ソリューションBから参加してきた学生が大勢いたので、同じ方針で授業を行うことにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度も、最初は初歩的・基礎的な内容の分かりやすい授業を行い、その後経済学の考え方に慣れてくれば徐々にレベルを引き上げて、最後には模擬試験の問題が解けるレベルまで受講生の学力を引き上げる方針でやってきていて効果があったと考えているので、今後もその方針で授業を行っていくつもりである。

科目	アカデミック・ソリューションB(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	7	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	3.43	4	5	1
2	-	2.71	3	4	1
3	-	3.86	4	5	1
4	-	4.14	5	5	1
5	-	4.00	4・5	5	1
6	-	3.57	4	5	1
7	-	3.14	3・4	4	1
8	-	4.00	4・5	5	1
9	-	3.29	4	4	1
10	-	4.00	4・5	5	1
11	-	3.57	4	5	1
12	-	4.71	5	5	4
13	-	3.14	4	5	1
14	-	2.29	1・2・3	4	1
15	-	3.57	4	5	1
16	-	3.43	4	4	1
17	-	3.71	4	5	1
回答者数	-	7			



受講生の傾向

法人税法への関心が低い者が目立ち、私語が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義にあたり、ホワイトボードを使って、対象となる法人取引を図解し、適用条文を具体的に確認した。また、私語をする受講生をディスカッションに巻き込むため、報告機会を多く課した。

今後の対応

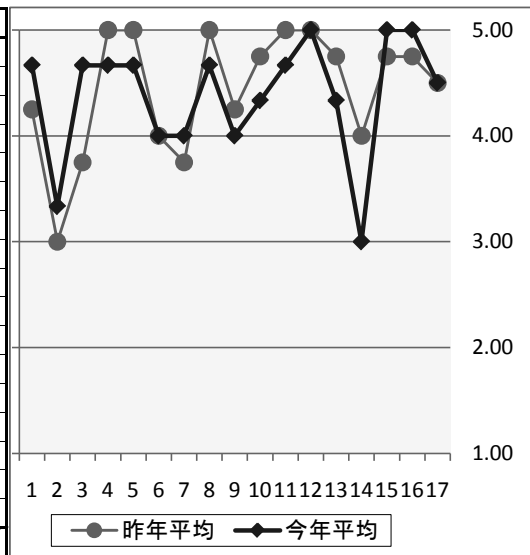
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回使用したテキスト(本庄資・藤井保憲『法人税法 実務と理論』弘文堂・2008)が難解であるとの意見を受講生から受け取っている。テキストの見直しを行いたい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(柴クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.67	5	5	4
2	3.00	3.33	3	4	3
3	3.75	4.67	5	5	4
4	5.00	4.67	5	5	4
5	5.00	4.67	5	5	4
6	4.00	4.00	3・4・5	5	3
7	3.75	4.00	3・4・5	5	3
8	5.00	4.67	5	5	4
9	4.25	4.00	3・4・5	5	3
10	4.75	4.33	5	5	3
11	5.00	4.67	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.75	4.33	5	5	3
14	4.00	3.00	1・3・5	5	1
15	4.75	5.00	5	5	5
16	4.75	5.00	5	5	5
17	4.50	4.50	4・5	5	4
回答者数	4	3			



受講生の傾向

科目に対する評価も受講生自身の学習姿勢評価も一昨年は低かったが、昨年度は一転して高い評価に変わった。今年度はやや評価が下がったが依然として高い水準を維持している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

例年、プロフェッショナル・ソリューションでは学生に個別のテーマを選択させて、各自の報告に対して、相互に疑問点をぶつけ合う方式を採用し、学習の深化を誘導している。この方式は今年度も踏襲している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

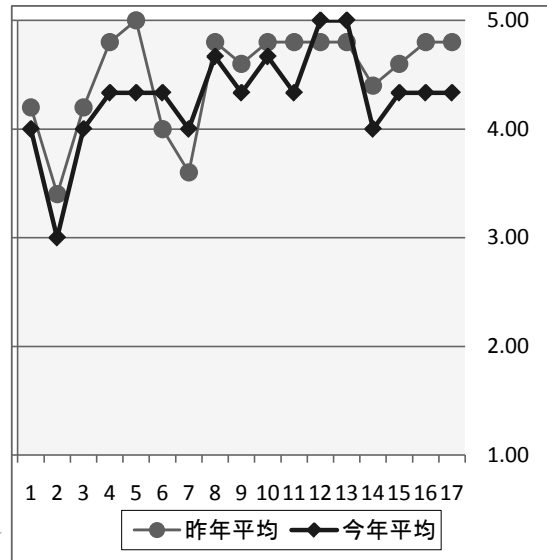
「大幅に負荷を高める方式が受け入れられているので、明年度もこれを踏襲する」と記載した。この記載は、さらに前年度の「回答者が少ないとはいえ低評価であったことを踏まえ、明年度は大幅に負荷を高めることにする」との記載を受けたものである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

可能な限り負荷を高めることの有効性を維持しつつ、思考力や表現力の改善に努める。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(松本クラス)		
配当年次	2	開講時限	金5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.00	3・4・5	5	3
2	3.40	3.00	3	3	3
3	4.20	4.00	3・4・5	5	3
4	4.80	4.33	4	5	4
5	5.00	4.33	4	5	4
6	4.00	4.33	4	5	4
7	3.60	4.00	3・4・5	5	3
8	4.80	4.67	5	5	4
9	4.60	4.33	4	5	4
10	4.80	4.67	5	5	4
11	4.80	4.33	4	5	4
12	4.80	5.00	5	5	5
13	4.80	5.00	5	5	5
14	4.40	4.00	5	5	2
15	4.60	4.33	4	5	4
16	4.80	4.33	4	5	4
17	4.80	4.33	4	5	4
回答者数	5	3			



受講生の傾向

全員がまじめに100%出席した(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

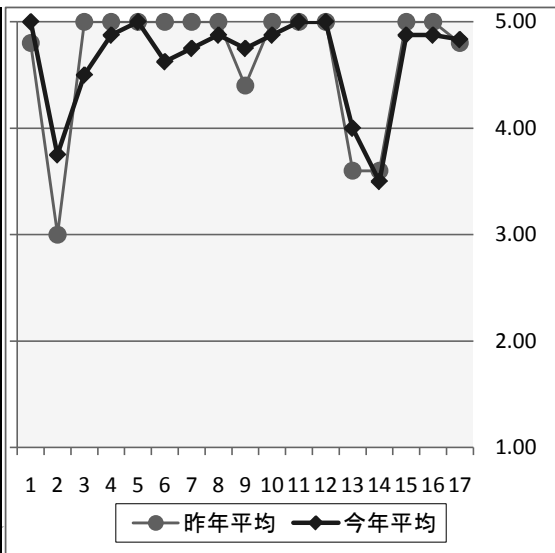
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない学生に、どのような補修を実施するかを考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

正規の時間外で個別能力に応じた指導を行なう必要がある。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(三島クラス)		
配当年次	2	開講時限	木5
受講者数	8	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	5.00	5	5	5
2	3.00	3.75	3	5	3
3	5.00	4.50	5	5	3
4	5.00	4.88	5	5	4
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	4.63	5	5	3
7	5.00	4.75	5	5	3
8	5.00	4.88	5	5	4
9	4.40	4.75	5	5	3
10	5.00	4.88	5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.60	4.00	5	5	2
14	3.60	3.50	5	5	1
15	5.00	4.88	5	5	4
16	5.00	4.88	5	5	4
17	4.80	4.83	5	5	4
回答者数	5	8			



受講生の傾向

受講生は8人とプロフェッショナルソリューションとしては比較的多い人数であった。全員が熱心には受講していたが、学力には差が出てきた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

高度な内容のソリューションを全員学生の積極的な参加のもとで行われるよう心掛けた。特に、一部の学生のみが積極的な発言し、他の学生は発言しないということにならないよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

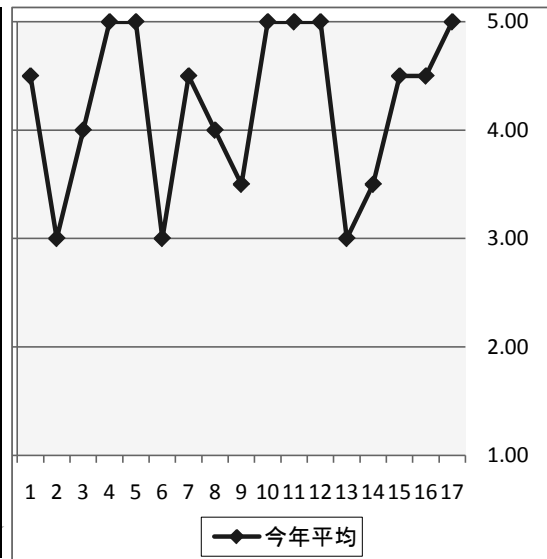
このソリューションでは、学生主導による授業が比較的成功したように思う。この形式を維持し、さらに進化させていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

プロフェッショナルソリューションの場合、すでに学力に差がついている場合も多いため、どのような学力の学生であっても、全員が積極的に討論等に参加できるよう対応したい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(宮本クラス)		
配当年次	2	開講時限	土5
受講者数	5	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.50	4・5	5	4
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.00	4	4	4
4	-	5.00	5	5	5
5	-	5.00	5	5	5
6	-	3.00	3	3	3
7	-	4.50	4・5	5	4
8	-	4.00	4	4	4
9	-	3.50	3・4	4	3
10	-	5.00	5	5	5
11	-	5.00	5	5	5
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.00	1・5	5	1
14	-	3.50	2・5	5	2
15	-	4.50	4・5	5	4
16	-	4.50	4・5	5	4
17	-	5.00	5	5	5
回答者数	-	2			



受講生の傾向

プロフェッショナル・ソリューションAは、マクロ経済学の国民所得諸概念、乗数効果、IS-LM分析、オープンマクロエコノミクスなどの理論を、基本的に分かりやすく解説するので、受講生は非常に興味を持って、熱心に受講してくれた。基本的には経済学を学んだ経験があったり、経済学に興味のある受講生が大半であった。そして、公認会計士以外に、公務員や国税官などを目指す受講生も出席していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学部生時代には経学を受講した受講生は多かったが、その大部分の院生は授業をほとんど覚えていないとのことであったので、初歩のマクロ経済学から授業をスタートした。その結果、分かりやすい授業をすることに努めたので、受講生はかなり理解度を深めてくれたものと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

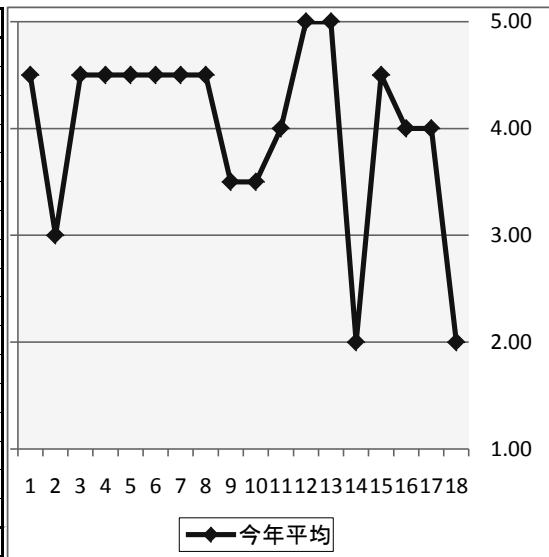
昨年度の授業アンケートの今後の「今後の対応」では、「最初は、基礎的で内容の分かりやすい授業を行い、経済学の考え方に慣れてくれば、授業の回数を重ねるにつれて徐々に内容を高めて、最後には種々の試験問題が解けるレベルにまで学力を引き上げる。」と記載していたが、本年度はこの授業方針が実施

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度は、昨年のアンケート結果を踏まえて、最初は数式よりも図を用いて、基礎的、初歩的な授業からスタートし、受講生の理解度を高めていき、徐々に内容を高度化して、最後は種々の試験問題が解けるレベルにまで受講生の学力を引き上げるように工夫する。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	火5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.50	4・5	5	4
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.50	4・5	5	4
4	-	4.50	4・5	5	4
5	-	4.50	4・5	5	4
6	-	4.50	4・5	5	4
7	-	4.50	4・5	5	4
8	-	4.50	4・5	5	4
9	-	3.50	3・4	4	3
10	-	3.50	3・4	4	3
11	-	4.00	4	4	4
12	-	5.00	5	5	5
13	-	5.00	5	5	5
14	-	2.00	2	2	2
15	-	4.50	4・5	5	4
16	-	4.00	4	4	4
17	-	4.00	4	4	4
回答者数	-	2			



受講生の傾向

租税法に関する基本的な知識を有しており、また、学習態度も非常に真面目であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生に法人税法・所得税法の事例問題を事前に与え、それに関するレジュメを作成、報告させた。また、受講生間の議論が活発に行われるよう、取引図(適用条文番号を含む)を受講生に毎回板書させた。

今後の対応

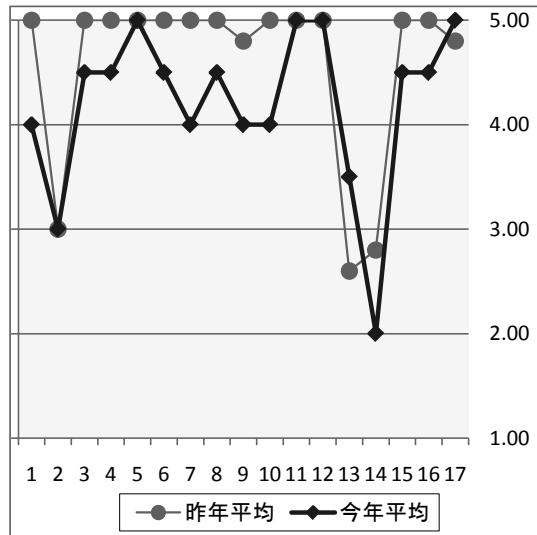
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験への対応としては、事例問題だけでなく、重要な租税判例についても取り扱う必要がある。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(坂口クラス)		
配当年次	2	開講時限	金5
受講者数	4	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.00	3・5	5	3
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	4.50	4・5	5	4
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	4.50	4・5	5	4
7	5.00	4.00	3・5	5	3
8	5.00	4.50	4・5	5	4
9	4.80	4.00	3・5	5	3
10	5.00	4.00	4	4	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.60	3.50	3・4	4	3
14	2.80	2.00	1・3	3	1
15	5.00	4.50	4・5	5	4
16	5.00	4.50	4・5	5	4
17	4.80	5.00	5	5	5
回答者数	5	2			



受講生の傾向

受講者が少なく、また習熟度に絶対的な格差があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基礎理論の検討に併せて企業事例を解説し、現実の企業における会計の利用について検討した。これを踏まえて、学生を含めて意見交換や討論を行った。

今後の対応

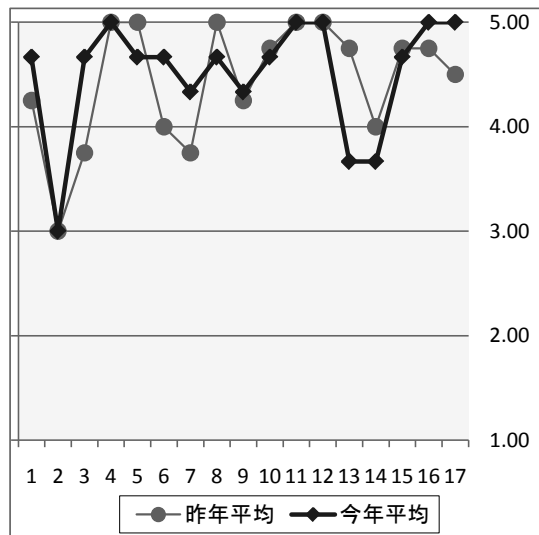
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

習熟度に圧倒的な差がある場合は、個別にレベルの異なるタスクを設定することを計画している。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(柴クラス)		
配当年次	2	開講時限	月5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.67	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	3.75	4.67	5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	4.67	5	5	4
6	4.00	4.67	5	5	4
7	3.75	4.33	5	5	3
8	5.00	4.67	5	5	4
9	4.25	4.33	5	5	3
10	4.75	4.67	5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.75	3.67	4	4	3
14	4.00	3.67	4	4	3
15	4.75	4.67	5	5	4
16	4.75	5.00	5	5	5
17	4.50	5.00	5	5	5
回答者数	4	3			



受講生の傾向

科目に対する評価も受講生自身の学習姿勢評価も一昨年は低かったが、昨年度は一転して高い評価に変わった。今年度はやや評価が下がったが依然として高い水準を維持している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

例年、プロフェッショナル・ソリューションでは学生に個別のテーマを選択させて、各自の報告に対して、相互に疑問点をぶつけ合う方式を採用し、学習の深化を誘導している。この方式は今年度も踏襲している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

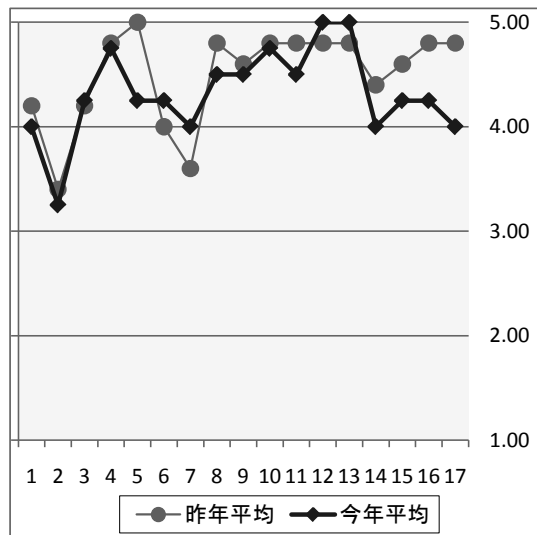
「大幅に負荷を高める方式が受け入れられているので、明年度もこれを踏襲する」と記載した。この記載は、さらに前年度の「回答者が少ないとはいえ低評価であったことを踏まえ、明年度は大幅に負荷を高めることにする」との記載を受けたものである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

可能な限り負荷を高めることの有効性を維持しつつ、思考力や表現力の改善に努める。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(松本クラス)		
配当年次	2	開講時限	金5
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.00	4	5	3
2	3.40	3.25	3	4	3
3	4.20	4.25	4	5	4
4	4.80	4.75	5	5	4
5	5.00	4.25	5	5	3
6	4.00	4.25	4	5	4
7	3.60	4.00	4	5	3
8	4.80	4.50	4・5	5	4
9	4.60	4.50	4・5	5	4
10	4.80	4.75	5	5	4
11	4.80	4.50	4・5	5	4
12	4.80	5.00	5	5	5
13	4.80	5.00	5	5	5
14	4.40	4.00	4	5	3
15	4.60	4.25	4	5	4
16	4.80	4.25	4	5	4
17	4.80	4.00	4	5	3
回答者数	5	4			



受講生の傾向

全員がまじめに100%出席した(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

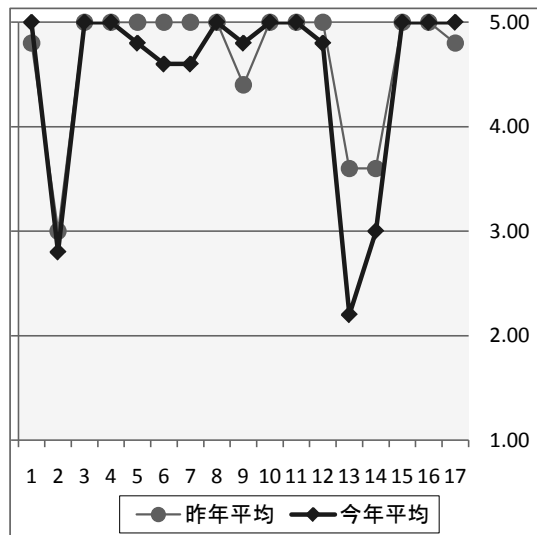
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない学生に、どのような補修を実施するかを考えなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

正規の時間外で個別能力に応じた指導を行なう必要がある。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(三島クラス)		
配当年次	2	開講時限	木5
受講者数	9	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	5.00	5	5	5
2	3.00	2.80	3	3	2
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	4.80	5	5	4
6	5.00	4.60	5	5	3
7	5.00	4.60	5	5	3
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.40	4.80	5	5	4
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	4.80	5	5	4
13	3.60	2.20	3	3	1
14	3.60	3.00	3	4	2
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	4.80	5.00	5	5	5
回答者数	5	5			



受講生の傾向

プロフェッショナルソリューションAと同様、今回も9人とプロフェッショナルソリューションには多い人数であった。学生もこの授業の性格・目的等を理解しているため、比較的スムーズに授業に取り組んでいる。また、2年生秋学期という最終期の授業であるため、こつこつ努力してきた学生は大きな伸びを見せ、それを怠っていた学生は伸び悩んでしまっていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ソリューションには多い人数でかつ実力差がある場合であっても、すべての学生の積極的な参加による授業を心掛けた。

また、学生もこの授業の性格を理解していることから、より学生主導による授業を進めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

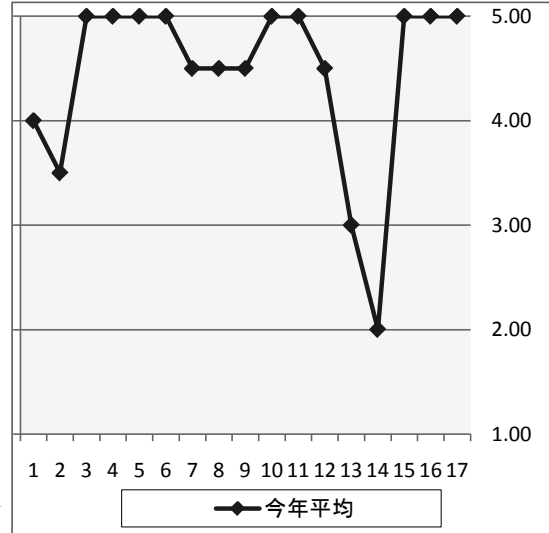
このソリューションでは、学生主導による授業が比較的 successful したように思う。この形式を維持し、さらに進化させていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

最終期となるソリューション授業であるが、最後に伸び悩むということがないよう工夫したい。学生の全員が最も実力が上昇した状態でこの授業が終えられるようにしたい。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(宮本クラス)		
配当年次	2	開講時限	土5
受講者数	5	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	4	4	4
2	-	3.50	3・4	4	3
3	-	5.00	5	5	5
4	-	5.00	5	5	5
5	-	5.00	5	5	5
6	-	5.00	5	5	5
7	-	4.50	4・5	5	4
8	-	4.50	4・5	5	4
9	-	4.50	4・5	5	4
10	-	5.00	5	5	5
11	-	5.00	5	5	5
12	-	4.50	4・5	5	4
13	-	3.00	3	3	3
14	-	2.00	1・3	3	1
15	-	5.00	5	5	5
16	-	5.00	5	5	5
17	-	5.00	5	5	5
回答者数	-	2			



受講生の傾向

プロフェッショナル・ソリューションBでは、プロフェッショナル・ソリューションAから引き続き受講した学生がほとんどであったので、ほとんどの受講生はマクロ経済学に関してかなりレベルの高い学力を持っていた。それで高度な内容の授業を行うことができた。全員15回の講義にほとんど欠席はなく、熱心に授業を受講した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートによると、「授業は面白くて、非常によく理解できるが、模擬試験の問題などはときどき難しいと感じることがあった。」との意見もあったので、プロフェッショナル・ソリューションBでは、講義といろいろな試験問題を繋ぐ意味で、種々の練習問題や過去の公認会計士の試験問題などを例題としてかなり多くを取り上げた。そして、毎回学生に解答をホワイトボードに書かせて、全員で解かせて解法能力を高めるように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

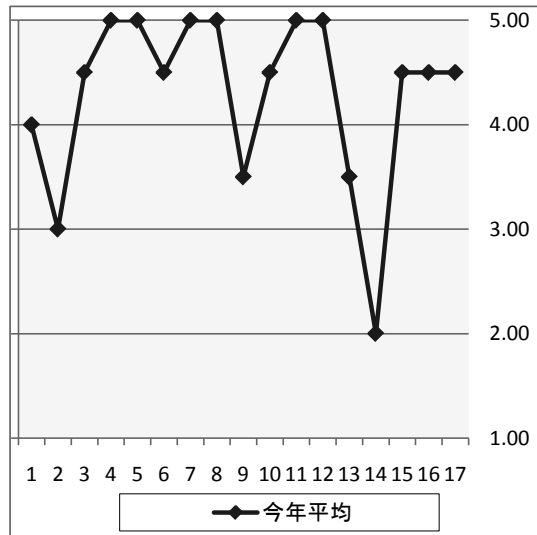
昨年度の授業評価アンケートでは「学部時代に基礎的知識をしっかり習得した受講生を、法学部などの経済学部以外から進学してきた院生との間に、初期の段階でやや学力差が見られたので、最初はできる限り初心者向けのわかりやすい授業を心がけた。そして、徐々にレベルを引き上げる。」と記載していたが、本年度はプロフェッショナル・ソリューションAから引き続き参加していた受講生が大部分であったので、最初から内容の高い授業を行った。今後は受講生の能力に応じた授業内容を考えてみる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度も、最初は初歩的・基礎的な内容の分かりやすい授業を行い、その後経済学の考え方に慣れてくれば徐々にレベルを上げて、練習問題など応用的な内容の分析を行い、最後には模擬試験の問題が解けるレベルまで受講生の学力を引き上げる方針である。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	火5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.00	4	4	4
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.50	4・5	5	4
4	-	5.00	5	5	5
5	-	5.00	5	5	5
6	-	4.50	4・5	5	4
7	-	5.00	5	5	5
8	-	5.00	5	5	5
9	-	3.50	3・4	4	3
10	-	4.50	4・5	5	4
11	-	5.00	5	5	5
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.50	2・5	5	2
14	-	2.00	2	2	2
15	-	4.50	4・5	5	4
16	-	4.50	4・5	5	4
17	-	4.50	4・5	5	4
回答者数	-	2			



受講生の傾向

応用領域である国際租税法への関心が非常に強く、積極的に学ぼうとしていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生は国際租税法の初学者であったが、レジュメの作成、報告を行わせた。但し、レジュメ作成にあたっては、国際租税法に関する基本的な内容を受講生に予め講義した。

今後の対応

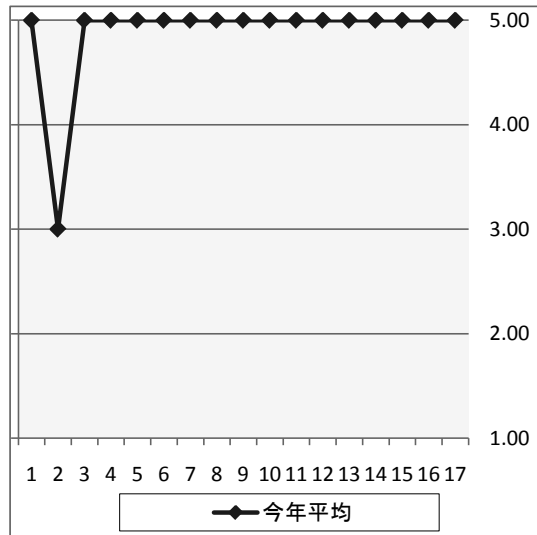
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

国際租税法を理解するために要求される国内税法の知識が残念ながら十分とはいえず、講義はあまり進まなかった。今後の対応としては、国内税法をきちんと学習することが先決であるため、講義内容を国際租税法から国内税法へ切り替える必要がある。

科目	論文指導・修士論文(松本クラス)		
配当年次	2	開講時限	火5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	5.00	5	5	5
2	-	3.00	3	3	3
3	-	5.00	5	5	5
4	-	5.00	5	5	5
5	-	5.00	5	5	5
6	-	5.00	5	5	5
7	-	5.00	5	5	5
8	-	5.00	5	5	5
9	-	5.00	5	5	5
10	-	5.00	5	5	5
11	-	5.00	5	5	5
12	-	5.00	5	5	5
13	-	5.00	5	5	5
14	-	5.00	5	5	5
15	-	5.00	5	5	5
16	-	5.00	5	5	5
17	-	5.00	5	5	5
回答者数	-	1			



受講生の傾向

履修学生は意欲的に修士論文の作成に臨んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

完全な個人指導になるため、履修学生のモラルを高く維持し続ける措置を講ずる必要があった。また修士論文の編集作業については、正規の時間外での添削指導を試みた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

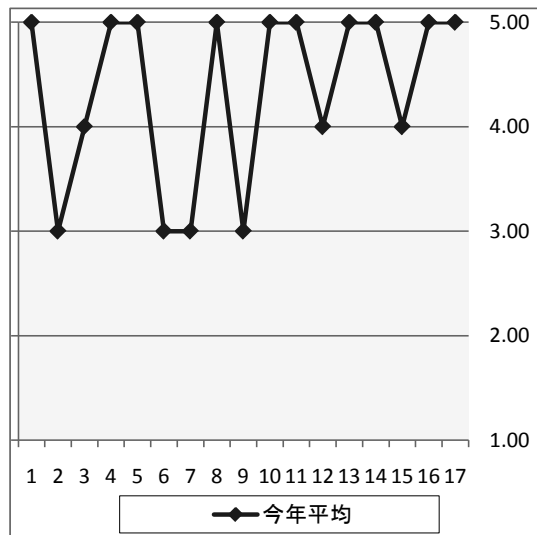
昨年度は履修者はいなかった。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

他の講義科目との関係で、学生に修士論文の作成に集中させる措置が必要と考えられる。

科目	論文指導・修士論文(三島クラス)		
配当年次	2	開講時限	月5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	5.00	5	5	5
2	-	3.00	3	3	3
3	-	4.00	4	4	4
4	-	5.00	5	5	5
5	-	5.00	5	5	5
6	-	3.00	3	3	3
7	-	3.00	3	3	3
8	-	5.00	5	5	5
9	-	3.00	3	3	3
10	-	5.00	5	5	5
11	-	5.00	5	5	5
12	-	4.00	4	4	4
13	-	5.00	5	5	5
14	-	5.00	5	5	5
15	-	4.00	4	4	4
16	-	5.00	5	5	5
17	-	5.00	5	5	5
回答者数	-	1			



受講生の傾向

今年度は1人の受講生があったが、論文の提出は途中で断念するという結果になった。

学生はまじめに論文には取り組んでいたが、論文テーマを秋学期に途中変更したことから、時間的に厳しくなったと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の受講生は、過去に卒業論文等の論文を書いたことがなく、論文作成の指導を受けたことがなかったので、論文での文章の書き方、その組み立て方、論文作成で要求される作法などを身に付けられるよう指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

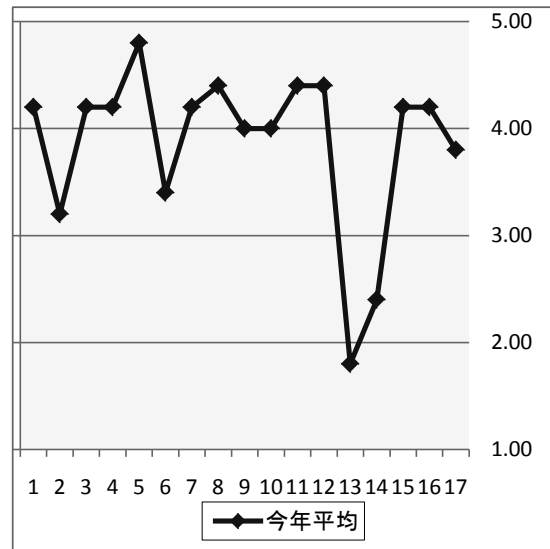
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

論文作成には、とにかく早い時期での対応が必要である。

具体的には、1年生の段階である程度学生との面談が必要であり、また、テーマは遅くとも春学期中ごろまでには最終決定される必要がある。

科 目	会計戦略論		
配当年次	2	開講時限	火3
受講者数	5	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.20	4	5	4
2	-	3.20	3	4	3
3	-	4.20	4・5	5	3
4	-	4.20	4・5	5	3
5	-	4.80	5	5	4
6	-	3.40	3	5	2
7	-	4.20	4	5	4
8	-	4.40	5	5	3
9	-	4.00	4	5	3
10	-	4.00	3・5	5	3
11	-	4.40	4	5	4
12	-	4.40	5	5	3
13	-	1.80	1	4	1
14	-	2.40	2	4	1
15	-	4.20	4・5	5	3
16	-	4.20	4	5	4
17	-	3.80	3・4	5	3
回答者数	-	5			



受講生の傾向

ほとんどの学生が欠席せずに参加していた。
 課題報告でのディスカッションでは、積極的な学生とそうではない学生に差が生じた。
 自分たちで、自分たちなりの考察しようとする姿勢が強く見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は在外研究期間であったため、踏まえていないが、学生が講義に集中できるよう、講義中の表示資料のハンドアウトは、講義終了時に配布した。
 課題報告を課すときに、かならず、評価・報告のポイントを事前にアナウンスした。
 具体的な事例を多く紹介することで、受講生がイメージしやすくなるように努めた。

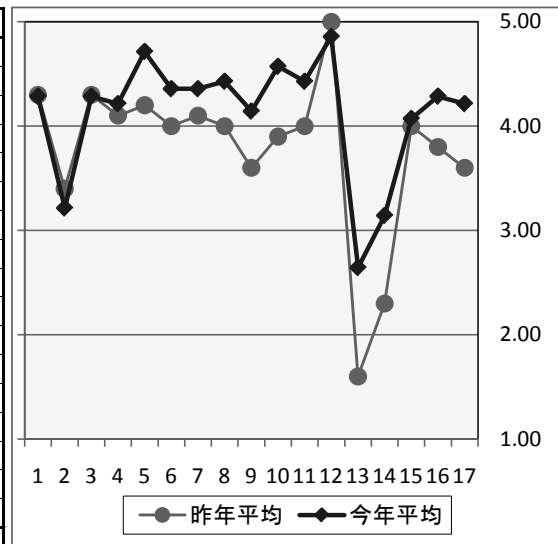
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
 該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
 次年度担当に講義の状況や内容を引き継ぎするとともに、完全をはかりたい。

科目	無形資産会計論		
配当年次	2	開講時限	火2
受講者数	18	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.30	4.29	5	5	1
2	3.40	3.21	3	5	2
3	4.30	4.29	5	5	1
4	4.10	4.21	4	5	1
5	4.20	4.71	5	5	4
6	4.00	4.36	4	5	3
7	4.10	4.36	4	5	3
8	4.00	4.43	5	5	3
9	3.60	4.14	4・5	5	2
10	3.90	4.57	5	5	4
11	4.00	4.43	4	5	4
12	5.00	4.86	5	5	4
13	1.60	2.64	3	5	1
14	2.30	3.14	3	5	1
15	4.00	4.07	4	5	3
16	3.80	4.29	4	5	3
17	3.60	4.21	4	5	3
回答者数	10	14			



受講生の傾向

遅刻する受講生は少なく、講義中は静穏な環境が保たれており、受講態度は真面目であった。定期的に行った論文式の小テストでは、内容を大雑把に捉えようとする傾向があり、論理を展開して説明することに苦慮している様子であった。そのため、得点力という点で伸び悩みを抱えていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

パワーポイントを使って考え方の手順を示し、効率的に要点を説明できるようにした。パワーポイントは、毎年内容を見直してリファインしており、コンバージェンスの観点から最新の動向を取り入れて作成した。現行基準の概要を説明するだけでなく、現行基準が完成するまでの歴史的な論争や基準設定の経緯、国際的な改定動向等を示すことで、現行基準に対する理解が深まるようにした。無形資産会計の将来的な展望を講義内容に含めることで、受講生の興味関心を高めるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

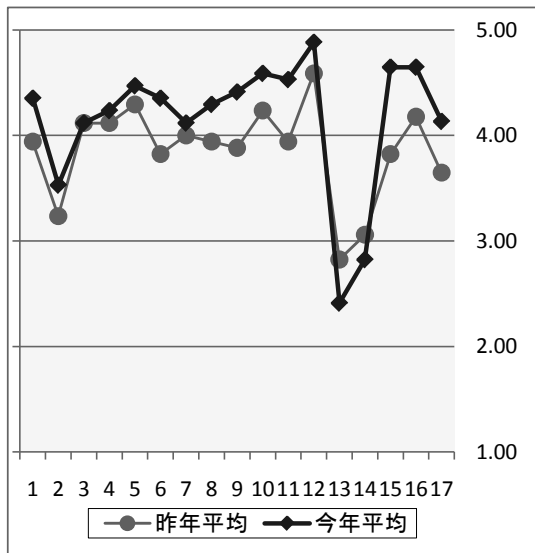
この講義科目に対して、さらに興味関心が高まるような工夫を凝らしていく。コンバージェンスの観点から現行基準の改定動向に注視し、受講生に最新の講義内容を提供していく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この講義に対して興味関心が高まるように工夫する。コンバージェンスの観点から現行基準の改定動向に注視し、受講生に最新の講義内容を提供する。

科目	金融商品会計論		
配当年次	2	開講時限	金3
受講者数	21	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.94	4.35	5	5	3
2	3.24	3.53	3	5	3
3	4.12	4.12	5	5	1
4	4.12	4.24	5	5	3
5	4.29	4.47	5	5	3
6	3.82	4.35	5	5	3
7	4.00	4.12	5	5	2
8	3.94	4.29	5	5	3
9	3.88	4.41	5	5	3
10	4.24	4.59	5	5	4
11	3.94	4.53	5	5	3
12	4.59	4.88	5	5	3
13	2.82	2.41	1	5	1
14	3.06	2.82	2	5	1
15	3.82	4.65	5	5	4
16	4.18	4.65	5	5	3
17	3.65	4.13	4	5	3
回答者数	17	17			



受講生の傾向

受講者数・回答者数とも昨年度同数である。昨年度は、一昨年度より受講生が半減しているが、反面、意欲ある学生の比率が上昇していることが、評価の好転の原因と判断できるとしたが、この傾向は今年度も確認できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

応用科目であるこの科目は学習者の姿勢次第で学習効果に大きな差が出ることを前年度も指摘したが、今年度も同じである。受講が必修の基本科目と違って、意欲ある学生が高度な学習内容を希望しているので、意欲なき学生の水準に合わせて講義ができない。その結果、理解度に雲泥の差が開くことはある程度やむをえない。しかし、それでも、金融商品の基礎知識、ファイナンスの基礎知識などを可能な限り具体的な計算例を挙げて説明する工夫をした。ただし、採点は厳しいので理解度の低い者は単位取得は遠く及ばない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

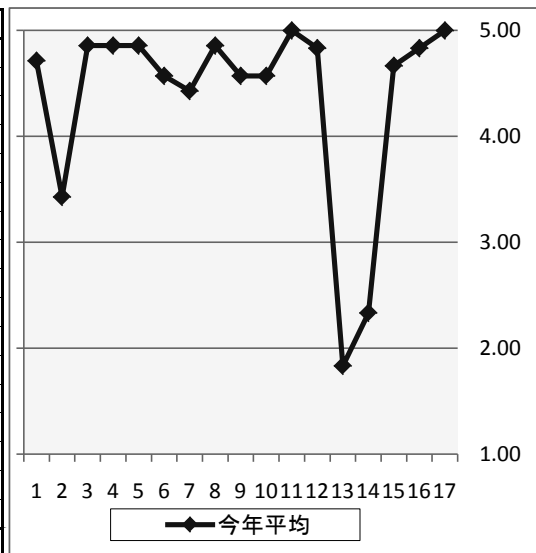
この科目でも「会計のセンスは経済・経営への理解度を高めることによって生まれるという点を強調して講義するように心がける」と記載した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

かつて50名を超えていたこの科目もここ2年は21名の履修である。より専門的な内容を学びたいという要求が明確になったと思われるので、それに合わせて講義内容も専門性を高めてきた。その水準を落とさずに、なお、わかりやすい講義を心がける。

科 目	企業価値マネジメント論		
配当年次	2	開講時限	火4
受講者数	8	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.71	5	5	4
2	-	3.43	3	5	3
3	-	4.86	5	5	4
4	-	4.86	5	5	4
5	-	4.86	5	5	4
6	-	4.57	5	5	3
7	-	4.43	4	5	4
8	-	4.86	5	5	4
9	-	4.57	5	5	4
10	-	4.57	5	5	3
11	-	5.00	5	5	5
12	-	4.83	5	5	4
13	-	1.83	1	5	1
14	-	2.33	1・2	5	1
15	-	4.67	5	5	4
16	-	4.83	5	5	4
17	-	5.00	5	5	5
回答者数	-	7			



受講生の傾向

すべての受講生がほとんど欠席することなく参加した。

下の欄に記載したことであるが、自分で考えて、いわゆる「答え」のない課題に戸惑いつつも、自分で答えを出すことに熱心に向き合っていた。

また、満足できるまで、自らやり直すなどの姿勢が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度のアンケート結果を踏まえることができないが、実例をできるだけ紹介し、さまざまなマネジメント方法やアプローチを紹介した。

受講生が自分で考えて答えを出さざるを得ないような課題を課し、プレゼンテーションについてもそれが効果的になるよう指導に努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

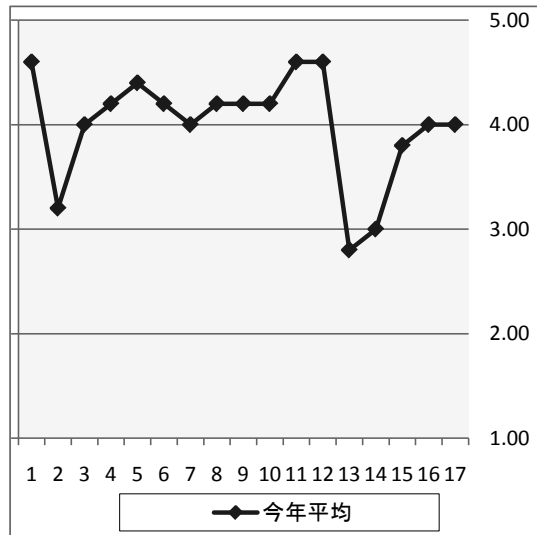
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度の担当者への引き継ぎを徹底するとともに、受講生が積極的参加できる事例を蓄積していきたい。

科目	会計情報システム		
配当年次	2	開講時限	金2
受講者数	14	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	4.60	5	5	4
2	-	3.20	3	4	3
3	-	4.00	4	5	3
4	-	4.20	4	5	4
5	-	4.40	4	5	4
6	-	4.20	4	5	4
7	-	4.00	4	5	3
8	-	4.20	4	5	4
9	-	4.20	4	5	4
10	-	4.20	4・5	5	3
11	-	4.60	5	5	4
12	-	4.60	5	5	3
13	-	2.80	4	4	1
14	-	3.00	1・2・3・4・5	5	1
15	-	3.80	3・4	5	3
16	-	4.00	4	5	3
17	-	4.00	4	5	3
回答者数	-	5			



受講生の傾向

プログラミングの知識や経験が少ない受講生が多かった。プログラミングに関する小テストでは、完成に至らないまでも、難しいプログラムを何とか工夫して完成させようという意欲が感じられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生にプログラムを入力させることで、プログラミングの習熟度が高まるようにした。プログラムの内容を逐条解説することで、コンピュータの処理特性とデータ・フローを理解できるようにした。コンピュータの操作が不慣れな受講生には、操作の指示やアドバイスを与え、また、受講生とおしが適宜相談しやすいような環境作りをした。バグ取りの作業は受講生とマン・ツー・マンで行い、個人の習熟度に応じてプログラミングの理解を促すと共に、受講生全員のプログラムが正常に稼動するようにした。日常業務の支援という現実的な観点から、会計情報システムの全体像とそのサブシステムの在り方を考察する講義展開を行った。

今後の対応

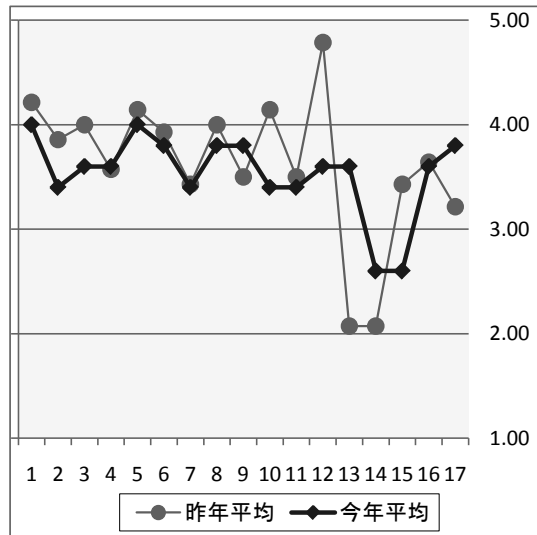
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

プログラミングの習熟度を高めることができるように工夫する。

科目	非営利会計論		
配当年次	2	開講時限	金4
受講者数	10	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.21	4.00	5	5	1
2	3.86	3.40	3	4	3
3	4.00	3.60	5	5	1
4	3.57	3.60	4	5	1
5	4.14	4.00	4・5	5	2
6	3.93	3.80	4	5	2
7	3.43	3.40	4	4	2
8	4.00	3.80	4	5	2
9	3.50	3.80	4	5	2
10	4.14	3.40	4	4	1
11	3.50	3.40	4	5	1
12	4.79	3.60	4	5	1
13	2.07	3.60	3・5	5	2
14	2.07	2.60	3	4	1
15	3.43	2.60	3	4	1
16	3.64	3.60	4	4	2
17	3.21	3.80	4	5	2
回答者数	15	5			



受講生の傾向

全般的に満足度はやや低くなっているが、前回と同様の傾向となっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

共済等における最近の傾向を取り入れたが、学生の興味を引くには不十分であった可能性がある。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

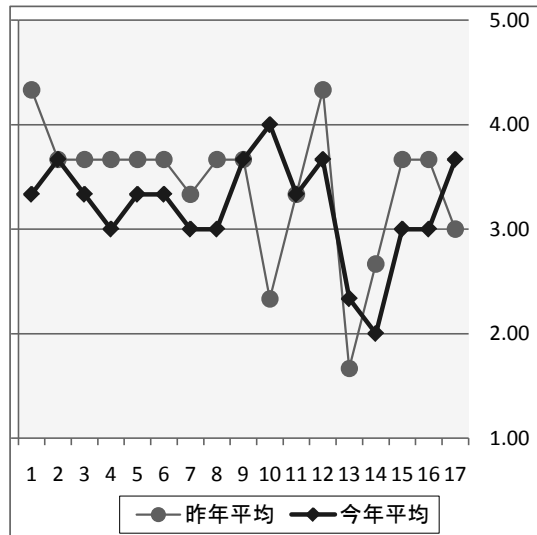
最近の傾向、企業会計との関係等、全体的な流れの中で詳細に講義していく方法を模索する

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

非営利会計の魅力の伝え方についてももう少し工夫が必要と感じる。今後検討する。

科目	国際公会計制度論		
配当年次	2	開講時限	月4
受講者数	6	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	3.33	1・4・5	5	1
2	3.67	3.67	4	4	3
3	3.67	3.33	4	4	2
4	3.67	3.00	4	4	1
5	3.67	3.33	1・4・5	5	1
6	3.67	3.33	4	4	2
7	3.33	3.00	2・3・4	4	2
8	3.67	3.00	2・3・4	4	2
9	3.67	3.67	4	4	3
10	2.33	4.00	3・4・5	5	3
11	3.33	3.33	1・4・5	5	1
12	4.33	3.67	5	5	1
13	1.67	2.33	2	3	2
14	2.67	2.00	1・2・3	3	1
15	3.67	3.00	2・3・4	4	2
16	3.67	3.00	2・3・4	4	2
17	3.00	3.67	2・4・5	5	2
回答者数	3	3			



受講生の傾向

満足度はほぼ前回と同じ程度であり、中庸といえる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
会計全般に共通する理論的な基礎を説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

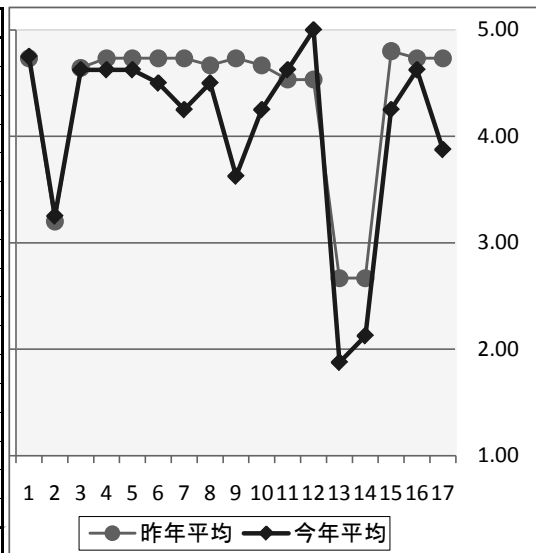
予め英文の文書を配っておき、せまい範囲ではあるが、テーマと関係するところを読ませるようにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計全般に共通する理論的な基礎を説明することは重要なことであるが、興味を引くように教える工夫が必要。

科目	保証業務論		
配当年次	2	開講時限	火1
受講者数	10	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.73	4.75	5	5	4
2	3.20	3.25	3	4	3
3	4.64	4.63	5	5	4
4	4.73	4.63	5	5	4
5	4.73	4.63	5	5	4
6	4.73	4.50	4・5	5	4
7	4.73	4.25	4	5	3
8	4.67	4.50	4・5	5	4
9	4.73	3.63	3	5	3
10	4.67	4.25	5	5	2
11	4.53	4.63	5	5	4
12	4.53	5.00	5	5	5
13	2.67	1.88	1・2	3	1
14	2.67	2.13	2・3	3	1
15	4.80	4.25	5	5	2
16	4.73	4.63	5	5	4
17	4.73	3.88	4・5	5	1
回答者数	15	8			



受講生の傾向

本科目は、基本科目の「監査制度論」とその他の監査系科目を履修した学生を前提に配置された応用科目であり、監査に対するモラルの高い学生が集まっていることから、出席率が100%となっている。

授業に対する取り組みも比較的積極的で、職業会計人として将来的に保証業務に積極的に取り組んでもらえることが期待できる(項目15・16)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本講義では、わが国の保証業務に関する基準の他、アメリカの基準及び国際監査基準に基づいた保証業務の枠組みや内容を理解することを目的として、前半は座学による講義スタイルを採り、後半は、前半においてなされたはずの保証業務に関する理解度を確認するため、受講生自らが想定する「保証業務の提案」をパワーポイント及び提案書の形で、他の受講生に対してプレゼンテーションをさせ、当該保証業務の魅力の説かせるようにした。他の受講生には、当該受講生が行なったプレゼンテーションと提案書の内容について、5点スケールで幾つかの項目ごとに評価させた。

この際の評価方法が直感や単なる印象に終わらないように、予め6つの項目(情報収集の程度や情報分析の程度等)について個別に評価させるとともに、報告者のプレゼンについて修正すべき内容を自由記述させた。報告者には、事後的に当該修正すべき内容のリストを手渡し、将来におけるプレゼン能力の向上を期待した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

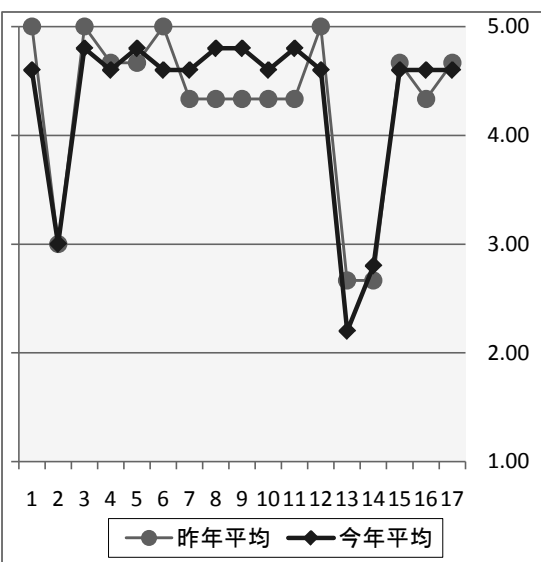
本科目で採る講義スタイルであれば、前半における保証業務の枠組みや内容に関する理解度が完全になされていない場合、後半における保証業務の提案書の精緻さや説得力に反映されない。従って、前半における座学による講義スタイルの段階で、一定の教育効果を確認するための方策が必要かもしれない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前半終了時、及び保証業務提案書作成前と最中に、質疑応答の機会を正規の時間外で別途設けた。

科目	国際財務戦略論		
配当年次	2	開講時限	木4
受講者数	6	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.60	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.80	5	5	4
4	4.67	4.60	5	5	4
5	4.67	4.80	5	5	4
6	5.00	4.60	5	5	4
7	4.33	4.60	5	5	4
8	4.33	4.80	5	5	4
9	4.33	4.80	5	5	4
10	4.33	4.60	5	5	4
11	4.33	4.80	5	5	4
12	5.00	4.60	5	5	4
13	2.67	2.20	1・2	5	1
14	2.67	2.80	2・3	4	2
15	4.67	4.60	5	5	4
16	4.33	4.60	5	5	4
17	4.67	4.60	5	5	4
回答者数	3	5			



受講生の傾向

国際的な財務戦略について勉強したいという意欲の高い学生が多かった

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

小テストの代わりにレポートを出し、次の時間にそれについてディスカッションをさせるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

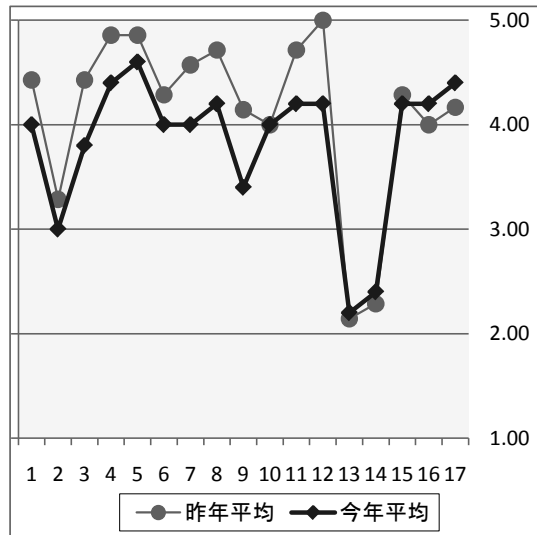
具体例を増やし、財務戦略にかかるディスカッションの時間をとるようにする。小テストよりもレポートという形でより深い学習を行わせるようにする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

レポートについて、ディスカッションの前と後で2回書かせるようにして、理解が高まったかどうかを確かめるようにしたい

科目	公共経済学		
配当年次	2	開講時限	火2
受講者数	29	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.00	4	5	3
2	3.29	3.00	3	3	3
3	4.43	3.80	3・4	5	3
4	4.86	4.40	5	5	3
5	4.86	4.60	5	5	3
6	4.29	4.00	3・5	5	3
7	4.57	4.00	3・5	5	3
8	4.71	4.20	4・5	5	3
9	4.14	3.40	3	5	2
10	4.00	4.00	3・5	5	3
11	4.71	4.20	4・5	5	3
12	5.00	4.20	4・5	5	3
13	2.14	2.20	2・3	3	1
14	2.29	2.40	3	3	1
15	4.29	4.20	4・5	5	3
16	4.00	4.20	4・5	5	3
17	4.17	4.40	5	5	3
回答者数	7	5			



受講生の傾向

これまでと同じように、公共経済学の授業には、経済学、財政学、地方財政学などに関心のある受講生が出席している。さらに、公認会計士のみならず、将来国や地方自治体の公務員や国税官を目指す学生も受講している。講義内容は、税制や財政が中心になるが、受講生のほとんどは目的意識や関心がはっきりしているため、非常に熱心な受講生が多い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

これまでの授業アンケートによると、公共経済学の分野全体よりも関心のある分野、つまり税制、財政などのポイントを抑えた公共経済学の話を知りたいという希望があったので、授業では多くの種類の税の説明、税の転嫁、超過負担、そして補助金の超過負担、自治体の財政などについて図を用いて分かりやすく説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

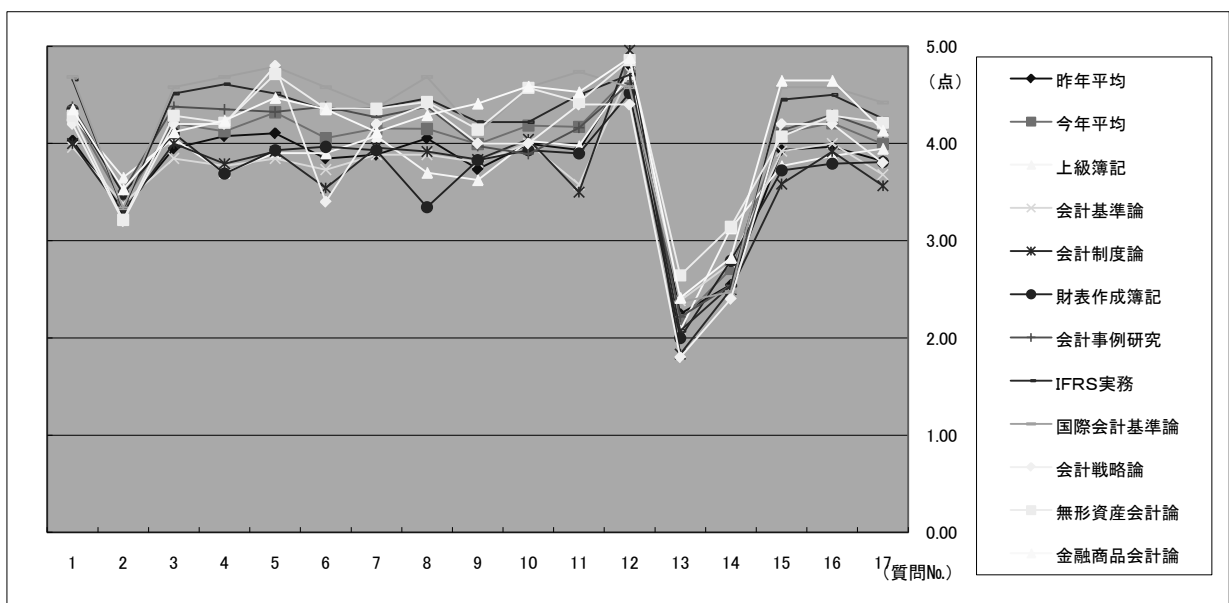
昨年度の授業評価アンケートでは、「公共経済学の理論を受講生にきちんと理解させて、基礎的な問題の解決だけではなく、実社会に出て役立つような応用力が身につくことができるように授業を工夫した。」と記載しているが、基本的には本年度もその方針で授業を行った。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨今の日本財政では、税収の不足などが叫ばれているので、今後はまず日本の財政の状況を分析し、さらに日本の税の種類を詳しく説明する。それから数式ではなく、すべて図を用いて、完全競争、独占市場、従量税、従価税、補助金などのケースについて、税の価格転嫁、超過負担を説明し、いろいろな種類の税の解説に努める。

系： 財務会計
 受講者数： 339 回答者数： 252

質問No.	昨年平均	今年平均	上級簿記	会計基準論	会計制度論	財表作成簿記	会計事例研究	IFRS実務	国際会計基準論	会計戦略論	無形資産会計論	金融商品会計論
1	4.03	4.31	4.28	3.96	4.00	4.34	4.38	4.66	4.68	4.20	4.29	4.35
2	3.31	3.39	3.65	3.38	3.29	3.48	3.51	3.32	3.33	3.20	3.21	3.53
3	3.95	4.21	4.05	3.85	4.00	4.10	4.38	4.51	4.58	4.20	4.29	4.12
4	4.08	4.12	3.70	3.77	3.79	3.69	4.35	4.61	4.68	4.20	4.21	4.24
5	4.11	4.32	3.90	3.85	3.92	3.93	4.32	4.51	4.79	4.80	4.71	4.47
6	3.85	4.05	3.90	3.73	3.54	3.97	4.38	4.34	4.58	3.40	4.36	4.35
7	3.88	4.15	4.08	3.88	3.96	3.93	4.27	4.37	4.37	4.20	4.36	4.12
8	4.05	4.15	3.70	3.88	3.92	3.34	4.38	4.46	4.68	4.40	4.43	4.29
9	3.74	3.99	3.63	3.81	3.83	3.83	3.97	4.22	4.11	4.00	4.14	4.41
10	4.00	4.18	4.03	4.00	4.04	3.93	3.89	4.22	4.58	4.00	4.57	4.59
11	3.94	4.17	3.98	3.58	3.50	3.90	4.16	4.50	4.74	4.40	4.43	4.53
12	4.78	4.70	4.72	4.73	4.96	4.52	4.62	4.71	4.58	4.40	4.86	4.88
13	2.25	2.18	2.08	2.38	1.83	2.00	2.22	2.07	2.37	1.80	2.64	2.41
14	2.55	2.71	3.13	2.77	2.50	2.79	2.54	2.54	2.47	2.40	3.14	2.82
15	3.93	4.11	3.77	3.92	3.58	3.72	4.14	4.45	4.58	4.20	4.07	4.65
16	3.97	4.21	3.87	4.00	3.92	3.79	4.30	4.50	4.58	4.20	4.29	4.65
17	3.82	3.99	3.95	3.68	3.57	3.81	4.11	4.26	4.42	3.80	4.21	4.13
回答者数	259	252	40	26	24	29	37	41	19	5	14	17



受講生の傾向

教員に対する評価項目の3を除くすべてについて評価の改善が見られる一方で、受講生自身の受講態度に対する評価が下がっている。また、ここ数年同様に、基本的な科目に対する評価が低く、それ以外の科目に対する評価が高い。とりわけIFRS実務と国際会計基準論に対する評価が高い。概して、基礎的、理論的科目に対する評価も受講生自身による理解度評価も低いという点が気になる点である。今後の改善が求められる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。ただし、昨年同様、IFRS実務と国際会計基準論が高評価を得ていることから、これら科目の工夫などを参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。相対的に低評価の基礎的、理論的科目の「今後の対応」を注意されたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

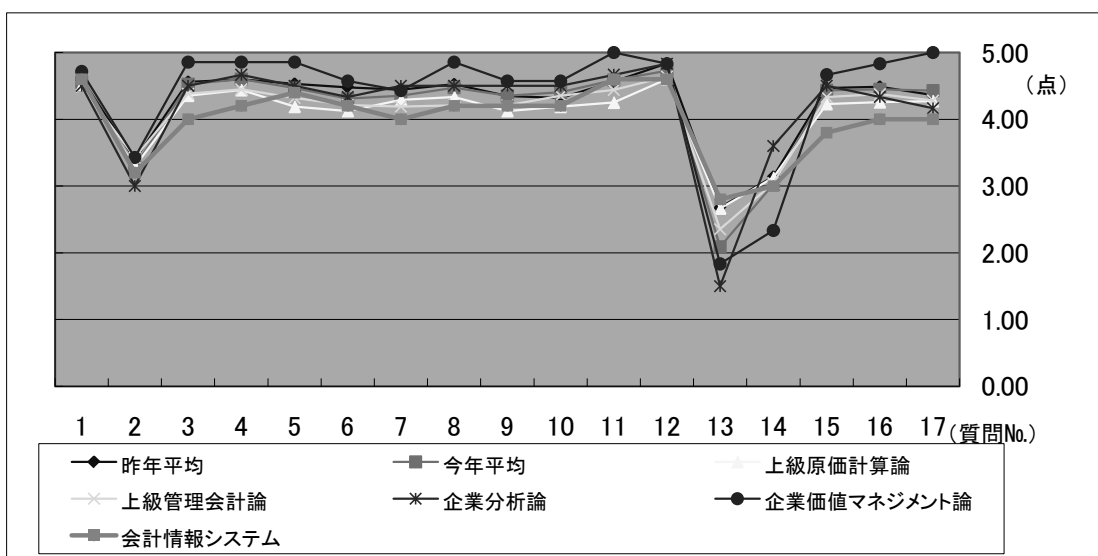
科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。相対的に低評価の基礎的、理論的科目の「今後の対応」を注意されたい。

系： 管理会計

受講者数： 152

回答者数： 110

質問No.	昨年平均	今年平均	上級原価計算論	上級管理会計論	企業分析論	企業価値マネジメント論	会計情報システム
1	4.61	4.56	4.52	4.49	4.50	4.71	4.60
2	3.40	3.29	3.29	3.43	3.00	3.43	3.20
3	4.56	4.52	4.35	4.38	4.50	4.86	4.00
4	4.60	4.60	4.44	4.45	4.67	4.86	4.20
5	4.53	4.47	4.19	4.32	4.50	4.86	4.40
6	4.48	4.31	4.13	4.21	4.33	4.57	4.20
7	4.44	4.35	4.29	4.19	4.50	4.43	4.00
8	4.52	4.47	4.33	4.21	4.50	4.86	4.20
9	4.35	4.35	4.13	4.21	4.50	4.57	4.20
10	4.32	4.40	4.19	4.35	4.50	4.57	4.20
11	4.56	4.59	4.25	4.44	4.67	5.00	4.60
12	4.84	4.73	4.60	4.64	4.83	4.83	4.60
13	2.68	2.09	2.67	2.35	1.50	1.83	2.80
14	3.14	3.03	3.13	3.04	3.60	2.33	3.00
15	4.47	4.43	4.23	4.33	4.50	4.67	3.80
16	4.49	4.45	4.26	4.38	4.33	4.83	4.00
17	4.36	4.43	4.27	4.28	4.17	5.00	4.00
回答者数	200	110	48	49	6	7	5



受講生の傾向

受講生に多様性(例えば基本的能力の程度の差異や将来の進路など)が見受けられる。しかしながら、多くの学生は授業に真摯に取り組んでいることが理解できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

それぞれの担当者が学生の興味を刺激するように取り組んだことが見受けられる。例えば、上級原価計算論などでのポイントを絞った解説、企業分析論における事例の紹介、会計情報システムにおける進捗度管理などである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

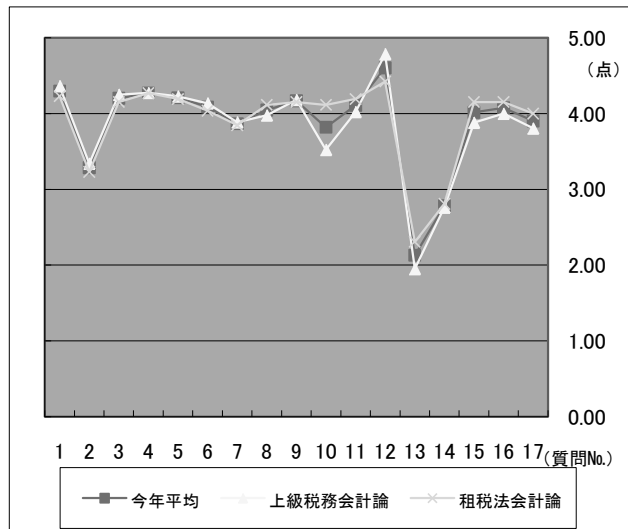
今後も担当者がそれぞれ工夫し、学生の興味を刺激するような授業に取り組むことを予定している。

系： 税務会計

受講者数： 89

回答者数： 70

質問No.	昨年平均	今年平均	上級税務会計論	租税法会計論
1	-	4.30	4.36	4.23
2	-	3.29	3.34	3.23
3	-	4.20	4.25	4.15
4	-	4.27	4.27	4.27
5	-	4.21	4.23	4.19
6	-	4.09	4.14	4.04
7	-	3.87	3.89	3.85
8	-	4.05	3.98	4.12
9	-	4.17	4.18	4.15
10	-	3.82	3.52	4.12
11	-	4.11	4.02	4.19
12	-	4.60	4.79	4.42
13	-	2.13	1.95	2.31
14	-	2.78	2.76	2.81
15	-	4.02	3.88	4.15
16	-	4.08	4.00	4.15
17	-	3.90	3.80	4.00
回答者数	-	70	44	26



受講生の傾向

受講生の大半は税務会計の初学者であり、きちんと講義には出席していた(項目12)が、講義内容についていけない受講生が多かった。これは、予習、復習に充てる時間が決定的に不足していることを示していると思われる(項目13と14)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

税務会計の習熟のためには、租税理論の理解に加えて、一定の問題量をこなすことが必要不可欠である。そこで、毎回の講義開始時に前回内容を確認する小テストを実施し、講義時間内にも受講生に多くの問題を解答させるよう配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

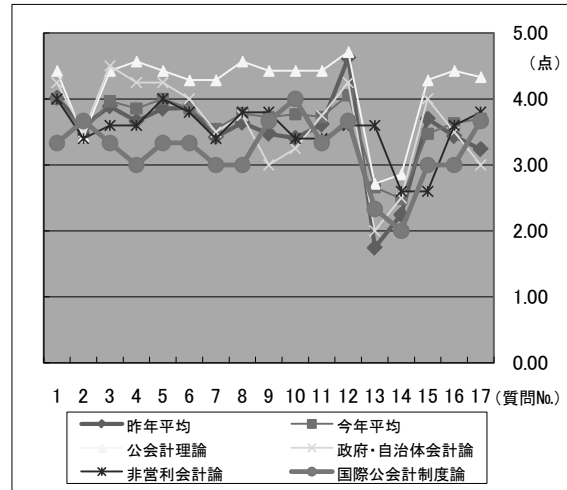
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

税務会計の初学者が多いことを配慮し、講義内容の難易度を徐々に引き上げる方式に切り替える必要がある。また、臨時試験を実施し、受講生に税務会計の学習時間をできるだけ多くとらせるよう方向づけをする必要もある。

系： 公会計

受講者数： 31 回答者数： 19

質問No.	昨年平均	今年平均	公会計理論	政府・自治体会計論	非営利会計論	国際公会計制度論
1	4.02	4.00	4.43	4.25	4.00	3.33
2	3.59	3.50	3.43	3.50	3.40	3.67
3	3.89	3.97	4.43	4.50	3.60	3.33
4	3.66	3.86	4.57	4.25	3.60	3.00
5	3.85	4.00	4.43	4.25	4.00	3.33
6	3.87	3.85	4.29	4.00	3.80	3.33
7	3.42	3.55	4.29	3.50	3.40	3.00
8	3.64	3.78	4.57	3.75	3.80	3.00
9	3.47	3.72	4.43	3.00	3.80	3.67
10	3.41	3.77	4.43	3.25	3.40	4.00
11	3.61	3.73	4.43	3.75	3.40	3.33
12	4.62	4.06	4.71	4.25	3.60	3.67
13	1.75	2.66	2.71	2.00	3.60	2.33
14	2.25	2.49	2.86	2.50	2.60	2.00
15	3.70	3.47	4.29	4.00	2.60	3.00
16	3.44	3.63	4.43	3.50	3.60	3.00
17	3.24	3.70	4.33	3.00	3.80	3.67
回答者数	22	19	7	4	5	3



受講生の傾向

共通して受講者数が少ない。必ずしも受講する必要のない科目であることから、逆に受講者は当該科目に意欲が高い者が多いとも考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

体系として確立していないため、学生は書物等で触れる機会が少ない分野である。実は身近なところで関わりがあることを紹介したり、なぜこの分野が重要なのかを説明する、あるいは諸説を紹介したりする工夫がなされた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

少なくとも前向きに講義を理解しようとする者に対しては質問する等して理解度を確認しつつ進めたい。

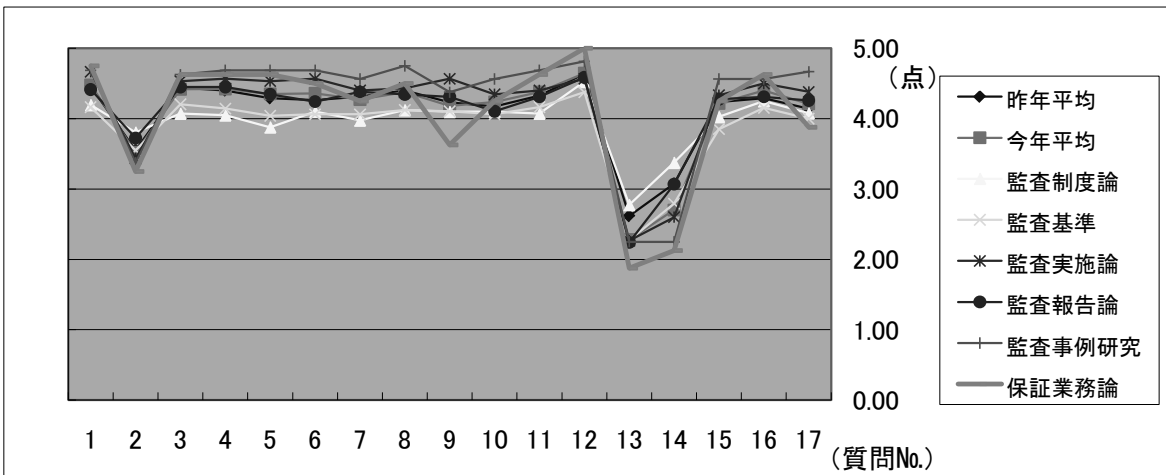
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講者の理解度を確認しつつ、関心の所在も踏まえて、講義内容を構成していきたい。

系： 監査
 受講者数：215

回答者数： 174

質問No.	昨年平均	今年平均	監査制度論	監査基準	監査実施論	監査報告論	監査事例研究	保証業務論
1	4.46	4.48	4.20	4.16	4.67	4.41	4.69	4.75
2	3.55	3.52	3.80	3.55	3.43	3.72	3.38	3.25
3	4.44	4.42	4.07	4.20	4.53	4.45	4.63	4.63
4	4.40	4.42	4.05	4.14	4.57	4.45	4.69	4.63
5	4.29	4.35	3.88	4.04	4.53	4.34	4.69	4.63
6	4.26	4.36	4.10	4.06	4.57	4.24	4.69	4.50
7	4.31	4.27	3.98	4.06	4.40	4.38	4.56	4.25
8	4.40	4.38	4.12	4.12	4.43	4.34	4.75	4.50
9	4.23	4.18	4.10	4.10	4.57	4.31	4.38	3.63
10	4.17	4.24	4.10	4.06	4.34	4.10	4.56	4.25
11	4.33	4.38	4.07	4.16	4.40	4.31	4.69	4.63
12	4.64	4.64	4.53	4.38	4.57	4.59	4.81	5.00
13	2.61	2.28	2.78	2.27	2.27	2.24	2.25	1.88
14	3.08	2.70	3.38	2.79	2.60	3.07	2.25	2.13
15	4.24	4.22	4.03	3.85	4.33	4.28	4.56	4.25
16	4.29	4.40	4.25	4.15	4.50	4.31	4.56	4.63
17	4.14	4.21	4.08	4.00	4.38	4.26	4.67	3.88
回答者数	186	174	41	49	30	30	16	8



受講生の傾向

受講生の出席状況(項目12)は、最も低いもので80%、高いもので100%近くとなっており、「監査制度」及び「監査基準」という基本科目(必修科目)以外の科目でも、受講生の参加意欲は非常に高かったと評価できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全ての科目で、講義に際して必要な資料を用意・配布するとともに、学生のモラルを向上させるための措置を講じており、これは2010年度版「出講の手引き」に沿った講義方式といえる。また2つの基本科目以外は発展科目および応用科目であるため、「監査事例研究」をはじめとして学生によるケース・スタディやプレゼンテーションとディスカッションで行なわれている。

ただし、基本科目である「監査基準」と「監査制度論」において、教員側に関する評価項目が去年実績ならびに他の科目よりも評価が相対的に低くなっていることから、講義の工夫が例年通り行なわれた割に学生側の一部に適切に対応しきれなかった者がいると解される。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

昨年度改善した授業評価全体を通しての学生からの評価は、教員の交代を含め教員側の教育サービスへの対応が評価された結果と理解される。今後の対応としては、全科目に共通する傾向として予習(項目13)と復習(項目14)について、それらの時間をより多く採らせるための措置として、小テストや課題を課すことが考えられる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

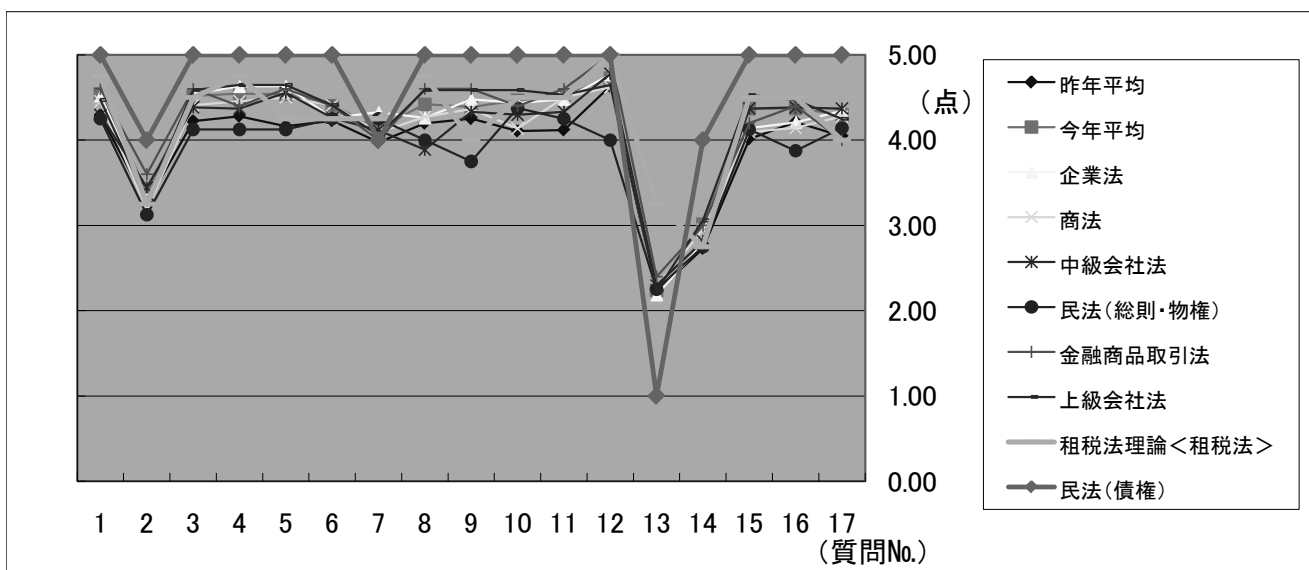
教育効果の高止まりが期待されるべき基本科目について、モラル向上を志向したにもかかわらず、昨年度と異なり今年度の評価の相対的低下が生じたのは残念である。このため、年度毎に履修学生の質の違いを考慮した講義計画が必要となると考えられる。

系： 法律

受講者数： 184

回答者数： 130

質問No.	昨年平均	今年平均	企業法	商法	中級会社法	民法(総則・物権)	金融商品取引法	上級会社法	租税法理論<租税法>	民法(債権)
1	4.29	4.54	4.52	4.45	4.30	4.25	4.60	4.47	4.75	5.00
2	3.26	3.40	3.30	3.18	3.44	3.13	3.60	3.29	3.25	4.00
3	4.22	4.52	4.54	4.41	4.38	4.13	4.60	4.59	4.50	5.00
4	4.28	4.55	4.63	4.45	4.37	4.13	4.40	4.65	4.75	5.00
5	4.16	4.54	4.63	4.50	4.56	4.13	4.60	4.65	4.25	5.00
6	4.23	4.41	4.26	4.41	4.26	4.25	4.40	4.41	4.25	5.00
7	3.97	4.14	4.33	4.09	4.12	4.25	4.00	4.06	4.25	4.00
8	4.20	4.42	4.26	4.27	3.89	4.00	4.60	4.59	4.75	5.00
9	4.25	4.39	4.48	4.36	4.33	3.75	4.60	4.59	4.00	5.00
10	4.11	4.47	4.43	4.14	4.30	4.38	4.40	4.59	4.50	5.00
11	4.12	4.52	4.48	4.50	4.33	4.25	4.60	4.53	4.50	5.00
12	4.63	4.73	4.77	4.62	4.78	4.00	5.00	4.65	5.00	5.00
13	2.22	2.24	2.19	2.29	2.30	2.25	2.40	2.24	3.25	1.00
14	2.73	3.01	2.79	2.95	2.81	2.75	3.00	3.06	2.75	4.00
15	4.01	4.37	4.14	4.10	4.37	4.13	4.20	4.53	4.50	5.00
16	4.21	4.37	4.21	4.14	4.38	3.88	4.40	4.47	4.50	5.00
17	4.04	4.30	4.34	4.28	4.37	4.14	4.00	4.25	4.00	5.00
回答者数	151	130	46	22	27	8	5	17	4	1



受講生の傾向

各法律系の科目に共通する点は、初学者が多い点と予習復習に充てる時間が不十分な点(項目13と14を参照)であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

法律系のいずれの科目においても、法の具体的な事実関係への当てはめの際、図解等を用い、受講生の理解を促す試みがなされている点は共通していた。また、法律用語の解説も講義内でその都度フォローしつつ、講義を行っていた点も共通していた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

企業法に関しては、会社法の基本思考に講義の重点を置き、商法については、その範囲の狭さゆえ、商法の枠内で完結させることを目指し、中級会社法については、企業法との連続性を高めることに注力する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

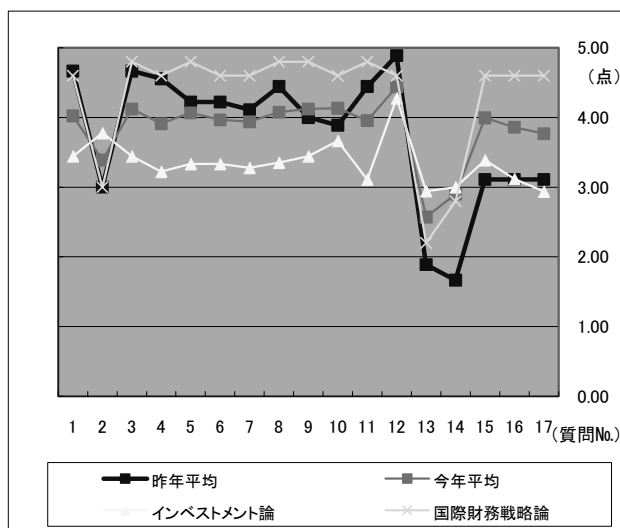
法律系科目を苦手とする受講生が多い現状を踏まえ、法の具体的な事実関係への当てはめをより多く行い、受講生の苦手意識を改善していきたい。

系： ファイナンス

受講者数： 29

回答者数： 23

質問No.	昨年平均	今年平均	インベストメント論	国際財務戦略論
1	4.67	4.02	3.44	4.60
2	3.00	3.39	3.78	3.00
3	4.67	4.12	3.44	4.80
4	4.56	3.91	3.22	4.60
5	4.22	4.07	3.33	4.80
6	4.22	3.97	3.33	4.60
7	4.11	3.94	3.28	4.60
8	4.44	4.08	3.35	4.80
9	4.00	4.12	3.44	4.80
10	3.89	4.13	3.67	4.60
11	4.44	3.96	3.11	4.80
12	4.89	4.44	4.28	4.60
13	1.89	2.57	2.94	2.20
14	1.67	2.90	3.00	2.80
15	3.11	3.99	3.39	4.60
16	3.11	3.86	3.12	4.60
17	3.11	3.77	2.94	4.60
回答者数	7	23	18	5



受講生の傾向

ファイナンス系は基本的に経済学と同様に数学を基礎としている。公認会計士試験の選択科目であるファイナンス論は、試験問題に合わせるため、どうしても数学的な説明が必要となっているが、数学の基礎的な能力が不足している学生が多く、授業に必ずしもついてきていない学生が多かった。一方、国際財務戦略論は興味を持った学生が来たこともあり、積極的に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

インベストメント論に関して、最初に、公認会計士試験の経営学の財務管理に当たること、少なくとも高校レベルの数学が必要であることを試験問題を示しながら説明した。しかしながら、高校レベルの数学を忘れていた学生や、理解できていない学生が多数だったため、基礎的な数学から解説を行うようにした。国際財務戦略論について、小テストの代わりにレポートを出し、次の時間にそれについてディスカッションをさせるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

国際財務戦略論について、具体例を増やし、財務戦略にかかるディスカッションの時間をとるようにする。小テストよりもレポートという形でより深い学習を行わせるようにする。

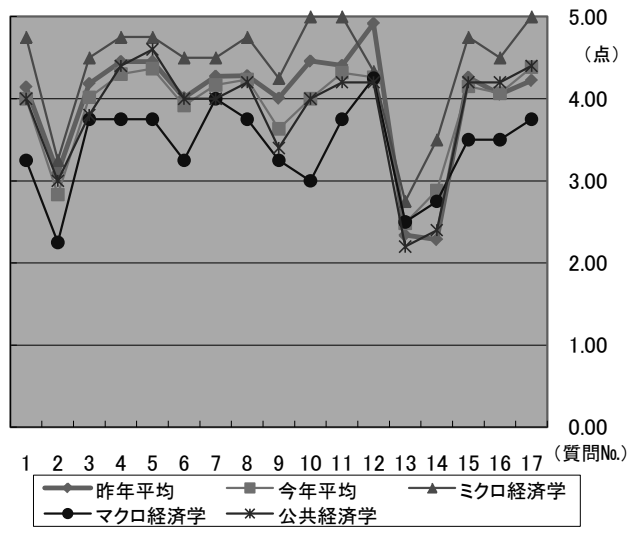
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ファイナンス論について、公認会計士試験の経営学の「財務管理」に当たることについて、シラバスで明示するとともに、少なくとも高校レベルの数学について基礎から復習するようにしたい。国際財務戦略論について、レポートについて、ディスカッションの前と後で2回書かせるようにして、理解が高まったかどうかを確かめるようにしたい

系： 経済・統計

受講者数： 50 回答者数： 13

質問No.	昨年平均	今年平均	ミクロ経済学	マクロ経済学	公共経済学
1	4.14	4.00	4.75	3.25	4.00
2	3.10	2.83	3.25	2.25	3.00
3	4.18	4.02	4.50	3.75	3.80
4	4.45	4.30	4.75	3.75	4.40
5	4.45	4.37	4.75	3.75	4.60
6	4.01	3.92	4.50	3.25	4.00
7	4.27	4.17	4.50	4.00	4.00
8	4.28	4.23	4.75	3.75	4.20
9	4.01	3.63	4.25	3.25	3.40
10	4.46	4.00	5.00	3.00	4.00
11	4.40	4.32	5.00	3.75	4.20
12	4.92	4.26	4.33	4.25	4.20
13	2.34	2.48	2.75	2.50	2.20
14	2.29	2.88	3.50	2.75	2.40
15	4.26	4.15	4.75	3.50	4.20
16	4.06	4.07	4.50	3.50	4.20
17	4.22	4.38	5.00	3.75	4.40
回答者数	16	13	4	4	5



受講生の傾向

経済・統計系の講義に出席している受講生は、経済学や数学に興味を持つ者が多い。つまり、学部時代に経済学部や理工系の学部出身者が多い。しかし、中には経済学や数学とまったく縁のなかった学生も若干名受講している。したがって、その経済学や数学と縁のなかった受講生に経済・統計系の科目に興味を持たせるような授業を行うことを常に心掛けている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートでは、経済学に興味を持つ受講生が増えてきたことが分かったので、そのような学生をさらに増やし、さらに能力を高めめる工夫をした。具体的には、まず前半の授業では基本的な知識の説明を繰り返し行い、基礎が理解されたと思われる段階から内容を高めてやや難度の高い問題を説明した。授業を広範囲にするよりも、範囲を限定し、内容を掘り下げる工夫を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

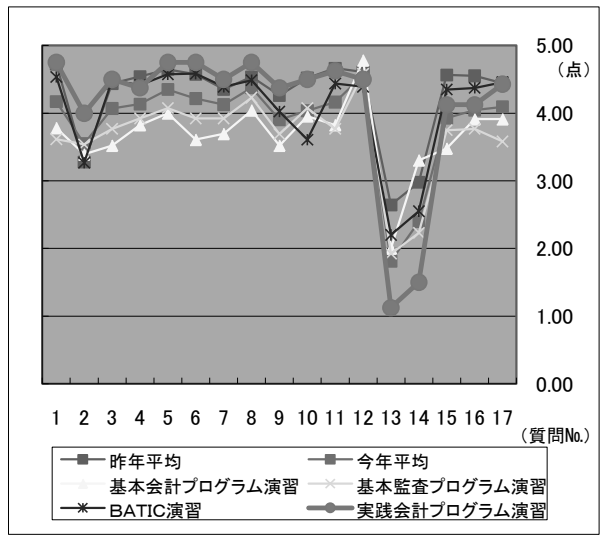
昨年度の「今後の対応」では、授業を受講して基礎的な知識を習得した学生でも、やや難易度の高い問題には手を焼く傾向があったので、基礎的な理解と難易度の高い問題とのギャップを埋める工夫を行うことを今後の対応とした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

基礎的な知識を習得した受講生が、やや難易度の高い問題に手を焼いたことがあったことから、今年は講義の範囲を絞り込み、基礎的な学習を繰り返して、その後やや難易度の高い問題に取り組ませた。その結果、小テストや宿題は前年よりもはるかにいい結果を得た。したがって、来年もこの方針を継続する計画である。

系: IT・ビジネス
 受講者数: 102 回答者数: 85

質問No.	昨年平均	今年平均	基本会計プログラム演習	基本監査プログラム演習	BATIC演習	実践会計プログラム演習
1	4.73	4.17	3.78	3.62	4.54	4.75
2	3.28	3.55	3.39	3.54	3.27	4.00
3	4.44	4.07	3.52	3.77	4.49	4.50
4	4.54	4.13	3.83	3.92	4.41	4.38
5	4.65	4.35	4.00	4.08	4.58	4.75
6	4.57	4.22	3.61	3.92	4.59	4.75
7	4.35	4.13	3.70	3.92	4.39	4.50
8	4.54	4.38	4.04	4.23	4.49	4.75
9	4.26	3.90	3.52	3.69	4.02	4.38
10	4.52	4.04	3.96	4.08	3.61	4.50
11	4.66	4.16	3.83	3.77	4.44	4.63
12	4.61	4.56	4.78	4.58	4.39	4.50
13	2.64	1.81	2.00	1.92	2.20	1.13
14	2.98	2.40	3.30	2.23	2.55	1.50
15	4.56	3.93	3.48	3.75	4.35	4.13
16	4.55	4.05	3.91	3.77	4.38	4.13
17	4.44	4.10	3.91	3.58	4.46	4.43
回答者数	28	85	23	13	41	8



受講生の傾向

各講義の受講生の出席率は全体的に高いが、予習・復習にかかる時間は多くないようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義科目の性質上、実務を意識し、受講生が関心を持つように講義を行っている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

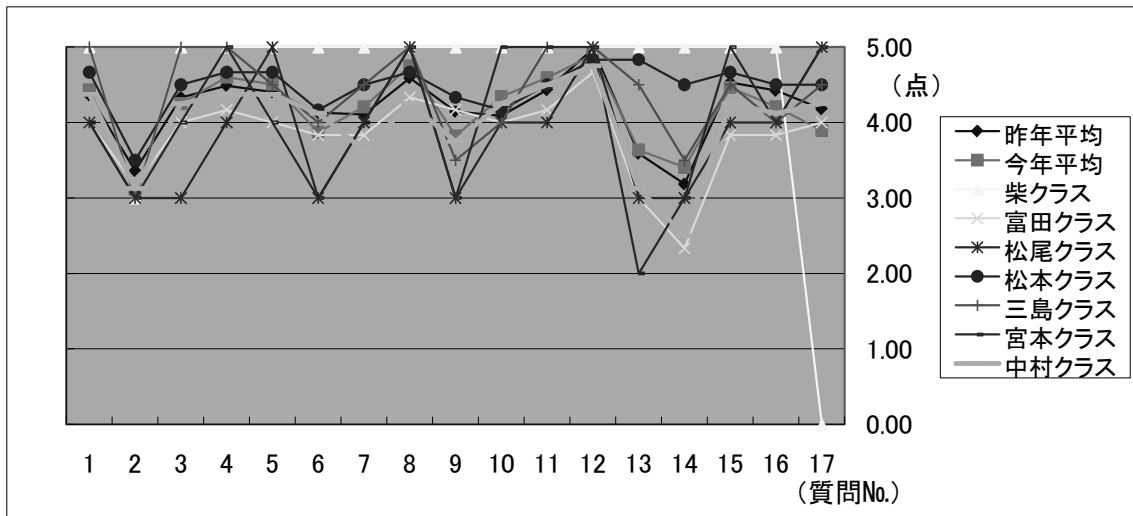
授業時間内での質疑応答に対して、相対的に積極的な受講生とそうでないものがあり、全ての学生に対して発言機会を与える方法を考えなければならない。(基本監査プログラム演習)アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、来年度以降もより実務経験を踏まえた講義を実施する(BATIC演習)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の発言を促したり、机間巡回をするなどし、受講生の理解度を随時確認しつつ、より実務を意識できるような講義展開を図る。

系:個別演習科目(アカデミック・ソリューションA)
 受講者数: 40 回答者数: 25

質問No.	昨年平均	今年平均	柴クラス	富田クラス	松尾クラス	松本クラス	三島クラス	宮本クラス	中村クラス
1	4.36	4.43	5.00	4.00	4.00	4.67	5.00	4.00	4.38
2	3.36	3.11	3.00	3.17	3.00	3.50	3.00	3.00	3.13
3	4.33	4.25	5.00	4.00	3.00	4.50	5.00	4.00	4.25
4	4.49	4.60	5.00	4.17	4.00	4.67	5.00	5.00	4.38
5	4.40	4.51	5.00	4.00	5.00	4.67	4.50	4.00	4.38
6	4.13	3.88	5.00	3.83	3.00	4.17	4.00	3.00	4.13
7	4.11	4.21	5.00	3.83	4.00	4.50	4.50	4.00	3.63
8	4.59	4.75	5.00	4.33	5.00	4.67	5.00	5.00	4.25
9	4.15	3.82	5.00	4.17	3.00	4.33	3.50	3.00	3.75
10	4.09	4.35	5.00	4.00	4.00	4.17	4.00	5.00	4.25
11	4.43	4.60	5.00	4.17	4.00	4.50	5.00	5.00	4.50
12	4.97	4.89	5.00	4.67	5.00	4.83	5.00	5.00	4.75
13	3.59	3.64	5.00	3.00	3.00	4.83	4.50	2.00	3.13
14	3.18	3.40	5.00	2.33	3.00	4.50	3.50	3.00	2.50
15	4.53	4.46	5.00	3.83	4.00	4.67	4.50	5.00	4.25
16	4.42	4.21	5.00	3.83	4.00	4.50	4.00	4.00	4.13
17	4.18	3.89	無回答	4.00	5.00	4.50	4.50	5.00	4.25
回答者数	42	25	1	6	1	6	2	1	8



受講生の傾向

各クラスの受講生の出席率は高く、積極的に受講しているようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

一年次春学期での開講であるため、学生の積極性を促し、内容的には高度になりすぎないようにした。

今後の対応

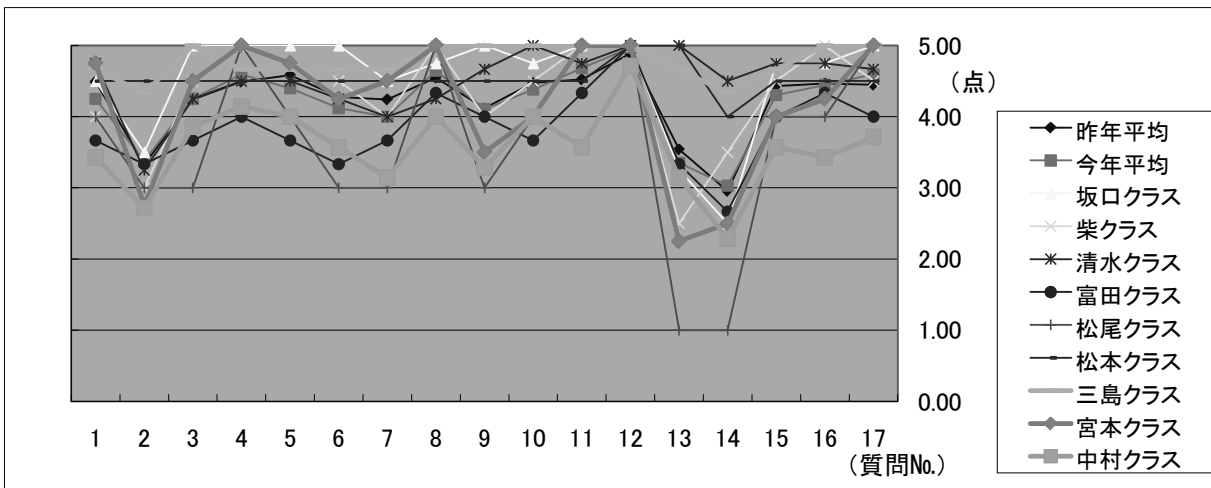
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、アカデミック・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい。

系:個別演習科目(アカデミック・ソリューションB)
 受講者数: 38 回答者数: 30

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	柴クラス	清水クラス	富田クラス	松尾クラス	松本クラス	三島クラス	宮本クラス	中村クラス
1	4.49	4.25	4.50	4.00	4.75	3.67	4.00	4.50	4.67	4.75	3.43
2	3.33	3.38	3.50	3.00	3.25	3.33	3.00	4.50	4.33	2.75	2.71
3	4.24	4.25	5.00	4.50	4.25	3.67	3.00	4.50	5.00	4.50	3.86
4	4.49	4.59	5.00	4.50	4.50	4.00	5.00	4.50	4.67	5.00	4.14
5	4.58	4.40	5.00	4.50	4.50	3.67	4.00	4.50	4.67	4.75	4.00
6	4.28	4.12	5.00	4.50	4.25	3.33	3.00	4.50	4.67	4.25	3.57
7	4.24	4.00	4.50	4.00	4.00	3.67	3.00	4.50	4.67	4.50	3.14
8	4.55	4.65	4.75	5.00	4.25	4.33	5.00	4.50	5.00	5.00	4.00
9	4.12	4.11	5.00	4.00	4.67	4.00	3.00	4.50	5.00	3.50	3.29
10	4.47	4.38	4.75	4.50	5.00	3.67	4.00	4.50	5.00	4.00	4.00
11	4.52	4.68	5.00	5.00	4.75	4.33	5.00	4.50	5.00	5.00	3.57
12	4.89	4.97	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.71
13	3.54	3.35	3.25	2.50	5.00	3.33	1.00	5.00	4.67	2.25	3.14
14	2.96	3.03	2.50	3.50	4.50	2.67	1.00	4.00	4.33	2.50	2.29
15	4.43	4.30	4.75	4.50	4.75	4.00	4.00	4.50	4.67	4.00	3.57
16	4.47	4.45	4.75	5.00	4.75	4.33	4.00	4.50	5.00	4.25	3.43
17	4.45	4.60	5.00	4.50	4.67	4.00	5.00	4.50	5.00	5.00	3.71
回答者数	47	30	4	2	4	3	1	2	3	4	7



受講生の傾向

各クラスの受講生の出席率は高く、アカデミック・ソリューションAのクラスを引き続き受講する学生が多く、内容的にはより高度な部分も習得しつつあるようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生が積極的に参加・ディスカッションし、自学が進むよう留意した。

今後の対応

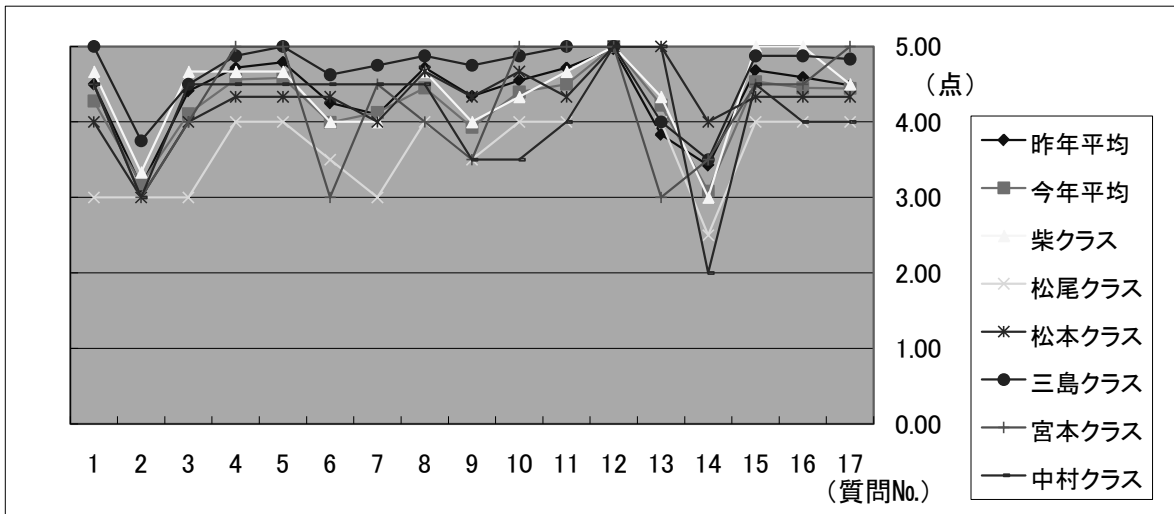
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、アカデミック・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションA)
 受講者数: 25 回答者数: 20

質問No.	昨年平均	今年平均	柴クラス	松尾クラス	松本クラス	三島クラス	宮本クラス	中村クラス
1	4.50	4.28	4.67	3.00	4.00	5.00	4.50	4.50
2	3.15	3.18	3.33	3.00	3.00	3.75	3.00	3.00
3	4.41	4.11	4.67	3.00	4.00	4.50	4.00	4.50
4	4.72	4.56	4.67	4.00	4.33	4.88	5.00	4.50
5	4.79	4.58	4.67	4.00	4.33	5.00	5.00	4.50
6	4.25	3.99	4.00	3.50	4.33	4.63	3.00	4.50
7	4.10	4.13	4.00	3.00	4.00	4.75	4.50	4.50
8	4.72	4.45	4.67	4.00	4.67	4.88	4.00	4.50
9	4.34	3.93	4.00	3.50	4.33	4.75	3.50	3.50
10	4.55	4.40	4.33	4.00	4.67	4.88	5.00	3.50
11	4.72	4.50	4.67	4.00	4.33	5.00	5.00	4.00
12	4.97	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
13	3.83	4.22	4.33	4.00	5.00	4.00	3.00	5.00
14	3.43	3.08	3.00	2.50	4.00	3.50	3.50	2.00
15	4.68	4.53	5.00	4.00	4.33	4.88	4.50	4.50
16	4.59	4.45	5.00	4.00	4.33	4.88	4.50	4.00
17	4.48	4.44	4.50	4.00	4.33	4.83	5.00	4.00
回答者数	25	20	3	2	3	8	2	2



受講生の傾向

各クラスの受講生の出席率は高かった。受講生間に一年次の勉学程度によると思われる習得度に差があるケースが見られる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

事前に課題・設問を与えるなどして、受講生が講義時間において積極的に参加できるよう留意した。

今後の対応

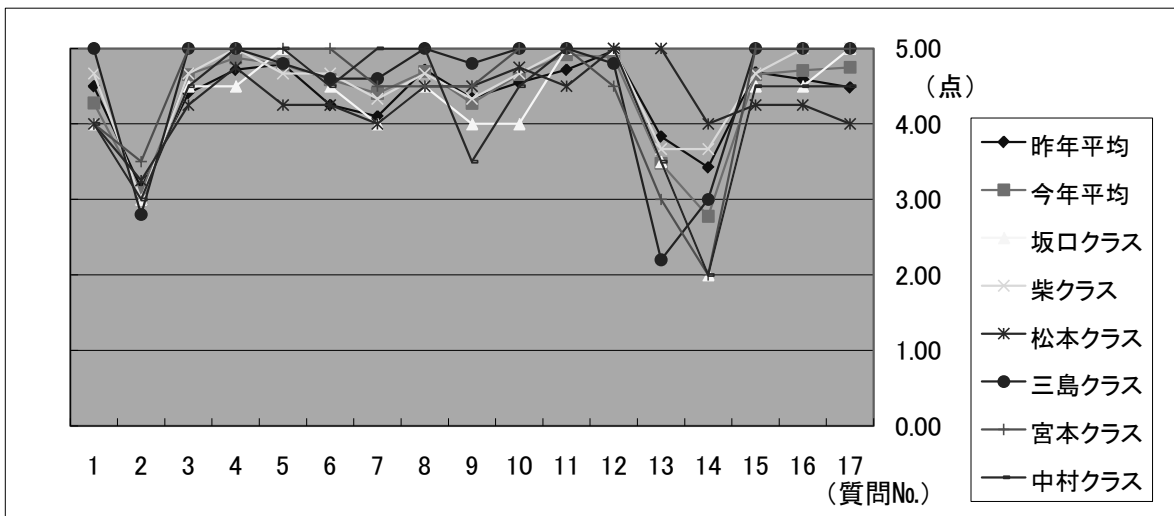
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生が積極的に学習できるよう工夫するとともに、扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、プロフェッショナル・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションB)
 受講者数: 29 回答者数: 18

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	柴クラス	松本クラス	三島クラス	宮本クラス	中村クラス
1	4.50	4.28	4.00	4.67	4.00	5.00	4.00	4.00
2	3.15	3.09	3.00	3.00	3.25	2.80	3.50	3.00
3	4.41	4.65	4.50	4.67	4.25	5.00	5.00	4.50
4	4.72	4.88	4.50	5.00	4.75	5.00	5.00	5.00
5	4.79	4.79	5.00	4.67	4.25	4.80	5.00	5.00
6	4.25	4.59	4.50	4.67	4.25	4.60	5.00	4.50
7	4.10	4.41	4.00	4.33	4.00	4.60	4.50	5.00
8	4.72	4.69	4.50	4.67	4.50	5.00	4.50	5.00
9	4.34	4.27	4.00	4.33	4.50	4.80	4.50	3.50
10	4.55	4.65	4.00	4.67	4.75	5.00	5.00	4.50
11	4.72	4.92	5.00	5.00	4.50	5.00	5.00	5.00
12	4.97	4.88	5.00	5.00	5.00	4.80	4.50	5.00
13	3.83	3.48	3.50	3.67	5.00	2.20	3.00	3.50
14	3.43	2.78	2.00	3.67	4.00	3.00	2.00	2.00
15	4.68	4.65	4.50	4.67	4.25	5.00	5.00	4.50
16	4.59	4.71	4.50	5.00	4.25	5.00	5.00	4.50
17	4.48	4.75	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	4.50
回答者数	25	18	2	3	4	5	2	2



受講生の傾向

各クラスの受講生の出席率は高く、積極的に取り組んでいた。クラスによっては、これまでの勉強程度によるとと思われる習得度に受講生間で差があるケースが見られる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

事前に課題・設問を与え、予習に必要であればある程度の説明を追加するなどして、受講生が講義時間において積極的に参加できるよう留意した。

今後の対応

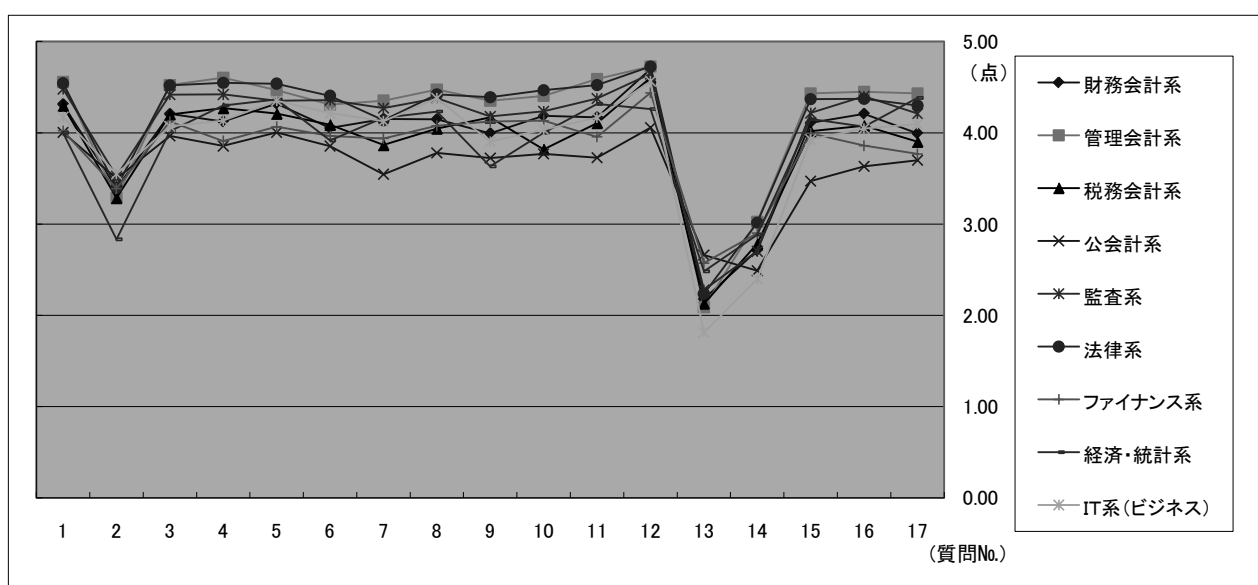
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生が最終学期として学習できるよう工夫するとともに、扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、プロフェッショナル・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい。

系列平均

質問No.	財務会計系	管理会計系	税務会計系	公会計系	監査系	法律系	経営系	ファイナンス系	経済・統計系	IT系(ビジネス)
1	4.31	4.56	4.30	4.00	4.48	4.54	-	4.02	4.00	4.17
2	3.39	3.29	3.29	3.50	3.52	3.40	-	3.39	2.83	3.55
3	4.21	4.52	4.20	3.97	4.42	4.52	-	4.12	4.02	4.07
4	4.12	4.60	4.27	3.86	4.42	4.55	-	3.91	4.30	4.13
5	4.32	4.47	4.21	4.00	4.35	4.54	-	4.07	4.37	4.35
6	4.05	4.31	4.09	3.85	4.36	4.41	-	3.97	3.92	4.22
7	4.15	4.35	3.87	3.55	4.27	4.14	-	3.94	4.17	4.13
8	4.15	4.47	4.05	3.78	4.38	4.42	-	4.08	4.23	4.38
9	3.99	4.35	4.17	3.72	4.18	4.39	-	4.12	3.63	3.90
10	4.18	4.40	3.82	3.77	4.24	4.47	-	4.13	4.00	4.04
11	4.17	4.59	4.11	3.73	4.38	4.52	-	3.96	4.32	4.16
12	4.70	4.73	4.60	4.06	4.64	4.73	-	4.44	4.26	4.56
13	2.18	2.09	2.13	2.66	2.28	2.24	-	2.57	2.48	1.81
14	2.71	3.03	2.78	2.49	2.70	3.01	-	2.90	2.88	2.40
15	4.11	4.43	4.02	3.47	4.22	4.37	-	3.99	4.15	3.93
16	4.21	4.45	4.08	3.63	4.40	4.37	-	3.86	4.07	4.05
17	3.99	4.43	3.90	3.70	4.21	4.30	-	3.77	4.38	4.10
回答者数	252	110	70	19	174	130	-	7	13	85



受講生の傾向

昨年度も指摘したとおり、どの科目も出席率が高いのに対して、予習・復習にあまり時間をかけていないという実態に大きな変化はない。講義の進度(項目2)であるが、公会計系、監査系、IT系が相対的に速いと感じられている。学生による授業評価に関しては、公会計系とファイナンス系が特に低い評価となっているが、公会計系に関しては特に国際公会計制度論が、ファイナンス系に関してはインベストメント論の低評価が影響しているようである。ただし、いずれの系も回答数が低いために、評価に関する解釈には注意を必要とする。

今後の対応

系列別、あるいは、全系列平均でみると、個別科目の特徴が見えなくなるので、この評価にとどまらず、個別科目の担当教員による自己評価を合わせて読む必要がある。この点は昨年指摘した通りである。ただ、管理会計系と法律系の評価が高いところから、FD活動においてその理由を明らかにして、他の系にも好影響を与える必要がある。

Ⅲ. 2010 年度授業評価アンケートフォーム

2010年度 関西大学「会計専門職大学院学生による授業評価」アンケート

会計専門職大学院 FD 委員会

このアンケートは、授業の改善を目的として実施するものであり、担任者が授業をより一層充実するための資料として利用するものです。したがって、皆さんの成績評価にはまったく関係がありませんので、正直な声をお聞かせください。

- ・アンケートの回答は、マークシートに記入してください。
- ・授業科目、クラス及び担任者を記入してください。
- ・このアンケートは匿名です。あなたの氏名は書く必要はありません。

I. 授業の評価

II. 授業への取組み

I. 授業の評価

- | | | | | |
|---------|----------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 1 | 授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- | | | | | |
|----------|-----------------|-----------|-------|----------|
| 2 | この授業の進度はどうでしたか。 | | | |
| 5. かなり早い | 4. 早い | 3. ちょうどよい | 2. 遅い | 1. かなり遅い |
- | | | | | |
|---------|--------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 3 | この授業は教員によってよく準備されていましたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- | | | | | |
|---------|-------------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 4 | 学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- | | | | | |
|---------|----------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 5 | この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- | | | | | |
|---------|---------------------|--------------|-----------|-----------|
| 6 | 教科書・配布資料の利用は適切でしたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- | | | | | |
|---------|----------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 7 | ホワイトボードやOHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- | | | | | |
|---------|-------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 8 | 教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- | | | | | |
|---------|--------------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 9 | 宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- | | | | | |
|---------|---------------------|--------------|-----------|-----------|
| 10 | この授業のクラスの規模は適切でしたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- | | | | | |
|---------|------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 11 | 全体としてこの授業を受講して満足しましたか。 | | | |
| 5. 強く思う | 4. そう思う | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |

II. 授業への取組み

12 | この授業への出席状況はどうでしたか。

5. 90%以上 4. 70%以上 3. 50%以上 2. 30%以上 1. 30%未満

13 | この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。

5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間

14 | この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。

5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間

15 | この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

16 | この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

17 | あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

—以上—

ご協力ありがとうございました。

IV. 講演会

2010 年度 関西大学会計研究科客員教授・教育顧問講演会開催一覧

- 関西学院大学商学部教授 平松一夫氏（教育顧問兼客員教授）
演題「公認会計士制度の展望とアカウンティング・スクール」
[平成 22 年 4 月 3 日（土）開催]

- 第 2 回会計ルネッサンス・フォーラム [平成 22 年 6 月 23 日（水）開催]
テーマ「わが国公認会計士制度改革の行方 ～今、求められる専門職業会計人～」
 - 青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科教授 八田進二氏（客員教授）
演題「新たな制度と教育から考える」
 - 中央大学大学院戦略経営研究科特任教授 藤沼亜起氏（客員教授）
演題「国際的な視点から考える」
 - 早稲田大学商学学術院教授 脇田良一氏（客員教授）
演題「監査業務の現状から考える」

- アムステルダム自由大学教授 ヘンリー・デッカー氏（FD 講演会）
演題「管理会計研究の最新動向」 [平成 22 年 8 月 4 日（水）開催]

- 株式会社みずほ銀行頭取 西堀利氏（客員教授）
演題「日本経済 これからどうなる」 [平成 22 年 10 月 13 日（水）開催]

- 慶応義塾大学教授、元総務大臣・郵政民営化担当大臣 竹中平蔵氏（客員教授）
演題「変動する世界経済と日本」 [平成 22 年 11 月 13 日（土）開催]

- 前日本公認会計士協会会長 増田宏一氏（教育顧問）
演題「職業としての公認会計士の社会的意義と魅力」 [平成 22 年 12 月 1 日（水）開催]

- 参議院議員、日本学術会議員会員（政治学） 猪口邦子氏（客員教授）
演題「国際政治の新潮流と日本の対外政策」 [平成 23 年 1 月 17 日（月）開催]

- PHP 総合研究所コンサルティング・フェロー、元金融担当大臣 伊藤達也氏（客員教授）
演題「2011 年日本経済の課題と展望」 [平成 23 年 1 月 24 日（月）開催]

- 園木公認会計士事務所長、大阪市包括外部監査人 園木宏氏（客員教授）
演題「実務に見る財務諸表の実態－職業会計人として求められる力－」
[平成 23 年 3 月 26 日（土）開催]

**関西大学会計専門職大学院客員教授講演会
(平成 22 年度新入生指導行事)**

**講師 関西学院大学商学部教授 平松一夫氏
(教育顧問兼客員教授)**

**演題 「公認会計士制度の展望と
アカウンティング・スクール」**

**日時 平成 22 年 4 月 3 日 (土)
15 時 45 分 ~ 17 時 15 分**

場所 第 2 学舎 2 号館 C403 教室

第2回 会計ルネッサンス・フォーラム

主催: 関西大学大学院会計研究科

テーマ わが国公認会計士制度改革の行方
今、求められる専門職業会計人

日付:
2010年6月23日(水)

時間:
午後3時~午後6時

会場:
関西大学千里山キャンパス
第1学舎1号館
千里ホールA

参加費無料

- ◆ 八田 進二 先生
(関西大学大学院会計研究科客員教授 / 青山学院大学大学院会計プロ
フェッション研究科教授 / 会計大学院協会理事長)
「新たな制度と教育から考える」
- ◆ 藤沼 亜起 先生
(関西大学大学院会計研究科客員教授 / 中央大学大学院戦略経営研究
科特任教授 / 国際会計基準委員会財団評議員)
「国際的な視点から考える」
- ◆ 脇田 良一 先生
(関西大学大学院会計研究科客員教授 / 早稲田大学商学学術院教授 /
前公認会計士・監査審査会常勤委員)
「監査業務の現状から考える」

司会: 松本 祥尚
(関西大学大学院会計研究科教授)



医師・弁護士と共にわが国における三大国家資格と言われてきた公認会計士の資格制度が大きく変わろうとしています。既に金融庁において、公認会計士制度を改革・変更すべく「公認会計士制度に関する懇談会」が2009年12月より毎月開催され、この6月22日に取り纏め案が策定されることになっています。

2003年の公認会計士法改正によって試験制度を含む公認会計士制度が大きく変更されたことにより、わが国でも国際基準に則った会計大学院等の高度専門職業教育機関が設置され、その教育面や実務面での成果が問われる矢先の制度変更は、わが国における高度専門職業教育のあり方や、わが国公認会計士を含む高度職業会計人の国際的な地位や評価にも大きな影響を及ぼす可能性があります。

今回のフォーラムでは、正に進展しつつある公認会計士制度に関する懇談会における議論を踏まえ、今後のわが国公認会計士を含む高度職業会計人が、どのように育成され、その質を維持・向上させることが期待されているのかについて、3名のわが国会計・監査制度のキーパーソンの先生方にご討議頂くことに致しました。是非とも多くの皆様ご参加されますよう、心よりお待ち申し上げます。

2010年5月

関西大学大学院会計研究科 研究科長 柴 健次

関西大学

564-8680
大阪府吹田市山手町3-3-35

電話: 06-6368-1121(代表)
専門職大学院事務グループ
e-mail: kaikei@ml.kandai.jp

会計研究科 FD講演会

関西大学会計専門職大学院では、オランダのアムステルダム自由大学経済経営学部教授のヘンリー・デッカー氏をお招きし、下記のとおり、会計研究科教員(専任・非常勤)及び関係研究者を対象にFD講演会を開催いたします。

多数の方のご来聴をお待ちしています。

記

日時：8月4日(水)16:00～18:00

場所：第2学舎2号館7階会計研究科会議室

講師：ヘンリー・デッカー氏

(アムステルダム自由大学教授)

演題：「管理会計研究の最新動向」

お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121(代)
kaikai@ml.kandai.jp

西堀 利 客員教授 株式会社みずほ銀行頭取

関西大学会計専門職大学院では、みずほ銀行頭取の西堀 利氏をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

記

日時：平成 22 年 10 月 13 日（水）16:20～17:50
（第 5 時限）

場所：関西大学千里山キャンパス
第 2 学舎 2 号館 5 階 C 5 0 7 教室

演題：「日本経済 これからどうなる」

聴講自由 多数の方のご来聴をお待ちしています。
事前の申込みは不要です。



第 2 学舎 2 号館

正門



お問合せ先：会計専門職大学院
電話 06-6368-1121(代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

会計専門職大学院 竹中平蔵 客員教授講演会

会計専門職大学院では、慶応義塾大学教授、元総務大臣・郵政民営化担当大臣の竹中平蔵客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。学部生・大学院生・教職員・学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

記

日時：11月13日（土）10:40～12:10

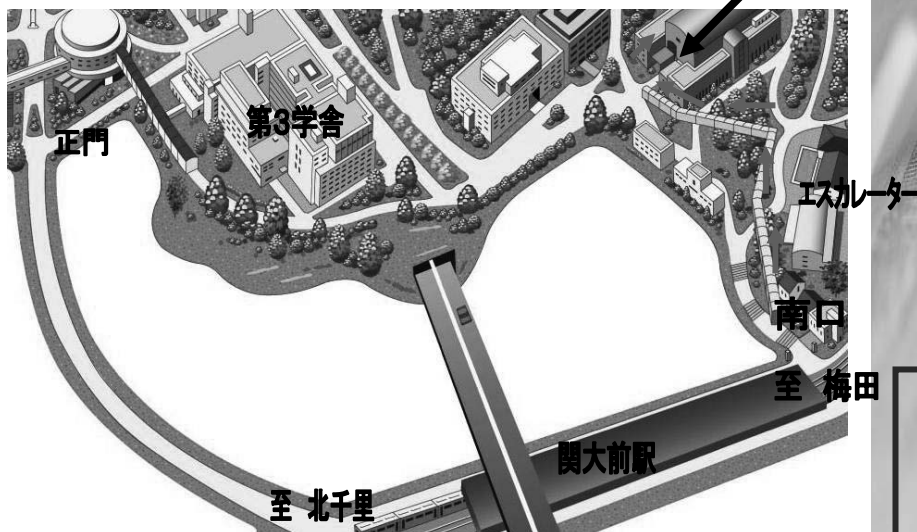
場所：千里山キャンパス 100周年記念会館ホール

講師：竹中平蔵氏（関西大学会計専門職大学院客員教授）

演題：「変動する世界経済と日本」

◆ 聴講自由・事前申込は不要です。

100周年記念会館



お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121(代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>



会計専門職大学院

増田宏一 教育顧問講演会

会計専門職大学院では、前日本公認会計士協会会長の増田宏一会計専門職大学院教育顧問お招きし、下記のとおり講演会を開催します。

学部生・大学院生・教職員・学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

記

日時：12月1日（水）16:20～17:50

場所：千里山キャンパス 第2学舎2号館5階C507教室

講師：増田宏一氏（関西大学会計専門職大学院教育顧問）

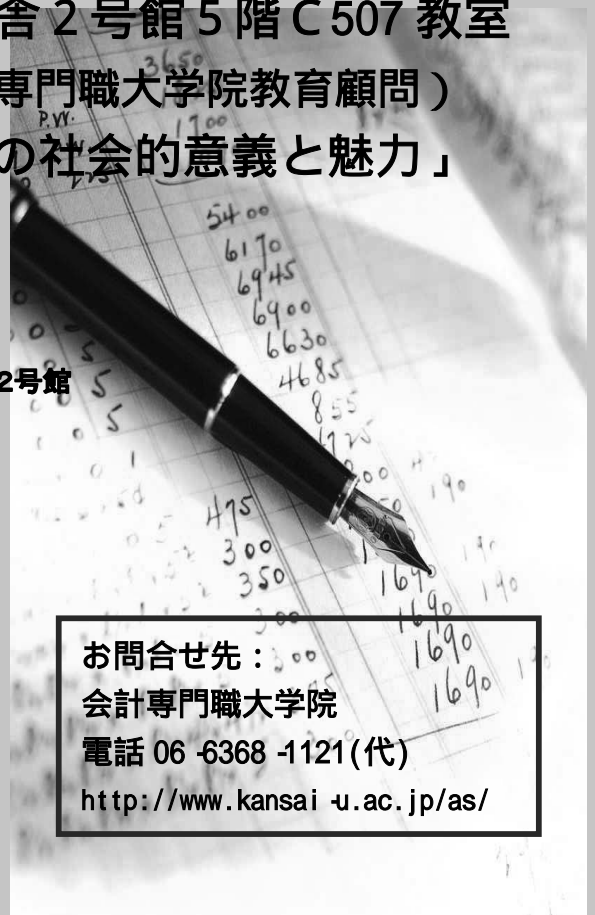
演題：「職業としての公認会計士の社会的意義と魅力」

聴講自由・事前申込は不要です。



第2学舎2号館

正門



お問合せ先：
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121(代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

猪口邦子客員教授講演会

参議院議員、元内閣府特命担当大臣(少子化、男女共同参画)、日本学術会議会員(政治学)

関西大学会計専門職大学院では、参議院議員、元内閣府特命担当大臣(少子化、男女共同参画)、日本学術会議会員(政治学)の猪口邦子氏をお招きし、講演会を開催します。

記

日時：平成 23 年 1 月 17 日(月)
16:20 ~ 17:50 (第 5 時限)

場所：関西大学千里山キャンパス
第 2 学舎 2 号館 5 階 C 5 0 7 教室

演題：「国際政治の新潮流と
日本の対外政策」

聴講自由 多数の方のご来聴をお待ち
しています。

事前の申込みは不要です。



お問合せ先：会計専門職大学院
電話 06 -6368 -1121(代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

伊藤達也客員教授講演会

PHP総合研究所コンサルティング・フェロー、元金融担当大臣

関西大学会計専門職大学院では、PHP総合研究所コンサルティング・フェロー、元金融担当大臣の伊藤達也氏をお招きし、講演会を開催します。

記

日時：平成23年1月24日（月）
13:00～14:30（第3時限）
場所：関西大学千里山キャンパス
第2学舎2号館5階C507教室
演題：「2011年日本経済の課題と展望」

聴講自由 多数の方のご来聴を
お待ちしております。
事前の申込みは不要です。



お問合せ先：会計専門職大学院
電話 06-6368-1121(代)
<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

**関西大学会計専門職大学院客員教授講演会
（平成 23 年度入学予定者対象事前指導）**

**講師 園木公認会計士事務所長
大阪市包括外部監査人 園木宏氏
（客員教授）**

**演題 「実務に見る財務諸表の実態
- 職業会計人として求められる力 - 」**

**日時 平成 23 年 3 月 26 日（土）
11 時 30 分 ~ 13 時**

場所 第 2 学舎 2 号館 C507 教室

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0610